

2 0 0 2

# 授業概要

【シラバス】

## 保育科

白梅学園短期大学

SHIRAYAMA GAKUEN COLLEGE



## 目次 (保育科)

教養教育科目(1年)	1
ヒューマニズム論	3
総合科目・人間	4~6
総合科目・生命	7
現代とヒューマニズムⅠ(近代国家と戦争)	8
現代とヒューマニズムⅡ(消費社会と欲望)	9
現代とヒューマニズムⅢ(科学技術と生命)	10
人物研究Ⅰ(和泉式部)	11
人物研究Ⅱ(柳田国男)	12
人物研究Ⅲ(有島武郎)	13
心理学入門Ⅰ(心のしくみ)	14
心理学入門Ⅱ(性格と人間関係)	15
体の不思議	16
生物の世界と人間	17
人間と環境	18
生と死を考える	19
人間の生と性	20
生活と健康	21
教養体育(実技)	22~27
教養体育(講義)	28・29
外国語Ⅰ、Ⅱ	30~34
海外語学研修	35
情報処理入門	36~38
選択外国語 英会話(基礎)	39
選択外国語 ビジネス英語	40
選択外国語 時事英語	41
選択外国語 異文化コミュニケーション	42
言語とコミュニケーション	43
手話入門	44
文学芸術・フィクションと人間	45
造形美術とイメージーション	46
話し言葉の伝承	47
絵本・絵巻と物語表現	48
源氏物語の世界	49
近現代の日本文学	50
庶民の生活文化	51
現代の文化と風俗	52
現代英米の文学	53
世界の児童文学	54
比較文化論・近代文明と日本人	55
国境を越える民俗学	56
現代社会と人権	57
憲法と私たち(日本国憲法)	58
日本とアジアの近現代史	59
現代社会と教育	60
社会福祉の考え方	61
男と女・ジェンダーを考える	62
現代世界とマイノリティー	63
女性労働の問題	64
地域生活と家族	65

<b>専門教育科目(1年)</b>	67
社会福祉	69
地域の福祉	70
児童福祉	71
保育原理Ⅰ	72
保育原理Ⅱ	73
保育者論	74
教育原理	75
教育の思想と歴史	76
発達心理学	77
遊びの発達心理学	78
教育心理学	79
家族援助論	80
小児保健Ⅰ、Ⅱ	81
小児栄養Ⅰ	82
教育課程総論	83
保育内容総論	84
保育内容 健康	85
保育内容 言葉	86
乳児保育Ⅰ	87
音楽Ⅰ	88~90
図画工作	91
ゼミナールⅠ	92
幼稚園実習	93
実習指導	94
保育所実習Ⅰ	95
<b>教養教育科目(2年)</b>	97
海外語学研修	99
<b>専門教育科目(2年)</b>	101
社会福祉方法論	103
保育原理Ⅱ	104
養護原理Ⅰ	105
養護原理Ⅱ	106
小児保健Ⅱ	107
小児保健実習	108~110
小児栄養実習	111
精神保健	112
教育課程総論	113
保育内容 人間関係(社会行動)	114
保育内容 環境Ⅰ(自然認識)	115
保育内容 表現Ⅰ(文化行動)	116~118
保育内容 環境Ⅱ	119・120
保育内容 言葉Ⅱ	121
保育内容 表現Ⅱ	122~124
保育計画法	125・126
幼児教育の方法	127
乳児保育Ⅱ	128
養護内容	129
保育臨床相談	130

障害児保育	.....	131
家庭管理	.....	132
音楽Ⅰ	.....	133・134
音楽Ⅱ	.....	135~137
図画工作Ⅱ	.....	138
体育Ⅰ	.....	139
体育Ⅱ	.....	140
ゼミナールⅡ	.....	141~158
幼稚園実習	.....	159
実習指導	.....	160・161
保育所実習Ⅱ	.....	162
施設実習Ⅰ	.....	163
施設実習Ⅱ	.....	164



教養教育科目（1年）





【授業科目】 ヒューマニズム論	【担当者】 栗田廣美
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p style="text-align: center;">「ヒューマニズムは間違っている！」と言う人は多くはないが、 では、なぜ「ヒューマニズム」は「正しい」のか。</p> <p>「人間を大切にするのはアタリマエだ」では、「自分の思想」にも「学問」にもならない。そういう発想は、「世間的通念」に流されているだけなのではないか。「人間中心主義」こそが地球を危機に陥れた、とさえ言われている現在、「ヒューマニズム」は、本当に我々の「支え」になりうるのか。つまり、「現代に於けるヒューマニズム」は、可能なのか。</p> <p>「ヒューマニズムの精神」は、白梅学園「建学の理念」ともされているが、その「理念」自体も、自由な学問的立場で検証されねばならない。</p> <p>本講では、上記のような問題意識のもと、「近代以後の人間のあり方」を考えることを出発点として、現在、<u>何によって人間が圧迫されているか、何に抗って「人間を大切にする」のか</u>、というアクティブな問題に迫っていきたいと思っている。大学生になった諸君が、知的に、根源的に「自分自身と世界」を考えるための、一つのキッカケになれば、と願っている。</p>	
【テキスト】 用いない。必要に応じてプリントを配布する。	
【参考書】 必要に応じ、講義中に紹介する。	
授 業 計 画	
<p>おおむね、以下のような順序で講義する予定だが、諸君の興味・問題意識・理解度によって、途中で変更することもありうる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「根源的（ラディカル）に考える」態度について       <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「根源的に問う」こと</li> <li>② 「自己」と「世界」</li> <li>③ 何が「人間」を価値づけるか——「神のある世界」と「神の無い世界」</li> </ol> </li> <li>2 我々の状況——近代に於ける「人間」の問題       <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「近代ヒューマニズム」思想と、その問題点</li> <li>② アイデンティティーと共同体</li> </ol> </li> <li>3 現代の状況と人間       <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「国家」と人間</li> <li>② 「資本」と人間</li> </ol> </li> </ol> <p>ノートをしっかり取りながら聞いていれば、（予備知識が全く無くても）分かるはずである。大学での講義ノート・メモの取り方には慣れていないと思われるので、最初はメモの要点も指示しながら進める。大切なことは「知識」や「結論」ではない。疑問を持つこと、考えること。諸君の中に「問題意識」を喚起することを最大の目標にしたい。</p>	
<p>【評価方法】 学期末に、ノート（そのほか何でも）持ち込み可の、記述式テストを行う。それと、出席点を加味して評価する。ノートをしっかり取っていることが大切だ。</p>	

【授業科目】総合科目・人間「言語活動と人間」	【担当者】東 喜望
【開講期】1年前期	
【授業目標】 1. 「総合科目人間」全体について—前期, 3人の教員が分担して担当する。 「言語活動と人間」が考察の大目標である。 東 → 中島 → 佐々の順で講義する。1教員4回。全体で12〜13回。 2. 東担当分について—テーマ「人間とことば」 ※出席を重視する。	
【テキスト】(東担当)用いない。適宜プリントを配布する。	
【参考書】(東担当)必要に依り、授業中に紹介する。	
授 業 計 画	
<p>(東担当分)「人間は万物の霊長」であるといわれています。人間が他の動物と違って最も優れているところは、やはり、ことば(言語)を使うことでしょう。わたしたち人間はことばがなければ生活することができません。では、なぜ人間はことばをつくり出すことができたのでしょうか。そして、ことばは人間にとって、基本的にどんな役割を果たすのでしょうか。人間生活にとって「言語」は、欠かすことのできない「動具」ですが、逆にそれが人間を疎外しているという事実はないでしょうか。</p> <p>この授業では、これらの問いを軸にして、人間の音声言語による活動(聞く・話す)の側面から考察をすすめていきます。多くの事例を資料にして、わかりやすく講義していきます。講義は、おおよそ次の順ですすめる予定です。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>1). 人類—ことばの創造</li><li>2). ことばの役割</li><li>3). ことばと社会</li><li>4). ことばの功罪</li><li>5). 「場」の民主性と言語表現</li></ul>	
【評価方法】前期を通じて(3人の教員が各々の担当部分の評価を持ち寄り)全体として評価を出す。 (東担当部分)→授業の最後に、60分のペーパーテストを実施する。ノート・プリント等参照可。	

【授業科目】総合科目・人間「言語活動と人間」	【担当者】中島好伸
【開講期】1年前期	
<b>【授業目標】</b> 1 東→中島→佐々の順で講義する。 2 中島担当分について テーマ「経験（自己存在）と言語」	
<b>【テキスト】</b> プリントを使用	
<b>【参考書】</b> 授業時に紹介	
授 業 計 画	
<p>私たち人間は、他の人に自分のことを伝えたくて仕方がない。それは、自分がこの世界にいることを相手に理解して欲しいからであり、また逆に自分が本当にこの世界に存在していることを相手が反応してくれることによって確認できるからである。</p> <p>しかし、この伝達の問題には</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 伝わる/伝わらない</li> <li>2) メッセージの真/偽</li> </ol> <p>という大きな問題が絡んでいる。</p> <p>例えば、性の違い、世代の違い、言語の違いによって話は伝わらないこともある。さらに意識しておかなければいけないのは、強い性、強い世代、強い言語によって弱者に沈黙を強いることもあるということだ（1回目）。この沈黙は、意識的なものである場合と、強いトラウマなどによる無意識的なものである場合とがある（2回目）。時には、自分の経験の触れたくない部分には触れないように、意識的に嘘をついたり、またこの嘘が無意識に行われると狂気に陥ることすらあるかもしれない（3回目）。人間の発話、メッセージにはこんなにもいろいろなヴァリエーションがある。が、この発話、メッセージこそが人間を理解する鍵である。そして人そのものと言えるだろう。そこで最後に、言葉を磨くことは自己を磨くことであるとまとめたい。言うまでもなく言語表現の達人は作家。そこで、作家はなぜ書くのかを考えて、自分と比較してみよう（4回目）。以上の内容を具体的に進めるため、次に挙げる文学作品を紹介しながら講義を進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1回目 エイミー・タン『ジョイ・ラック・クラブ』</li> <li>2回目 トニ・モリソン『ピラヴド』</li> <li>3回目 ウィリアム・スタイロン『ソフィーの選択』</li> <li>4回目 まとめ（サマセット・モーム『月と六ペンス』を題材に）</li> </ol>	
<b>【評価方法】</b> 前期を通して（三人の教員が各々の担当部分の評価を持ち寄り）全体として評価を出す。 中島担当部分→レポート	

【授業科目】 総合科目・人間「言語活動と人間」	【担当者】 佐々 加代子
【開講期】 1年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>日々言語を駆使しながら生活をしている一人の人間である自分から始め、生活のなかで生きていく言語を扱う。さまざまな場面での言語活動の実態から検討し、各人が言語を生かしていく方向を探れるようにする。</p>	
【テキスト】 用いない。適宜プリントを配布する。	
<p>-----</p> <p>【参考書】 筆者の著書でいずれも犀書房。言語習得と人間関係、コミュニケーション能力弱者の QOL 援助、子どもからの贈りもの、発達臨床相談。</p>	
授 業 計 画	
<p>演習をふまえながら構成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ことばの正体を探る <p>日常のなかでのことばの実態。話しことばから書きことば。世代によることば;位相語。 人間の生活におけることばとそれを生み出す人間</p> </li> <li>2. 見えないことばを読む <p>広げてみることばの世界。 ことばの意味を読みとる、その鍵になる内容</p> </li> <li>3. ことばを育てる <p>乳幼児、障害児・者、失語症、重症心身障害児など筆者の経験・体験から、その筋道を考える</p> </li> <li>4. ことばを育む <p>それぞれのプログラム</p> </li> </ol>	
<p>【評価方法】 平常点を重視する。</p> <p style="padding-left: 40px;">授業内で行うミニレポートとレポートによる評価</p>	

【授業科目】総合科目 生命	【担当者】柳下登・近藤正樹・明渡陽子
【開講期】後期	
<p>【授業目標】半年間に3人の教員が担当するオムニバス形式の総合科目である。</p> <p>20世紀後半に発展した分子生物学は、従来の生物学・農学・医学を包括した形で生命現象を分子レベルで理解する生命科学を成立させた。この生命科学に、物理・化学的アプローチが加わることで、21世紀に入り、「生命」の概念が大きく変貌しつつある。30数億年前に生まれた生命、その由来から高度科学技術文明が作り出した生命操作に至るまで、地球上に生存してきた「生命」に対する理解を通して、地球に生きる多様な生命の中の一つにすぎない人類の位置づけを考察する。さらに農学・生物学・医学を background にもつ3人がそれぞれの視点で、21世紀の生命科学の課題を学生諸君と共に考えたい。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>柳下登：プリントを使用  近藤正樹：プリントを使用  明渡陽子：プリントを使用</p>	
<p>【参考書】</p> <p>柳下登：どこまで描ける生物進化 宇佐美正一郎（新日本出版社）生命の塵 植田充美訳（翔泳社）自然の恩恵をひきだすために 柳下登（たたら書房）遺伝子組み換え作物に未来はあるか 柳下登（本の泉社）</p> <p>近藤正樹：生産の生物学（開成出版）</p> <p>明渡陽子：生命とは何か（岩波新書）</p>	
授 業 計 画	
<p>以下のスケジュールに沿って行う予定。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生命とはなにか：明渡陽子</li> <li>2. 生命の由来（物質の由来・太陽系・地球・生命体）：柳下登</li> <li>3. 地球生物と進化：柳下登</li> <li>4. 地球生物と環境：近藤正樹</li> <li>5. 地球生物と種の保存（自己保存・自己増殖・自動制御）：近藤正樹</li> <li>6. 生命科学の誕生と生命：明渡陽子</li> <li>7. 21世紀の課題：生命はどこへゆくのか（それぞれの専門分野から）  柳下登  近藤正樹  明渡陽子</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>柳下登：出席状況と筆記テスト  近藤正樹：出席状況と筆記テスト  明渡陽子：出席状況と筆記テスト</p>	

【授業科目】 現代とヒューマニズムⅠ	【担当者】 平賀明彦
【開講期】 1年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>戦争と平和の問題を通じてヒューマニズムについて考える。平和という言葉の定義も含め、平和であるということとはどのような状態を言うのか、また、そうなるためにはどういった取り組みが必要であるかを検討する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>とくに定めない。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>多数あるのでその都度紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>平和の定義と意味を考える上で、まずは、平和的でない状態、平和の対局にあると考えられる戦争の問題を通して検討してみたい。その際、昨年9月11日の同時多発テロ以降の動きを素材に、何故あのような事態が起こったのか、その解決に向けての方法は適切であったのかを検討してみることは重要なてがかりとなるだろう。現代の戦争や地域紛争の発生原因として民族や宗教の問題、あるいは「文明の対立」といった形で説明されることがあるが、果たしてそのようなとらえ方は妥当であろうか。近代における国民国家の成立やナショナリズム形成の問題は、そういったこととどのような関係があるのかといった点からも検討を深める必要がある。また、戦争のない状態＝平和とは言えず、それ以外にも平和的でない状態を生み出す諸要因がある点も見逃してはならないだろう。</p> <p>戦争を回避し、平和を求める取り組みはこれまでも蓄積され、また今現在も続けられている。近代の平和思想の歴史をふりかえりながら、その足跡を辿り、有効性を検証することも試みたい。</p> <p>以下のような柱立てを考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇同時多発テロは何故起きたか－歴史的経過を探る意味</li> <li>◇報復戦争の意味するもの－テロへの対応は「戦争」か</li> <li>◇現代の戦争、地域紛争とその原因－民族、宗教、「文明の対立」を検討する</li> <li>◇国民国家形成とナショナリズム－フランス、イギリス、ドイツ、そして後発国日本の場合</li> <li>◇近代の平和思想の歴史－『永遠平和のために』、パリ不戦条約の系譜</li> <li>◇不戦への挑戦、その可能性は－日本国憲法、コスタリカの挑戦、困連改革、国家を超える</li> <li>◇構造的暴力の問題－貧困、飢餓、差別、人権侵害を生み出す社会構造</li> <li>◇平和への課題－人権・福祉そして平和</li> </ul>	
<p>【評価方法】</p> <p>学期末にレポートを課す。授業中に適宜小レポートの提出を求めることがある。</p>	

【授業科目】現代とヒューマニズムⅡ（消費社会と欲望）	【担当者】大岡 聡
【開講期】1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>「最新のファッションに身を包むと、とても気分がいい!」「人が持っていないバッグをもっているとんだか鼻が高いなあ」「ちょっと食べ過ぎちゃった、ダイエットしなきゃ」「洋服買い過ぎちゃったので、お昼はマクドの半額バーガーで我慢しよう」・・・これらは「豊かな」日本社会に暮らす私たちの日常の一コマ。でも「何だか変だ」と思うことはないですか?。モノに振り回されていませんか?。「豊かな」私たちの一方で、飢えた人もいるのはなぜ?。「地球にやさしい」暮らし方ってなんだろう・・・この講義を通じて消費社会といわれる現代の私たちのくらしと社会を、反省的に考察してみましよう。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>テキストは用いません。毎回プリントを配ります。</p>	
<p>【参考書】講義中に紹介しますが、とりあえず、上野千鶴子『私探しゲーム』（筑摩書房）、見田宗介『現代社会の理論』（岩波新書）、エリック・シュローサー『ファーストフードが世界を食い尽くす』（草思社）、島村志津『スローフードな人生』（新潮社）、山本・西沢編『百貨店の文化史』（世界思想社）をお薦めします。</p>	
授 業 計 画	
<p>講義では、まず日本における消費社会の形成過程（消費社会化の歴史）をたどることで、現代の消費社会を相対化する歴史的視点の獲得を目指します。それに続き現代の消費社会の特徴や問題点を考察し、あるべき消費社会とかしこい消費者像を展望します。</p> <p>構成は以下の通り。</p> <p>序 消費社会としての現代</p> <p>第一部 消費社会の形成</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) リサイクル社会としての江戸</li> <li>(2) 百貨店の誕生①—小売業の革新</li> <li>(3) 百貨店の誕生②—消費社会の演出者</li> <li>(4) 近代家族と文化生活—消費の主体</li> <li>(5) 美と健康—消費と身体</li> <li>(6) 高度成長と消費社会の確立</li> </ol> <p>第二部 消費社会の現在</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 消費社会と現代経済</li> <li>(2) 記号としての消費</li> <li>(3) 消費志向型人間—消費社会の人間像</li> <li>(4) 消費社会と地球—南北問題と環境問題</li> <li>(5) ファーストフードか、スローフードか</li> <li>(6) かしこい消費者とは?—まとめにかえて</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席・レポートにより評価する。</p>	

<b>【授業科目】</b> 現代とヒューマニズム III (科学技術と生命)	<b>【担当者】</b> 柳下登・明渡陽子
<b>【開講期】</b> 前期	
<b>【授業目標】</b> 高度科学技術文明といわれる現代文明の基盤となっている科学技術は、人間の自然を理解する「科学」という営みから生まれ、その成果を日常の経験世界から広大な宇宙・微細な物質の世界にまで応用しつつ進歩をとげ、それらから人類は多くの恩恵を受けた。しかし同時に、それは地球規模でより多大な問題を引き起こしてきた。この授業では、物理学、生物学、医学などの近代科学と技術が相互に影響し合いながら創り上げた科学技術の過程を知ること、現代文明の一つの横顔の理解を計る。さらに、クローン人間という言葉に代表されるように、人間生命が科学技術の対象となる「生命の技術化」を可能にした現代文明の問題点を探る。	
<b>【テキスト】</b> 柳下登 : プリントを使用 明渡陽子 : プリントを使用	
<b>【参考書】</b> 柳下登 : 新編自然科学入門 甲斐義幸 (学術図書) 科学の考え方・学び方 池内了 (岩波書店) 世界のたね E. ニュート (NHK 出版) 未来のたね 左に同じ 遺伝子組み換えに未来はあるか 柳下登ら (本の泉社) 明渡陽子 : 上記の参考書類の中のどれか。	
<b>授 業 計 画</b>	
以下のテーマに沿って行う予定。  1. 私達が生きている高度科学技術文明とはいかなる文明か 2. 科学技術はどのように生まれたか (発想・思考の原点) 3. 道具や方法はどのように科学技術の発展に寄与したか (発想・思考の作用ベクトル方向) 4. 近代科学 (天文学・力学などの物理学・数学・生物学・医学など) と科学技術の発展との相互作用 5. 近代科学の発展と先端技術—その光と影— 6. 人間生命と科学技術のゆくえ	
<b>【評価方法】</b> 柳下登 : 出席状況と筆記テスト 明渡陽子 : 出席状況と筆記テスト	



【授業科目】 人物研究Ⅰ（和泉式部）	【担当者】 久保木 寿子
【開講期】 後期	
<p>【授業目標】紫式部に「けしからぬ」所があると評された、和泉式部をとりあげる。  和泉は「あらざらむ此の世のほかの思ひ出に今ひとたびの逢ふこともがな」（百人一首）や「黒髪<small>の</small>乱れも知らずうち伏せば先ずかき遣りし人ぞ恋ひしき」などの歌で知られ、情熱の歌人とか恋多き歌人と言われる平安時代の女性であるが、その和歌の世界は、「恋」にのみ止まらないスケールを持っている。和歌という短詩が持つ可能性や彼女の創作方法について考えたい。またそのテーマと実人生との関わりを問題にしていく。  時代のモラルと苦闘しながらも、冷徹なまなざしで自己の思いを和歌に結晶させていった一人の女性芸術家の軌跡を追い、その現代的な意味を明らかにしていきたい。</p>	
【テキスト】 プリントを配布	
<p>【参考書】 山中裕 著 人物叢書『和泉式部』吉川弘文館  増田繁夫 著 『冥き途一和泉式部伝一』世界文化社  清水好子 著 王朝の歌人6『和泉式部 恋歌まんだら』集英社  久保木 著 日本の作家13『実存を見つめる 和泉式部』新典社 ほか</p>	
授 業 計 画	
<p>以下のようなことをテーマに、講義をしたいと思っています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1, 悪女の評判さまざま  すでに彼女が生きていた頃から、その評判は宜しくはないが、平安以降はどうだったのか。様々な文献から、各時代の人々が思い描いた和泉式部の人物像を見ていく。</li> <li>2, 実人生を辿る  少女期の環境  最初の結婚と破綻  冷泉皇子兄弟との恋愛と死別  後宮出仕  再婚  娘との死別</li> <li>3, 実体験から和歌表現へ</li> <li>4, 恋歌と死の歌のあわい  恋歌を超える眼差し</li> <li>5, 実存のテーマと方法・  和歌の時空  「自己客体視」の方法  連作の方法</li> <li>6, 歌集と日記</li> <li>7, 仏教的心性の問題</li> <li>8, 和泉式部和歌の評価をめぐる問題</li> </ol> <p>* 古文が読めなくても、大丈夫です。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席と、毎回のメモを重視。それと定期試験時のレポートによる。</p>	

【授業科目】人物研究Ⅱ「柳田国男」

【担当者】東 喜 望

【開講期】1年 後期

【授業目標】柳田(旧姓・松岡)国男<明治8・1875—昭和37・1962>を対象とする。柳田は貧しい医師の子として、兵庫県神崎郡福崎町に生まれた。大学を卒業してのち、彼は、それまで問題にもされなかった民衆の生活とその文化を研究し日本民俗学の基礎を築いた。この授業では、柳田の生涯の行跡をたどりながら、激動の「近代」における彼の学問の成果と思想の意義を明らかにしていきたい。

【テキスト】資料プリントを配布する。スライド・ビデオ等映像資料を使用する。

【参考書】牧田茂『柳田国男』(中公新書)・中村哲『柳田国男の思想』(法政大学出版局)・谷川健一『柳田国男の民俗学』(岩波新書)。

授 業 計 画

## 講義の概要

### 1. 生いたち

- ・「日本一小さい家」-----松岡家の一つの不幸
- ・利根川畔・布川・徳満寺絵馬の衝撃

### 2. 就学と詩人松岡国男

- ・伊良山岬への旅と島崎藤村『椰子の実』

### 3. 民俗学の夜明け

- ・農政学から民俗学へ——『後狩詞記』と『遠野物語』

### 4. 官界から言論界へ

- ・旅と学問-----大正デモクラシーと民衆文化の発掘

### 5. 日本民俗学の確立

- ・『海上の道』——壮大なる仮説

### 6. 柳田の学問と思想は「近代」を超えることができるか。

【評価方法】定期試験時の筆記試験による。配布プリント・ノート・参考書等参照可。

●2002年度シラバス変更(2)

【授業科目】 人物研究Ⅲ (有島武郎)	【担当者】 高原二郎
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】 「時代の中で、誠実に生きようとする」とは、どういうことか。          有島武郎(ありしまたけお、1878-1923)という人物は、「情熱の芸術家」でもあり、「革命的思想家」でもあるが、それ以前に、時代の現実を深く見詰め、「人間」を圧迫するものと闘い続けようとした「一人の人間」だ。</p> <p>資産家・大農場主の家に生まれながら、やがて、小作人に、無償で農場を解放した有島。          自殺未遂の果てにクリスチャンになりながら、やがて「信仰」と訣別した有島。          アメリカ留学中も「近代文明」の歪みを見つめ「新たな人間らしい文明」を求め続けた有島。          ロシア革命を擁護しながら、同時に、革命政権の独裁制を厳しく批判し、闘おうとした有島。          日露戦争に反対し、朝鮮の植民地化に反対し、諸民族の自由と連帯を希求した有島。</p> <p>こうした闘いの中で孤立し、やがて、夫のある女性との激しい恋愛に命を燃やし、二人で共に自殺すること——「心中」に追い込まれていった有島。</p> <p>有島武郎の遺した日記や手紙、彼が生きた当時の札幌やアメリカ、ヨーロッパの資料、作品や評論を紹介しながら、「誠実に時代の歪みと闘い続けた人間」としての有島武郎を語りたい。</p> <p>我々は、有島の「自殺(心中)＝挫折(玉砕)」を、どうしたら乗り越えることが出来るか、いかにしたら、有島の遺志を継いで「人間を圧迫するもの」と闘うことが出来るか、という問題を考えていければ、と願っている。</p>	
【テキスト】 用いない。	
<p>【参考書】 栗田廣美著『亡命・有島武郎のアメリカ』(右文書院)          高原二郎著『人と作品・有島武郎』(清水書院)</p>	
授 業 計 画	
<p>おおむね、以下のような順序で講義する予定だが、諸君の興味・問題意識・理解度によって、途中で変更することもありうる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 生い立ちと、札幌での青春             <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「特権階級の優等生息子」から、いかに「脱出」するか。</li> <li>② 「神」と「人間」——自殺未遂とキリスト教入信</li> <li>③ 「家」と「国家」——反抗と訣別</li> </ol> </li> <li>2 アメリカ・ヨーロッパでの思想形成             <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「アメリカ＝巨大な近代文明」と「日露戦争」の重圧</li> <li>② キリスト教からの離脱と、個性的な思想の形成</li> <li>③ 中世ヨーロッパと「自由なコンミュニオン」への憧れ</li> </ol> </li> <li>3 日本での闘いと挫折             <ol style="list-style-type: none"> <li>① 芸術・思想・革命・自由</li> <li>② 農場解放の理想と現実</li> <li>③ 恋愛と死</li> </ol> </li> </ol> <p>ノートをしっかり取りながら聞いていれば、(予備知識が全く無くても)分かるはずである。大切なことは「知識」や「結論」ではない。興味を持つこと、考えること。          有島を通して、諸君の中に「人間」への問題意識を喚起することを、最大の目標にしたい。</p>	
【評価方法】 筆記試験(ノート等、何でも参照可)。講義に基づいて書く形式。出席点を加味して、総合的に評価する。	

【授業科目】 心理学入門Ⅰ（心のしくみ）	【担当者】 専任教員
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>心理学という学問の歩みや基本的な考え方を学びます。また、これから勉強していく心理学の各分野を概観します。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>----- 個々の授業の中で紹介します。 -----</p> <p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<p>1. 心理学の歴史と基本的立場-----金子</p> <p>2. 知覚心理学-----金子</p> <p>3. 実験心理学-----多喜乃</p> <p>4. 学習心理学-----荻野</p> <p>5. 発達心理学(青年心理学)-----林</p> <p>6. 人格心理学-----金</p> <p>7. 臨床心理学-----林</p> <p>8. 健康心理学-----金</p> <p>9. 生理心理学-----多喜乃</p> <p>10. 社会心理学-----倉澤</p> <p>11. 心理学の研究法-----荻野</p> <p>12. 心理学と社会-----倉澤</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出欠席と期末試験(マークシートによる客観テストを予定)により評価します。</p>	

【授業科目】 心理学入門Ⅱ（性格と人間関係）	【担当者】 林 潔
【開講期】 1年前期	
<b>【授業目標】</b> 性格について、今日の心理学の見方を紹介します。	
<b>【テキスト】</b> なし	
<b>【参考書】</b> 随時紹介します。	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>いろいろなタイプの人がありますね。          同じ事についても受け取り方は、人によってさまざまです。          どうしてなんでしょか。          なぜ人は、その人なりのやり方で行動するようになるのでしょうか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 行動についての心理学の見方           <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 経験を重視する</li> <li>(2) ものの見方を重視する</li> <li>(3) 過去の経験、特に幼児期の経験を重視する</li> </ol> </li> <li>2. 「血液型と性格」は？</li> <li>3. 今日の性格についての考え方</li> <li>4. 人間関係について考える</li> </ol> <p>質問歓迎です。Mailも使ってください。          hayashi@shiraume.ac.jp</p>	
<b>【評価方法】</b> 平常点、指定図書レポート、中間試験、期末レポートで評価します。	

【授業科目】 体の不思議	【担当者】 村田 務
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>1) 人間の身体と生命活動に対する知的探求心を喚起し、身体の特徴的なしくみと働き、外界との繋がりに関する基礎知識について理解させる。</p> <p>2) 自らの体の不思議さと巧みさを知ることによって、「生命活動の主体」として自分自身を認識する基盤を形成させる。</p>	
<p>【テキスト】 使用せず</p>	
<p>【参考書】</p> <p>菊池俊英：人間の生物学、理工学社、1976年。  香原姿勢：人類生物学入門、中公新書、1975年。  佐藤方彦：人間と気候、中公新書、1987年。  藤田紘一郎：共生の意味論、講談社ブルーバックス、1997年。  宮城重二：女性はなぜ長生きか、講談社ブルーバックス、1996年。ほか</p>	
授 業 計 画	
<p>今日、いじめや児童虐待、自殺、薬物使用、買春、売春など、他人や自分自身の生命及び健康、人権に関わる諸問題が社会的問題としてクローズアップされてきている。これら背景には様々な事柄が考えられている。その1つとして「自他の体に対する尊厳の念が希薄で、自他の体や命を大切にするという意識が薄れているのではないか」という指摘もされている。</p> <p>教科目「体の不思議」では、人間の体の仕組みと働きの理解を通して、「ヒトの体の不思議さ」や「人間のからだのすばらしさ」に触れる。そして、人間の、自分自身や他人の生命や健康、人権の大切さについて考える契機とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 温度に対する恒常性 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ソウはなぜ水浴びをするか</li> <li>2) ヒトはなぜ汗をかくか</li> <li>3) ヒトはなぜ鳥肌が立つか</li> </ol> </li> <li>2 気候と人類の適応 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) らくだはなぜ砂漠に強いのか</li> <li>2) ヒトの体温はなぜ37℃か</li> <li>3) ヒトはなぜ人種によって体型が違うか</li> </ol> </li> <li>3 外敵から体を守るしくみ <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ヒトはなぜばい菌の中で生きていけるか</li> <li>2) 寄生虫が減ってアレルギーが増えたのはなぜか</li> <li>3) 心配事があるとなぜ胃が痛むのか</li> </ol> </li> <li>4 男女の不思議 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 女性はなぜ長生きか</li> <li>2) なぜ男と女がいるの</li> <li>3) ヒトはなぜ異性を求めるか</li> </ol> </li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常試験（2回のペーパーテスト。学習意欲と出席を重視する。）</p>	

<b>【授業科目】</b> 生物の世界と人間	<b>【担当者】</b> 吉川 研二
<b>【開講期】</b> 1年 前期	
<b>【授業目標】</b> 生物の命を育むのは地球の大気、水、土壌環境であり、その環境は生物の働きによって維持されている。地球上には多様な生物が生活している。この生物多様性の世界は長い時間をかけてつくられてきたものであり、多くの生物が様々な関係を持って共存している。ヒトも他の生物が存在することによって生きていけるのであって、生物のひとつひとつの命はかけがえのないものである。今、人間の活動が地球環境システムに急激な変化をおよぼしている。生物多様性にも危機が迫っている。私たちにできることはなんだろうか。生物の世界を知ることは自分の生き方を考え直すことにつながっている。	
<b>【テキスト】</b> プリント等による。	
<b>【参考書】</b> 書籍、ビデオなど、授業中に適宜紹介する。	
授 業 計 画	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球環境と生物              環境とは 生物と環境との相互作用 環境の変遷</li> <li>・生物多様性              種とは 多様性 種の進化 生物の分布</li> <li>・植物の世界 動物の世界              生産と消費 食べること 増えること 循環すること</li> <li>・種間関係              植物と植物との関係 植物と動物との関係 動物と動物との関係              捕食 共生 寄生 共進化</li> <li>・種内関係              オスとメス 親と子</li> <li>・生物群集              食物網 ニッチ</li> <li>・人間と生物              生態系 熱帯林の破壊 大気汚染 水汚染 土壌汚染</li> </ul>	
<b>【評価方法】</b> 平常点＋筆記試験	

<b>【授業科目】</b> 人間と環境	<b>【担当者】</b> 吉川 研二
<b>【開講期】</b> 1年 後期	
<b>【授業目標】</b> 海洋生物学者の Rachel L. Carson は、その著『Silent spring』の中で合成殺虫剤が生物の世界にもたらす危険性について警告した。その警告によって人類はどれだけ賢くなったのだろうか。以来30年以上経ったが人工化学物質による環境汚染は地球規模で深刻さを増している。熱帯雨林など地球上の各所では多くの生物が絶滅の危機に直面している。環境の激変と種の消滅は、生態系の単純化につながりヒトの生存を危くする。環境問題は地球レベルのものから、私たちひとりひとりの生活レベルのものまで深く考えることが必要である。	
<b>【テキスト】</b> プリントなど	
<b>【参考書】</b> 授業中に適宜紹介する	
<b>授 業 計 画</b>	
1. 環境とは 2. 生態系の構造と機能 2.1 生態系の構造 非生物的要素と生物群集 2.2 物質の循環とエネルギーの流れ 3. 地球環境汚染と生態系 3.1 環境ホルモン 食物連鎖 生物濃縮 3.2 森林の破壊 熱帯雨林 生物多様性 3.3 地球温暖化 温室効果ガス 温暖化の影響 3.4 水の汚染 酸性雨 陸水汚染 海洋汚染 3.5 オゾンホール フロン 紫外線と生物 4. 生活の中の環境問題 4.1 資源量、消費量、廃棄物量 4.2 リサイクル 自然生態系と人工生態系 4.3 二つのエコ 4.4 環境倫理	



【授業科目】 生と死を考える

【担当者】 嶋根 久子

【開講期】 1年 前期

【授業目標】人は死に直面した時、生きているという実感を一層強くむと言われている。しかしながら、核家族化が進行するなかで、寿命の飛躍的に伸び、加えて病院で死を迎える昨今、我々は死を体験する機会が非常に減少しているといえる。従って、この講義では、人の持つ「死体験」という能力をフルに活用し、充実した生を目的として、様々な角度から死について考えてみたいと思います。

【テキスト】

【参考書】死の社会学(副田義也編)岩波書店、生と死を語る(A.アーンヘイム)春秋社、死の瞬間(フーアラース)読売新聞社、現代、死に別れて生じる。(R.J.リットン)有信堂、死とは何か(ウジフェール・ジャンレダグ)有信堂

授 業 計 画

- 1) 死の諸相。  
a. 病死, b. 事故死, c. 災害に於ける死, d. 自死 e. 自然死
  - 2) 家族と看護, あらゆる死の看取り  
a. 死の諸相=お家族への影響, b. 子孫の死 c. 親の死,  
d. 高齢者の死, e. 配偶者の死
  - 3) 死者の年齢別にみた、残される家族の問題  
a. 配偶者の死, b. 子孫の死, c. 親の死,
  - 4) 死の受容の諸形態  
a. 死にゆく人 b. 残された家族
- 以上のテーマについて、より一層の理解を深めることを目的として、視聴覚教材を援用しながら、講義を進めます。

【評価方法】  
主にレポート

【授業科目】	人間の生と性	【担当者】	浅井 春夫
【開講期】	1年 後期		
【授業目標】	性を明るく、おおらかに、そして科学的に語れる基礎的な力をつけてもらいたいと願っている。具体的には、①人間の性に関するミニマム・エッセンスを学ぶことを通して、性的自立と性的共生能力をはぐくんでいくことを大切にする。私たちが自分らしく、そしてお互いを大切に生きる上でどのような性行動を選択するかが問われているからである。②セクシュアル・マイノリティの人権の現実を学ぶ。性に関する偏見をなくしていくことは共生の重要な条件であるからである。③タイムリーな性に関する問題を討論できる場を設けたい。この時代に生きる一人ひとりの生と性を見つめ直す機会としたいからである。人間の生と性の科学的な理解と性をめぐる人間関係を真摯に学んでほしい。		
【テキスト】	浅井春夫『セクシュアル・ライツ入門』（十月舎、2000年、2500円）		
【参考書】	浅井春夫・伊藤悟・村瀬幸浩共編『日本の男はどこから来て、どこへ行くのか』（十月舎、2001年、2500円） 浅井春夫『子ども虐待の福祉学』（小学館、2002年、1800円）		
授 業 計 画			
<p>テキストをもとに以下のような計画をたてているが、タイムリーな問題を取りあげて講義することもある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 本授業での問題意識と授業の運営についての共通確認</li> <li>② セクシュアリティに関する基本的な用語の説明</li> <li>③ マイノリティ（ゲイ、トランス・ジェンダー、インターセックス e t c）のセクシュアル・ライツ—いまも平然と行われる差別と偏見、それは性と政をめぐる問題</li> <li>④ 子どものセクシュアル・ライツの現状—わが国と世界の現実から—</li> <li>⑤ 子どもの性的発達の特徴と性をはぐくむ課題—とくに男性形成の問題を考える</li> <li>⑥ 性暴力の力学—ドメスティック・バイオレンスにみる女と男の関係学</li> <li>⑦ 恋愛のスズメ—恋愛の発展プロセスを考える</li> <li>⑧ 性器の生理学—男と女の性器はもとは同じだった！性器の構造を学ぶ。</li> <li>⑨ 性交の人間学—性交は人間にとって、二人の関係にとってどのような意味をもっているのか。二人の関係性を反映した性交の現実を考える。</li> <li>⑩ 生殖医療の最前線（体外授精、代理母など）をめぐる討論—あなたは賛成？反対？</li> <li>⑪ エイズの政治学—その南北問題としての側面</li> <li>⑫ セクシュアリティの過去・現在・未来—性の主体者として生きるために</li> </ol>			
<p><b>キーワード</b></p> <p>セクシュアル・ライツ（性的人権）、性における平和と平等、性の多様性、セクシュアル・オリエンテーション（性的指向）、同性愛、トランス・ジェンダー、グラデーション</p>			
【評価方法】	定期試験		

【授業科目】生活と健康	【担当者】明渡陽子
【開講期】後期	
<p>【授業目標】</p> <p>健康の概念理解と健康であることの意義（個人のレベル・社会の一員としてのレベルなどで）を考える。さらに、加齢と言う生理現象を背景として、一生健康である（健康維持・健康増進）ために必要な知識の習得と健康な生活設計の方法の習得をめざす。また、最近の健康問題についても、その背景・原因の理解とその対策を学ぶ。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>栄養、健康科学シリーズ 健康管理概論（南江堂）とプリントを使用</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<p>以下の内容についての講義を行う予定。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康の概念 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 健康の定義</li> <li>② 個人・集団の健康指標</li> <li>③ 健康の成立条件：疾病の成り立ちや疾病予防の段階・対策などの理解を通して考える</li> </ol> </li> <li>2. 高齢社会とわが国の健康水準</li> <li>3. 最近の健康問題 <ol style="list-style-type: none"> <li>①生活習慣病（癌・脳血管障害・虚血性心疾患・糖尿病など）</li> <li>②アレルギー疾患</li> <li>③その他（エイズ・狂牛病・環境ホルモン・フロンとオゾン層の破壊・精神ストレス問題等）</li> </ol> </li> <li>4. 健康管理法（健康生活設計法の習得） <ol style="list-style-type: none"> <li>① 食事</li> <li>② 運動</li> <li>③ 休養とストレス</li> <li>④ 飲酒・喫煙の健康への影響について</li> </ol> </li> <li>5. 女性の医学（加齢と性機能・月経のしくみとホルモン・性病などの主な婦人科疾患の理解・人工妊娠中絶と避妊について）</li> <li>6. わが国の保健医療体制</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況と筆記テスト</p>	

<b>【授業科目】</b> 教養体育（実技） ／テニス／卓球	<b>【担当者】</b> 岡田 光弘
<b>【開講期】</b> 1年前期、後期前半	
<b>【授業目標】</b>  1 テニスについて学習し、実践していくことで「健やかに生きるための基盤」をえることを目標にする。  2 卓球について学習し、実践していくことで「健やかに生きるための基盤」をえることを目標にする。	
<b>【テキスト】</b>  <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <b>【参考書】</b> 特に指定しない	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>自分たちが、練習の計画を立て、自分たちだけでスムーズにゲームが進められるよう、以下のような技術について学んでいく。</p> <p style="margin-left: 40px;"><u>テニス</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ボール、ラケットになれる。</li> <li>2) フォアハンド・ボレー</li> <li>3) バックハンド・ボレー</li> <li>4) フォアハンド・ストローク</li> <li>5) バックハンド・ストローク</li> <li>6) サービス／レシーブ</li> <li>7) ドリル、試合の仕方</li> </ol> <p style="margin-left: 40px;"><u>卓球</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ボール、ラケットになれる。</li> <li>2) ショート・ストローク</li> <li>3) フォアハンド・ストローク</li> <li>4) バックハンド・ストローク</li> <li>5) スマッシュ</li> <li>6) サービス／レシーブ</li> <li>7) ドリル、試合の仕方</li> </ol>	
<b>【評価方法】</b>  出席を重視する。知識の獲得、技術の進歩、積極的、協調的な態度を評価する。	

<b>【授業科目】</b> 教養体育（実技） ／テニス／バドミントン	<b>【担当者】</b> 岡田 光弘
<b>【開講期】</b> 1 年前期、後期前半	
<b>【授業目標】</b>  1 テニスについて学習し、実践していくことで「健やかに生きるための基盤」をえることを目標にする。  2 バドミントンについて学習し、実践していくことで「健やかに生きるための基盤」をえることを目標にする。	
<b>【テキスト】</b>  	
<b>【参考書】</b> 特に指定しない	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>自分たちが、練習の計画を立て、自分たちだけでスムーズにゲームが進められるよう、以下のような技術について学んでいく。</p> <p><u>テニス</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ボール、ラケットになれる。</li> <li>2) フォアハンド・ボレー</li> <li>3) バックハンド・ボレー</li> <li>4) フォアハンド・ストローク</li> <li>5) バックハンド・ストローク</li> <li>6) サービス／レシーブ</li> <li>7) ドリル、試合の仕方</li> </ol> <p><u>バドミントン</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) シャトル、ラケットになれる。</li> <li>2) フォアハンド・ストローク</li> <li>3) バックハンド・ストローク</li> <li>4) スマッシュ</li> <li>5) ドライブ、クリア</li> <li>6) サービス／レシーブ</li> <li>7) ドリル、試合の仕方</li> </ol>	
<b>【評価方法】</b>  出席を重視する。知識の獲得、技術の進歩、積極的、協調的な態度を評価する。	

【授業科目】教養体育（実技） / バドミントン	【担当者】 松岡 由紀子
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スポーツをすることによって運動不足を解消し、体力の保持増進をはかり、精神的ストレスを解放する。</li> <li>・ 運動技能と知識の習得。</li> </ul>	
【テキスト】	
【参考書】	
授 業 計 画	
<p>【バドミントン】</p> <p>技能練習とゲーム</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、グリップとシャトル慣れ</li> <li>2、ストロークの練習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ フォアハンドストローク</li> <li>・ バックハンドストローク</li> <li>・ クリアー（ハイクリアー）</li> <li>・ ドロップ</li> <li>・ ドライブ</li> <li>・ ヘアピン</li> <li>・ プッシュ</li> <li>・ スマッシュ</li> </ul> </li> <li>3、サービスの練習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ロングハイサービス</li> <li>・ ショートサービス</li> </ul> </li> <li>4、集団技能の練習</li> <li>5、ゲームとルール、審判法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ダブルス</li> <li>・ シングルス</li> </ul> </li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平常点（出席重視）</li> <li>・ 授業中に採点する。</li> </ul>	

【授業科目】 教養体育（実技） / 卓球	【担当者】 松岡 由紀子
【開講期】 1年 前期	
<b>【授業目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スポーツをすることによって運動不足を解消し、体力の保持増進をはかり、精神的ストレスを解放する。</li> <li>・ 運動技能と知識の習得。</li> </ul>	
【テキスト】	
【参考書】	
授 業 計 画	
<b>【卓球】</b> 技能練習とゲーム <ol style="list-style-type: none"> <li>1、ストロークの練習             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ フォアハンド</li> <li>・ バックハンド</li> <li>・ ツツキ</li> <li>・ カット</li> <li>・ スマッシュ</li> </ul> </li> <li>2、サービスの練習             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ フォアハンドロングサービス</li> <li>・ バックハンドロングサービス</li> </ul> </li> <li>3、レシーブの練習とラリー</li> <li>4、ゲームとルール、審判法             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ シングルス</li> <li>・ ダブルス</li> </ul> </li> </ol>	
<b>【評価方法】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平常点（出席重視）</li> <li>・ 授業中に採点する。</li> </ul>	

【授業科目】 教養体育（実技） / ダンス	【担当者】 松村 朋子
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>・ストレッチやエアロビクスダンスによって、運動不足の解消や運動機能の向上をはかり、健康で美しい身体をつくることを目標とする。また、フォークダンス、ソーシャルダンスなど様々なダンスにも触れて、楽しみながら運動すること体験してほしい。前半はダンスの基本的な運動を中心に、後半はダンスプログラムの習得と発表を行う。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>使用しない。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>使用しない。</p>	
授 業 計 画	
<p>1、ウォーミングアップ 身体を温め、ストレッチによる準備体操を行う。 からだ全体を使って、自由に運動できるように柔軟性を高める。 普段あまり使わない筋肉を意識的に動かす。</p> <p>2、基本コンビネーション スキップ、ツーステップ、ターンなど基本的な動きを使った短いコンビネーションを習得する。 フォークダンスやソーシャルダンスの簡単な動きを覚えて、繰り返しの動きの楽しさを体験し、リズム感を養う。</p> <p>3、ダンスプログラムの習得 コンビネーションを組み合わせて構成されたプログラム（2分程度）の振付を覚える。</p> <p>4、グループでのダンス構成と実演 習得したダンスプログラムをグループで構成して発表する。ビデオ撮影を行い、クラスで鑑賞する。</p> <p>*運動可能な服装・シューズで授業に出席すること。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席と授業態度（授業への積極性）を特に重視する。作品発表を実技テストとする。</p>	



【授業科目】教養体育（実技） / ニュースポーツ	【担当者】 松村 朋子
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>・ニュースポーツは高齢者や初心者でもすぐにできる手軽なスポーツであり、準備もルールも簡単で、高度な技術がなくても誰でも楽しく取り組めるという特徴がある。  ターゲット・バード・ゴルフやグラウンド・ゴルフなど室内でも運動可能な種目によって、ニュースポーツの楽しさを体験する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>使用しない。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>使用しない。</p>	
授 業 計 画	
<p>1、ターゲット・バード・ゴルフ  傘を逆さまにしたような形のホール目掛けて、ボールを打つ。ゴルフボールにバドミントンのシャトルをつけたようなボールを使用する。飛距離が少ないため、狭い場所でも思い切り打て、スピードが出ないため、安全性が高いスポーツである。</p> <p>2、グラウンド・ゴルフ  ゴルフのティーにあたるスタートマットから、ホールにあたるホールポストに向かって、ゴルフボールの2倍くらいのプラスチックボールを、ゴルフのパターによく似た大き目のクラブで、少ない打数でホールインを競うゲーム。</p> <p>3、フリー・テニス  軟式テニスを小型化したミニテニス。軟式テニスの10分の1程度の大きさのコートで、卓球ラケットに似た用具でボールを打ち合う。</p> <p>*運動可能な服装・シューズで授業に出席すること。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席と授業態度（授業への積極性）を特に重視する。</p>	

【授業科目】 教養体育（講義）	【担当者】 岡田 光弘
【開講期】 1年後期後半	
<p>【授業目標】</p> <p>スポーツの意義、健康・体力づくりのための基礎知識について学習していくことで「健やかに生きるための基盤」について理解を深めることを目標にする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【参考書】</p> <p>AERA Mook 20号、「スポーツ学のみかた」、朝日出版社、1997年。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 運動・トレーニングの原理</li> <li>2 遊びと民俗スポーツ</li> <li>3 現代社会とスポーツの商業化</li> <li>4 テクノロジーの進歩とスポーツ</li> <li>5 救急法の歴史と実際</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席点、各授業におけるレポート</p>	

【授業科目】 教養体育（講義）	【担当者】 松村 朋子
【開講期】 1 年 後期	
【授業目標】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現代社会において健康的な生活を送るために必要な基本的知識を養う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①健康に対する概念</li> <li>②現代の健康に関する諸問題</li> <li>③実際の運動プログラムの設定</li> </ul> </li> </ul>	
【テキスト】 <p style="text-align: center;">授業中にプリント配布</p>	
【参考書】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水村真由美『運動とからだ』 山海堂 2000年</li> </ul>	
授 業 計 画	
<p>我々現代人が社会において健やかに生きるには、健康とはいかなるものかを把握し、今日の健康に関する諸問題を正しく理解する必要がある。また、各人が健康を維持するためには、自分の運動能力や体力に適したプログラムによって生涯を通じて運動を続けることが理想である。本講座では、特に若い世代に関わりの深いトピックスを中心に、健康と運動について解説を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、健康とは何か <ul style="list-style-type: none"> <li>①運動とスポーツ</li> <li>②運動の効果</li> </ul> </li> <li>2、現代人がかかえる健康問題 <ul style="list-style-type: none"> <li>①生活習慣病</li> <li>②ストレス</li> <li>③肥満</li> <li>④エイズ</li> <li>⑤アレルギー</li> <li>⑥環境ホルモン</li> </ul> </li> <li>3、運動プログラムの設定 <ul style="list-style-type: none"> <li>①自分にあったプログラムの構成</li> <li>②「楽しく」「安全」「効果的」な運動</li> </ul> </li> </ol>	
【評価方法】 <p style="text-align: center;">出席と試験（最後の授業で行う）</p>	

【授業科目】 外国語 I・II (英語)	【担当者】 スワン・W・ローレン
【開講期】 1年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>このクラスでは、学生がすでに習った文法、言葉の知識を土台にして会話が進められるように指導していく。</p>	
【テキスト】 ありません	
----- 【参考書】	
授 業 計 画	
<p>いろいろな分野で使われる言葉の練習もする。このクラスでは英語を使ってのコミュニケーションに重点をおき、文法にはそれほど力点を置かない。話したり、聞いたりする力を身に付けさせるために、対話の練習、スキットを作り、おぼえ、そのあと演じてもらう。</p> <p>以下のような項目にそって進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. friendly greetings</li> <li>2. making choices</li> <li>3. misplacing and looking for things</li> <li>4. using things</li> <li>5. talking about accidents</li> </ol> <p>注：<u>このクラスを取る学生は全部のクラスに出席すること。欠席・遅刻については厳しく取り扱う。</u></p>	
<p>【評価方法】 成績の基準はクラスでとれだけ積極的に参加するか、中間と期末試験（ドラマ作り）を元に付ける。</p>	

【授業科目】 外国語 I・II (英語)	【担当者】 清野 茂子
【開講期】 1年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>英語を通じて、園生活の具体的な場面を学習する中で、      未来の保育者という能動的な立場に立って、積極的に      英語を楽しんでいくことを目標にします。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>保育の英語 : ￥1700, 三修社</p>	
<p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 20章からなる構成で、前期と後期でそれぞれ、10章ずつ、読みこなしていきたく思う。</li> <li>• Hearing の毎時間練習に行く予定。</li> </ul>	
<p>【評価方法】</p> <p>期末テスト、平常テスト、及び出席日数など総合して決める。</p>	

【授業科目】 外国語 I・II (英語)	【担当者】 磯山 滯一
【開講期】 1年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>短くて平易な英文を用いて、高校で学習した英語の基本的な語法・文法を再確認しながら、読む力と表現する力を伸ばします。また、身近な話題の新聞記事などを読んだり、ニュースを聞いたりすることで、時事英語に親しめるようにします。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>プリントを配ります。</p>	
<p>【参考書】 「やさしい英字新聞入門」 天満美智子, エリック・ベレトン 共著 岩波ジュニア新書</p>	
授 業 計 画	
<p>次のようなテーマを取り上げますが、その他に英字新聞の短い記事や人生相談を uses。</p> <p>1. 自己紹介 2. 趣味 3. 家族 4. 学校生活 5. スポーツ 6. いじめ</p> <p>7. 幼稚園実習 8. 小子化 9. 選択的夫婦別姓 10. 共働き 11. 死刑廃止</p> <p>問題 12. 携帯電話 13. ボランティア活動 14. 自然 15. ペット</p> <p>16. 食品 17. 公害 18. その他</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>テスト, 小レポート, 出席状況を総合して評価します。</p>	

【授業科目】 外国語 I・II (英語)	【担当者】 新井 紀代
【開講期】 1年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>視聴覚教材を最大限に活用した授業を試みる。</p> <p>ビデオだけ観て、残りの時間を居眠りに充てるのではなく、積極的な参加が期待される。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p><u>Living English in a British Family: The Secret Diary of Adrian Mole Aged 13 <math>\frac{3}{4}</math></u> (成美堂)</p>	
授 業 計 画	
<p>ビデオ教材を使用し、毎回次のように進めていく予定。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ビデオを観て、大体のストーリーを理解する</li> <li>2) スクリプトを細かく読む</li> <li>3) スクリプトに基づいた会話・発音練習</li> <li>4) ディクテーション</li> <li>5) 英語の質問に英語で答える練習</li> </ol> <p>復習として、ストーリーや語彙に関する小テストを随時行う。</p> <p>他に、リスニング用教材もいくつか併用する。</p> <p>* 語学の授業は参加することに意義があると思うので、毎回出席し、積極的に取り組んでほしい。居眠り、携帯電話の使用、私語は授業不参加とみなし、減点対象とするので注意されたい。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>学期末試験、出席、授業参加度、提出物などをもとに評価する。</p>	

【授業科目】 外国語 I・II (英語)	【担当者】 藤田 久美子
【開講期】 1年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>リスニングおよびリーディングを中心にして、英語の基本的技能を維持し、向上させていくことを目的とする。</p>	
<p>【テキスト】 Why Is That? (金星堂)          —Background to American Culture—</p> <hr/> <p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<p>今までの学習を通して培ってきたはずの英語の基礎知識を確認しながら、実際の場面でも活用できるコミュニカティブな能力を、是非少しでも獲得できるような授業をしたいと思っている。</p> <p>また、比較的易しい英文を読んで、短い時間で要点を押さえる練習をしていきたいと考えている。学生には是非毎回の積極的な参加をお願いしたいと思う。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状態、毎回の練習問題の結果、そして普段の授業参加度を総合して最終評価とする。</p>	



【授業科目】 海外語学研修	【担当者】 瀧口 優
【開講期】 1 年 前期	
【授業目標】 1. 英語を現地で体験して英語力を身につける。 2. 英語を通じてコミュニケーションの意味を理解する。	
【テキスト】 必要に応じて指示する。	
----- 【参考書】 必要に応じて紹介する	
授 業 計 画	
<p>イギリスはリーズ市にあるメトロポリタン大学の語学センターで3週間のプログラムに参加する。その間の生活はホームステイ。ウィークデイは1日2コマの英語の授業があり、現地の教員が懇切丁寧に指導する。</p> <p>また世界中から集まる学生達とスポーツやパーティをする機会もあり、英語圏だけでなく、視野を世界に広げることできるだろう。週末には近くにある有名な史跡などを訪ね、イギリスの歴史や文化に親しめる。ロンドン観光を含めて約4週間のイギリス滞在は、英語の見方を変えてくれるだろう。</p> <p>出発に向けて、前期に5回事前指導を行い、パスポートの取得から渡航手続き、現地での生活の仕方、簡単なサバイバル英会話まで指導します。</p> <p>【予定】 (多少変わるところもあります)</p> <p>8月3日 (土) 成田出発、アムステルダム経由でリーズへ (ホームステイ先へ)</p> <p>8月5日 (月) ~ 23日 (金)</p> <p style="padding-left: 2em;">リーズ・メトロポリタン大学での語学研修</p> <p style="padding-left: 2em;">*午後・休日に課外活動</p> <p style="padding-left: 4em;">ヨーク・ウインダミア (湖水地方：ピーターラビットの故郷)</p> <p style="padding-left: 4em;">ハワース (嵐が丘：ブロンテのルーツ)</p> <p>8月23日 (金) ロンドンへ</p> <p style="padding-left: 2em;">~26日 (月) ロンドン滞在</p> <p>8月26日 (月) アムステルダムへ</p> <p style="padding-left: 2em;">*アンネの家訪問等</p> <p>8月27日 (火) アムステルダム発</p> <p>8月28日 (水) 成田着</p>	
【評価方法】 ふだんの学習状況などの平常点 (出欠、予習、質問、意見発表など) とレポートで行う。	

【授業科目】 情報処理入門	【担当者】 丸山 有紀子
【開講期】 1年 前期	
<b>【授業目標】</b> 情報化社会において必須となる、情報リテラシーをワープロソフト、インターネットおよび表計算ソフトの利用を通して身につける。	
<b>【テキスト】</b> <p style="text-align: center;">プリントを配布する</p>	
<b>【参考書】</b>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンピュータを使い始めるにあたっての説明            コンピュータの各部分の名称、使い方の説明。            ログオンとログオフ、IDとパスワード。</li> <li>2. タイピング            タイピングの方法            漢字変換、カタカナ、アルファベットの入力の仕方。            簡単な文章の入力。</li> <li>3. ネットワークの活用            WWWによる情報検索、電子メールの利用。</li> <li>4. ワードプロソフトの利用            文字の入力。            文書の保存、呼び出し。            印刷の仕方、印刷スタイルの設定。            基本的な文書のスタイル。</li> <li>5. 表計算ソフトの利用            用語の解説、基本的な操作、データ入力の仕方。            数値データの入力、計算。            グラフの作成。</li> </ol>	
<b>【評価方法】</b> 出席、授業中に行う課題およびレポート。	

【授業科目】 情報処理入門	【担当者】 宮武 直樹
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>最近のパソコン、ワープロ機器の普及はめざましいものである。この情報化社会の素養として、コンピュータの仕組み、操作からワープロ、表計算、図形処理、ネットワーク利用までの基礎を学習する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>随時プリントを配布する。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>参考文献を授業で紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>「授業計画」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンピュータの構成と操作方法</li> <li>2. 日本語ワープロ、Wordの基本操作（3級程度の文書作成）</li> <li>3. 表や罫線を使う文書作成（2級程度の文書作成）</li> <li>4. 図形や段組を使う文書作成（1級程度の文書作成）</li> <li>5. 表計算機能の使い方</li> <li>6. 作図機能の使い方</li> <li>7. 表計算ソフト、Excelの基本操作</li> <li>8. 成績表の作成</li> <li>9. 各種の成績グラフの作成</li> <li>10. 成績に関するデータベースの作成</li> <li>11. 学内ネットワークへの接続と電子メールにつ</li> <li>12. 電子メールの送受信</li> <li>13. 簡単なホームページの作成</li> <li>14. まとめ</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>授業中での課題提出、電子メールによるレポート提出及び出席状況によって判断する。</p>	

【授業科目】 情報処理入門	【担当者】 長谷川 洋介
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>最近のパソコン、ワープロ機器の普及はめざましいものである。この情報化社会の素養として、コンピュータの仕組み、操作からワープロ、表計算、図形処理、ネットワーク利用およびプレゼンテーションの作成までの基礎を学習する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>随時プリントを配布する。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>参考文献を授業で紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンピュータの構成と操作方法</li> <li>2. 日本語ワープロ、Word の基本操作（3級程度の文書作成）</li> <li>3. 表や罫線を使う文書作成（2級程度の文書作成）</li> <li>4. 図形や段組を使う文書作成（1級程度の文書作成）</li> <li>5. 表計算機能の使い方</li> <li>6. 作図機能の使い方および図形の複写、貼り付け</li> <li>7. 表計算ソフト、Excel の基本操作</li> <li>8. 成績表の作成</li> <li>9. 各種の成績グラフの作成</li> <li>10. 成績に関するデータベースの作成</li> <li>11. 学内ネットワークへの接続と電子メールについて</li> <li>12. 電子メールの送受信</li> <li>13. 簡単なホームページの作成</li> <li>14. パワーポイントの基本操作とプレゼンテーション</li> <li>15. その他</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>授業中での課題提出、電子メールによるレポート提出及び出席状況などから評価する。</p>	

【授業科目】 選択外国語：英会話（基礎）	【担当者】 サラ・ブロック
【開講期】 1年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>基本英語を復習し、使えるようにする。 自分のアイデアや意見が言えるようにする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>プリントと英語通信</p>	
<p>【参考書】 英和・和英辞典・電子辞書も本でも可</p>	
授 業 計 画	
<p>前「場面」に合せた文法や会話エクササイズ 期 (Drill-style conversations, variations)</p> <p>「自分」の会話をモデル会話をベースに して作り、書きだして保存する</p> <p>「発表」：×もった会話を再現し、スキットに して皆の前でやる（ホアード）</p> <p>後 自分の会話＝決まった質問リストから自由に 期 選択して相手に聞き、その返事によって 自分の質問を作って、インタビュー形式に なれてくる。</p>	
<p>【評価方法】 (前期)：先生の前で「ホアード」の会話発表 (後期)：先生をインタビューするか、先生にインタビュー されるかの選択できるテスト</p>	

●2002年度シラバス変更(3)

【授業科目】 選択外国語：ビジネス英語	【担当者】 田中 安行
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的なビジネス英語を速く、正確に、深く読む力をつける。</li> <li>2. 英語で書かれた世界の生活、文化、歴史などに関する文章や時事問題、英詩、エッセイ、物語などに触れながら、英語を理解する力をつける。</li> <li>3. 上記を通して21世紀に生きる人間としての広い教養と国際的なものの見方や考え方を学び、21世紀の人間に必要な生き方を身につけられるような学習を目指す。</li> </ol>	
<p>【テキスト・参考書】 開講時に指示する。</p>	
授 業 計 画	
<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文章理解 ビジネスに必要なさまざまな形式の英文を使って、チャンク毎に文の構造を理解させながら、パラグラフ・リーディングや要約、速読などの方法を通して文章の内容理解ができるようにする。</li> <li>2. 国際的なビジネス問題の理解 現代世界の経済や政治など時事問題などの英語教材を用いて広い視野で学び、世界のビジネスにおける文化や歴史的背景を理解し、世界の様々な分野で活動するための基礎的な英語力と教養を身につける。</li> <li>3. 音声訓練 ビジネスで使う基本的な英会話のパターンに慣れるように音声教材を使いながら、練習をする。</li> <li>4. 音声表現 視聴覚教材や読み物教材の重要表現を習得して、対話や会議で用いる英語を音声で表現できる力をつける。</li> </ol> <p>【授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ビジネスに必要な平易なE-mailの英文の読み方、書き方を学び、実際に送受信してみる。</li> <li>2. 保育、福祉、一般事務などさまざまな分野の実務的な英会話の基本を学び、訓練する。</li> <li>3. それぞれのジャンルの英文について読み方や書き方の基本と応用を演習する。</li> <li>4. 語句や意味の奥にある意味や発想の仕方を理解しながら外国人とのビジネスにおいて基本的に重要なコミュニケーションや異文化理解の方法を学ぶ。</li> <li>5. さまざまな場面で自己表現するための話し方や書き方を身につける。</li> </ol>	
<p>【評価方法】 ふだんの学習状況などの平常点と小テスト、レポートおよび期末テストなどで総合的に評価する。</p>	

●2002年度シラバス変更(5)

【授業科目】 選択外国語：時事英語	【担当者】 田中 安行
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代の生活、文化、環境、心理、保育、福祉問題などに関する時事的な英語を通して、21世紀に生きる人間としての広い教養と国際的なものの見方や考え方を学び、今後の社会で活躍する人間に必要な生き方を身につけられるような学習を行う。</li> <li>2. 深く英語文化を理解するために、単に時事的な問題だけに限定せず、その背後にあるものの考え方や感じ方にも触れるように、英詩やエッセイなどにも触れて幅広い人間的な力をつける。</li> <li>3. 時事的な英語を聞き、話す力をつける。英語の音声と基本的な表現に慣れて、さまざまな場面で相手の言うことを理解し、自己表現できる力をつける。</li> <li>4. 時事英語の英文を用いて速読に慣れるようにする。</li> </ol>	
<p>【テキスト・参考書】 開講時に指示する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文章理解 英字新聞など身近な内容の英文を使って文の構造をチャンク毎に理解させながら、パラグラフ・リーディングや要約ができる文章の内容理解の方法を学ぶ。</li> <li>2. 国際的な文化理解 現在の世界の生活、文化、環境、心理、保育、福祉、平和問題などを取りあげた英語教材を用いて、世界の多くの文化や歴史的背景を理解できる幅広い視野を身につける。</li> <li>3. 音声訓練と音声表現 ビデオ教材やテープ、インターネットを利用して、英語の音声に慣れ、理解できるような対話練習を行い、重要表現を習得して、音声による自己表現力もつける。</li> </ol> <p>【授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英字新聞やインターネットからの時事英語やエッセイ、英詩などを教材に使う。</li> <li>2. 時事的な英文について聞き方、話し方、読み方、書き方の基本と応用を演習する。</li> <li>3. 語句や意味の奥にある意味を理解することを通して異文化理解の方法を学ぶ。</li> <li>4. 英字新聞やインターネットでの英文を読解するためのルールを身につける。</li> <li>5. さまざまな場面で自己表現するための話し方や書き方を身につける。</li> <li>6. 自分でインターネットを使って英文ニュースを作ったり、自己表現文を作って実践的な英語力を身につける。</li> </ol>	
<p>【評価方法】 ふだんの学習状況や発言などの平常点と口頭による質疑応答や小テストとレポートおよびテストなどで総合的に評価する。</p>	

<b>【授業科目】</b> 選択外国語：異文化コミュニケーション	<b>【担当者】</b> 瀧口 優
<b>【開講期】</b> 1 年 後期 (教養教育科目)	
<b>【授業目標】</b> 1. 異文化とは何かを学ぶ 2. 異文化相互のコミュニケーションのあり方を実践的に学ぶ	
<b>【テキスト】</b> 必要に応じて指示する	
<hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <b>【参考書】</b> 必要に応じて指示する	
授 業 計 画	
1. 映像を通じて写し出される他国の文化を認識する（4カ国程度）。 2. 日本の文化と比較してその特徴を分析する。 3. とりわけ言語についての理解を深める。 4. 以上を踏まえて異文化間のコミュニケーションをとるために何が重要であるかを学ぶ。 * 外国語と言われるものには様々なものがあり、この授業では少しでも新しい言葉に触れる機会をつくりたいと考えている。	
<b>【評価方法】</b> ふだんの学習状況などの平常点（出欠、予習、質問、意見発表など）とレポートで行うことを原則とするが、必要に応じてテストを行う。	



【授業科目】言語とコミュニケーション	【担当者】佐々 加代子
【開講期】1年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>日常生活はさまざまな人間関係のなかでのコミュニケーションの場面がある。その方法もさまざまにある。言語はその代表格である。コミュニケーションが円滑にすすんでいくということについての基礎理論から始め、コミュニケーション関係における阻害要因と促進要因を抽出することで、生活において言語を媒介としたコミュニケーション関係のすすめかたについての方策が見出せるようにする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>佐々加代子、コミュニケーション能力弱者の QOL 援助、犀書房</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>筆者の著書でいずれも犀書房。言語習得と人間関係、子どもからの贈りもの、発達臨床相談</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 言語の特性</li> <li>2. コミュニケーションにおける言語</li> <li>3. コミュニケーションの基本的過程 <ul style="list-style-type: none"> <li>ことばのキャッチボール、ことばとキャッチボール</li> <li>媒介となる距離—信号行動系</li> </ul> </li> <li>4. コミュニケーションの対象児・者の特性のとらえかた</li> <li>5. 対象児・者別によるコミュニケーション関係 <ul style="list-style-type: none"> <li>乳児、幼児、障害児、障害者、失語症、介護を要する人、痴呆性老人、重病患者、異文化の人</li> </ul> </li> <li>6. コミュニケーションにおける共通項としてあげられる内容</li> <li>7. 両者の関係と QOL</li> <li>8. コミュニケーション関係、人間関係において機能していく言語の内容を育むこと <ul style="list-style-type: none"> <li>ここでの1-8の数字は講義の内容を区分したもので、回数を示してはいない。</li> <li>情報機器類も用いながら、できるだけ具体的場面を想定できるように工夫をこらしていく。</li> <li>グループでの討論も加えていく。</li> </ul> </li> </ol>	
<p>【評価方法】平常点を重視する。</p> <p>最終的には、平常点、授業内でのミニレポート、レポートで評価する。</p>	

【授業科目】 手話入門

【担当者】 細田 恵子

【開講期】 1年 後期

【授業目標】

初級程度の手話技能を修得し、聴覚障害者の生活等を知らねば  
よして自分の内面を見つめ一助とする。かつ、障害者と共生できる街作り  
にどう関わっていくかを模索する。

【テキスト】

そのつどプリントを配布します。

【参考書】

講義の中で紹介します。

授 業 計 画

1. 手話聴覚障害をもつ講師との意思疎通を図る方法について
2. 挨拶、自己紹介などの日常よく使用可能な手話を学ぶ。
3. 聴覚障害問題について学ぶ。
4. 聴覚障害とはどのような障害なのかを実体験する(疑似体験)
5. 聴覚障害者と健聴者が共生していくためにはどうしたらいいかの  
話し合う。もしくは卒業後、どう生かしていくかについて話し合う。

授業で学んだこと

※ 毎回レポート提出していただきます。

【評価方法】

レポートと授業態度により評価。

●2002年度シラバス変更(4)

【授業科目】文学芸術・フィクションと人間	【担当者】中島好伸
【開講期】1年前期 / 1年後期	
<p>【授業目標】          文学作品とは何か、この大きなテーマを作者、テキスト、読者の観点から眺めてみる。          そしてフィクションが生身の人間にどう作用するのかを考えてみよう。</p>	
<p>【テキスト】          プリントを使って講義する。</p>	
<p>【参考書】          必要に応じて講義の中で紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>文学作品を読むのも人間ならば、その作品を生み出したのも人間である。そして、多くの場合、登場「人物」または主「人」公と呼ばれる存在も人間だ。従って、それらの誰もが「わたし」という思いを持っている。この「わたし」という得体も知れない存在を捉えることからこの講義を始めていく。</p> <p>はじめに「日記」を書いてみよう。これは事実あったこととそれに対する思いだ。もしも未来の日記を書くとしたら、それはフィクションということになってくる。フィクションは願望なのだろうか……？</p> <p>こんなふうに話を進めながら、文学作品(テキスト)と作者、文学作品と読者の関係を紐解いていく。話を具体的にするために、O・ヘンリの短編小説「賢者の贈り物」を細部にこだわりながら読みつつ、次の順で講義を進めていく。</p> <p>「わたし」と他者          視点・語り手          作品内空間(時間、場所)          人物描写(登場人物の性格)          プロット(語り手の選択)          物語の蓋然性・フィクション          歴史的背景と作者          テキストと読者(印象批評)          批評と文学史          この世はフィクション?(メタ・フィクション)          「わたし」を構成する他者の言葉・乱読の勧め</p> <p>講義のあと文学作品の読み方がどう変わったか、自分の好きな作品を題材にしてレポートを書いてもらう。</p>	
<p>【評価方法】          レポートに出席点を加味して評価する。</p>	

[授業科目名] 造形美術とイメージーション	[担当者] 八木 紘一郎
[開講期] 後期	
<p>[授業目標]</p> <p>イメージーション(想像)をめぐる営みに、造形美術がどのような意味と働きをもっているのかを、実際の事例を通して考えながらイメージーションの理解と造形美術そのものの理解を深めることを目的にする。</p>	
[テキスト・参考書]	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対象認識の方法としてのイメージーション        子どもの絵や、太古の時代の洞窟壁画など、具体的な造形美術作品を通して、表現者がイメージーションをはたらかせてどう対象を捉えようとしているかを具体的に考えてみる。</li> <li>2) アイデアや夢や理想を生み出す方法としてのイメージーション        創造的な活動に欠かせない豊かなイメージーションを繰り広げる際に目に見える造形物が果たす役割について理解する。創造的思考の方法である。</li> <li>3) 共生的な人間関係をつくる方法としてのイメージーション        互いの意思を的確に伝達交流には、イメージーションを働かせる必要はもちろんだが、そのためには見えない、形のない互いの意思をできるだけ見えるようにする方法として造形美術を活用する知恵を考える。造形美術のコミュニケーションツールとしての側面を探る。</li> <li>4) イメージーションの産物        乗り物・建築などを通してイメージーションのはたらきを探る。</li> <li>5) 使用する造形素材がイメージーションの仕方を左右する        粘土・紙・描画材・ブロックや積み木・空き箱などの廃材        描画材の違いによるイメージーションの仕方への影響</li> <li>6) リアリティについて        進化するデジタル機器を道具にして広がるイメージーション世界における現実性、本質性といったリアリティの問題について、目に見える造形美術を通して考える。</li> </ol>	
<p>[評価方法]</p> <p style="text-align: center;">平常点</p>	

【授業科目】話し言葉の伝承	【担当者】東 喜 望
【開講期】1年 <u>前期</u> または <u>後期</u> (前期と同じ内容)	
【授業目標】ここにいう「伝承」とは、「伝承文化」をさす。この授業では、その中の「伝承文芸」を対象とする。即ち、口づてに話し言葉によって語り伝えられた話(神話・伝説・昔話など)を対象とする。日本・沖縄奄美・東南アジアの説話を事例としながら大陸や環太平洋諸地域との関連も積極的に考察する。	
【テキスト】『沖縄・奄美の説話と伝承』(おうふう刊) 他に資料プリント配布。スライド等映像資料上映。	
【参考書】適宜指示する。	
授 業 計 画	
<u>講義の概要</u>	
<p>1. <u>序</u> — (1)人文科学の方法 (2)「わが国をニッポンというのはなぜか。」 — 背後に存在する国家「神話」(3)国号と環太平洋の太陽神話。</p> <p>2. 「<u>神話</u>」・「<u>伝説</u>」・「<u>昔話</u>」とは何か。</p> <p>3. <u>説話伝承の起源</u>  (1)自然と人間の意識  (2)信仰と「語り」— 個人・ムラ、レベルから国家レベルへ。  (3)神話の発展— 伝説・昔話へ。</p> <p>4. <u>伝承文芸の現代的意義</u></p>	
【評価方法】定期試験時の筆記試験。(テキスト・ノート等参照可)	

【授業科目】 絵本・絵巻と物語表現	【担当者】 久保木 寿子
【開講期】 前期 金 3	
<p><b>【授業目標】</b>  絵本や絵巻には、絵と物語を同時に鑑賞していくという特徴があります。  「見る」ことから生じるイメージと、ことば（語り）が創り出すイメージの〈交響〉が  目指される訳です。  この授業では、さまざまな絵や絵巻を通じて、「見ること」と「ことば」によるイメージ  の形成について考え、どのような時に、感動や共感を呼び起こす〈交響〉が成り立つのか考  えたいと思います。</p>	
<p><b>【テキスト】</b>  プリント配布</p>	
<p><b>【参考書】</b>  授業時に指示</p>	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>I 次ような物を素材に、絵とことばのさまざまな結合の形・枠組みについて考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1, 絵巻 源氏物語絵巻・信貴山縁起絵巻などを例に</li> <li>2, 絵解き 「刈萱道心と石童丸」などを例に</li> <li>3, お伽草子 『鉢かづき』『物くさ太郎』などを例に</li> <li>4, 絵本 『スーホの白い馬』『100まんびきのねこ』『はらぺこあおむし』 などを例に</li> <li>5, 紙芝居</li> <li>6, アニメーション 高畑・宮崎作品を例に</li> </ol> <p>II 上記 I を通して、次のような問題に注目したい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1, 絵の視座・物語の視座</li> <li>2, 絵の空間表現・物語の空間表現</li> <li>3, 絵の時間表現・物語の時間表現</li> <li>4, 見聞く人の位置と語り手の位置</li> </ol> <p>III 絵とことばの響き合いについて考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1, 絵によるストーリー性・イメージ喚起の条件について</li> <li>2, ことばによるストーリー性・イメージ喚起の条件について</li> <li>2, 絵・ことばの響き合いについて</li> </ol>	
<p><b>【評価方法】</b>  出席と、毎回のメモを重視。それと定期試験時のレポートによる。</p>	

【授業科目】 源氏物語の世界	【担当者】 久保木 寿子
【開講期】 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>日本文化の真髄を表すものとして、源氏物語はいまや世界の人々に読まれている。1000年の昔の作品ながら、現代に通じる問題が豊かに形象されているからであろう。一体、何がこの作品の魅力なのだろうか。絵巻や漫画・ビデオなどを使いながら作品構造を読み解き、制約の多い社会で、&lt;どう生きるか&gt;に苦闘する男女の姿を中心に見ていく。</p> <p>文法の細部に囚われず、『源氏物語』が、`すごい`ことを知ってほしい。物語のおもしろさを知ることが、古典への第一歩である。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>プリントを配布</p>	
<p>【参考書】 大和和紀『あさきゆめみし』 現代語訳源氏物語： 瀬戸内寂聴・田辺聖子・円地文子・谷崎潤一郎・与謝野晶子 橋本治『窺変源氏物語』 源氏物語絵巻・アニメその他のビデオ etc</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1, 紫式部とその時代について 何故、紫式部は源氏物語を書いたのだろうか？作者の生涯と人物像を、その歌集と日記によって見ておく。また物語が書かれた時代の特徴にも簡単に触れたい。</li> <li>2, 全54帖の全体構造を知る。 授業で読み通す訳にはいかないが、そのスケールと主題について、概容を理解したい。</li> <li>3, 様々な男女の結びつきについて考える。 光源氏は、葵の上と政略結婚・若紫を略奪の上結婚・藤壺（父帝の寵妃）を強姦と、現代社会で言えば、正真正銘の犯罪者である。一夫多妻制のもとで、彼に対する女たちは何を考え、どう生きようとしていたか。</li> <li>4, 忍従と自立をめぐる問題について考える。 身分差・結婚制度の制約の中で、多くの女たちが忍従し妥協していく。一方、自分らしく生きたいと願う女たちは、苦闘の末破れていく。 ① 明石の君・②紫の上・③浮舟 etc について、それぞれの人物像を探っていく。</li> <li>5, 権力構造をめぐる問題について考える。 恋愛沙汰に隠されているが、この作品は、光源氏が天皇のようなそうでもないような地位に上り詰めるまでの、予言の謎解きといった要素を持つ。 上り詰めた後の、無惨な光源氏の衰退までを書いてしまったのだが。 人間にとっていったい何が重要なことなのか、考えたい。</li> <li>6, 物語のリアリティについて考える。 言うまでもなく『源氏物語』は平安時代に作られたフィクションであるが、光源氏を実在の人と思っている人が結構いる。 何故だろうか。作品に、きわめてリアリティがあることも一因であろう 虚構された時代設定、モデルとされる人物、作品の舞台の虚実などについて考える。</li> <li>7, 源氏物語の笑いについて考える。</li> <li>8, 物語表現の美しさについて考える。</li> <li>9, 源氏物語の古代性と現代性について考える。</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席と、毎回のメモを重視。それと定期試験時のレポートによる。</p>	

●2002年度シラバス変更(1)

【授業科目】 近現代の日本文学	【担当者】 高原二郎
【開講期】 1年・前期	
<p>【授業目標】</p> <p>近現代の歴史の流れの中で、文学はどのように責任を果たそうと努めてきたか、現実社会の困難な課題にどのように対応してきたのか。ここでは明治・大正・昭和(戦前・戦後)に渉る重い課題をいくつかとり上げ、作品理解をテコにしてそれぞれの課題について考える。</p> <p>出席者ひとりひとりの心が、どれかひとつの課題に衝突することを以って目標とする。なお、文学史的な流れは展開の中で触れる。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>用いない</p>	
<p>【参考書】</p> <p>展開の中で示すことはあるが、特に指定しない。「読書」は義務とはしない。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>ひとまず以下の項目を用意するが、羅列的な講義はしない。出席者の興味・問題意識等を自由に出してもらって、自由に話がかけ巡って飛躍してくれればありがたい。疑問、珍問、愚問の中から自分なりの心の衝突が生まれて欲しいのであって、講義はそのためのネタ提供と考えて欲しい。</p> <p>(1)開化と西洋－夏目漱石・永井荷風・有島武郎・高村光太郎  (2)個人・エゴとヒューマニズム－夏目漱石・武者小路実篤・志賀直哉・芥川龍之介  (3)大逆事件と人間－石川啄木・有島武郎  (4)愛と人間苦－自然主義・私小説・有島武郎・太宰治  (5)自然と人間－国木田独步・有島武郎・宮沢賢治  (6)制度と人間－労働運動と文学  (7)伝統と近代－谷崎潤一郎・川端康成・「近代の超克」(→桑原武夫)  (8)科学と人間(戦争と文学)－高村光太郎・峠三吉・井伏鱒二  (9)疎外と人間－石牟礼道子</p> <p>ノートは各項目の中の問題点を中心に要点をメモできるように配慮するが、各自の思考のひらめきによるメモにも期待したい。(項目すべてを消化するとは限らない)</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>各自が最低一つ、課題に取り組んで記述テスト。従って普段の展開の中で、何が面白いのか、注視して、できれば整理もつけていって、学期末にそのまま書き出せるようにするとよい。出席点はむろん評価する。</p>	



【授業科目】 庶民の生活文化	【担当者】 高橋 徹
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>私たちの親の世代や、祖父祖母の世代の人々は、どのような暮らしをして、どのようなものに感動し、どのような感じ方や考え方をしてきたのだろうか。戦後日本人の生活の歴史を理解し、また、みなさんが自分自身の生活についても、考えるきっかけを得ることを目的とします。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>テキストは使いません。資料を配布する予定です。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>授業の中で紹介していきます。</p>	
授 業 計 画	
<p>生活文化といっても、「衣食住」に限るのではなく、もう少し広く考えていきたいと思っています。例えば、映画や音楽を楽しむことも、私たちの生活の一部でしょう。この、広い意味での生活文化の歴史を理解するために、時代をたどりながら、テーマに沿った、古い映画や関連するドラマの一部分、ドキュメンタリーなどをビデオで見て、それについて議論したり、考えたことを小レポートにまとめたりしながら、授業を進めていく予定です。</p> <p>テーマとしては、次のようなものを予定しています（資料の関係で、変更になることもあります）。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) イントロ～都市化と大衆文化の誕生</li> <li>(2) 第二次世界大戦</li> <li>(3) 戦後復興、民主主義、映画スター</li> <li>(4) 東京オリンピックと大阪万国博</li> <li>(5) 相撲と野球</li> <li>(6) 旅行と寅さん</li> <li>(7) テレビとアイドルの時代</li> <li>(8) テレビゲーム、マンガ、アニメ</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>授業内の小レポート、期末試験をあわせて評価します。</p>	

【授業科目】 現代の文化と風俗	【担当者】 先川 直子
【開講期】 1年 前期	
【授業目標】 わが国の文化や風俗には若者たちがその中心的な役割を担ったものが少なくない。特に、昭和30年代の高度成長期以降は、生活が豊かになるとともに、消費とマスメディアに結びついた若者文化が誕生し、若者たちが風俗やファッションをつくりだしていくようになった。本講義ではその中でも特に若い女性たちが主導権を持って関わったものに焦点を当てて、時代を追いながら見ていき、現在直面している問題点についても考える。	
【テキスト】 使用しない。必要に応じて資料を配布する。	
【参考書】 小池三枝・柴田美恵『日本生活文化史－近現代の移り変り－』（光生館）他 その他のものについては、テーマに応じて、必要な都度紹介する。	
授 業 計 画	
<p>時代順に次のようなテーマを設定し、各テーマについて順次講義を行なう。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ハイカラさん－洋風の導入と和風との折衷－</li> <li>2. モダンガール</li> <li>3. あこがれのアメリカ文化－自由で豊かな生活の象徴－</li> <li>4. 昭和30年代の生活文化革新       <ul style="list-style-type: none"> <li>団地の誕生と核家族の増加</li> <li>家庭裁縫から既製服へ</li> <li>3種の神器と3C－家電製品の普及－</li> <li>インスタント食品の登場</li> </ul> </li> <li>5. 女性の高学歴化と女子学生亡国論</li> <li>6. 「若者」がつくる新しい文化       <ul style="list-style-type: none"> <li>ミニスカート－街角から生まれた若者のファッション－</li> <li>ジーンズ－労働着から反抗・反体制のシンボルへ－</li> <li>新人類文化とDCファッション</li> <li>ディスコ文化とボディコン・ギャル</li> <li>コギャル文化と携帯電話の普及</li> </ul> </li> <li>7. 大量生産・大量消費への反省－「もの」とどう向き合うか－</li> <li>8. 高度情報化社会のもたらしたものと問題点</li> </ol>	
【評価方法】 学期末のレポート・授業時の課題レポート類・出席状況・授業態度などによる総合評価	

【授業科目】現代英米の文学	【担当者】中島好伸
【開講期】1年前期	
<b>【授業目標】</b> 20世紀以降のイギリス、アメリカの文学作品を分析しながら読み、時には文学の歴史や過去の作品との関係に照らし合わせながらその特徴を引き出し、イギリス、アメリカそれぞれの国民性を理解する。	
<b>【テキスト】</b> プリント	
<b>【参考書】</b> 授業内で指示する。	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>イギリス文学を6回、アメリカ文学を6回、それぞれ具体的な作品を取り上げて分析的に読み込んでみる。その上で、それぞれの作品が出てくる社会的歴史的背景を考え、大きな英米の歴史、文学史を浮かび上がらせる。以下のような順番で講義していくので、できるだけ多くの作品に触れて欲しい。</p> <p>イギリス第1回 J.K.ローリング『ハリー・ポッターと賢者の石』          イギリス第2回 D.H.ロレンス『チャタレイ夫人の恋人』          イギリス第3回 コンラッド『闇の奥』          イギリス第4回 サマセット・モーム『お菓子とビール』          イギリス第5回 グレアム・グリーン『情事の終わり』          イギリス第6回 カズオ・イシグロ『日の名残り』          アメリカ第1回 ドライサー『シスター・キャリー』          アメリカ第2回 フィッツジェラルド『グレート・ギャツビー』          アメリカ第3回 ヘミングウェイ『日はまた昇る』          アメリカ第4回 スタインベック『怒りの葡萄』          アメリカ第5回 フォークナー『八月の光』          アメリカ第6回 サリンジャー『ライ麦畑でつかまえて』</p> <p>レポートのため、英米それぞれ最低1冊ずつ読んでおくこと。</p>	
<b>【評価方法】</b> レポート	

【授業科目】 世界の児童文学（教養教育）	【担当者】 瀧口 優
【開講期】 1 年 後期	
<b>【授業目標】</b> 1. 世界の児童文学を紹介しながらその思想を学ぶ。 2. 子ども観を豊かに育てる。	
<b>【テキスト】</b> 「児童文学を英語で読む」（岩波ジュニア新書）	
<b>【参考書】</b> 「英米児童文学の系譜」 こびあん書房	
授 業 計 画	
1. 世界の児童文学を国別、作品別に紹介し、その一部をいっしょに読んでいく。 2. 作品例として 1) 「不思議の国のアリス」（イギリス） 2) 「あしながおじさん」（アメリカ） 3) 「グリム童話」（ドイツ） 4) 「絵のない絵本」（デンマーク）など	
<b>【評価方法】</b> ふだんの学習状況などの平常点（出欠、予習、質問、意見発表など）とレポートで行うことを原則とするが、必要に応じてテストを行う。	

【授業科目】 比較文化論・近代文明と日本人	【担当者】 栗田廣美
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p style="text-align: center;">ペリーの黒船が来て、日本が「開国」してから、およそ150年。 僕は今、53歳。……もう、ペリー以後の歴史の1/3を生きてしまっている！ 「日本の近代」は本当に短い！</p> <p>この150年間、日本人は、欧米の「近代文明」と向き合い苦闘し、その中に呑み込まれてきた。 諸君の生きている「今」も、諸君自身の「人生」も、その文化過程の中に存在している。 「近代文明と日本人」を考えることは、我々が生きている「この、今の日本」を考えることだ。</p> <p>本講では、明治期にアメリカ・ヨーロッパに渡り、「近代文明」との緊張に満ちた出会いを体験した人々を紹介しながら、上記の問題に迫って生きたい。</p>	
【テキスト】 教科書は用いない。必要に応じ、プリントを用意する。	
<p>【参考書】 栗田廣美著『亡命・有島武郎のアメリカー〈どこでもない所〉への旅』（右文書院・刊）。 本学図書館にもあります。近所の公立図書館に、どしどしリクエストしよう！</p>	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>おおむね、以下のような順序で講義する予定だが、諸君の興味・問題意識・理解度によって、途中で変更することもありうる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「最近150年の日本」をどう見るか。       <ol style="list-style-type: none"> <li>① 日本の歴史の中でも、8世紀前後と同じくらい「奇妙な時代」。</li> <li>② 「巨大な文明」と向きあうこと。           <ol style="list-style-type: none"> <li>a 憧れと恐怖</li> <li>b 「英語帝国主義」と日本人。</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>2 「国家的使命感」の中で出会う「近代文明」——「鹿鳴館世代」の欧米体験。       <ol style="list-style-type: none"> <li>① 内村鑑三・新渡戸稲造とアメリカ</li> <li>② 森鷗外と「ドイツ帝国」</li> </ol> </li> <li>3 「個人」として出会う「近代文明」——夏目漱石と「日露戦争世代」の欧米体験。       <ol style="list-style-type: none"> <li>① 夏目漱石のイギリスと、有島武郎のアメリカ</li> <li>② 日露戦争世代と「古きヨーロッパ」の発見           <ol style="list-style-type: none"> <li>a 永井荷風と「ふらんす」</li> <li>b 有島武郎と「ゴシック・中世ヨーロッパ」</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>4 「岡倉天心」という巨人       <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「中国は二つ」——システムとしての文明</li> <li>② 「アジアは一つ」——西欧文明を相対化するシステム</li> <li>③ インドとアメリカ——「日本＝現実」からの亡命先</li> </ol> </li> </ol> <p>ノートをしっかり取りながら聞いていれば（予備知識が全く無くても）分かるはずである。大学での講義ノート・メモの取り方には慣れていないと思われるので、最初はメモの要点も指示しながら進める。</p> <p>大切なことは「知識」や「結論」ではない。 自分自身の「現在」を、大きな「場」の中に置いて考えることだ。 諸君の中に、こうした「自分自身への問題意識」を喚起することを、最大の目標にしたい。</p>	
<p>【評価方法】 筆記試験（ノート・プリント等、何でも参照可）。講義に基づいて書く形式。しっかりノートをとっておくこと。出席点を加味して、総合的に評価する。</p>	

【授業科目】 国境を越える民俗学

【担当者】 東 喜 望

【開講期】 1年前期

【授業目標】 古来、社会の基底を支えてきたのは、名もなき民衆である。かつて、彼らの多くは文字を知らず、その生活に必要な技術や文化を口づてに肉体を通して伝えてきた。この授業では、古来、民衆が大切に守り伝えてきた生活の基層の文化や民衆の精神のあり様、生活の実態などを対象にして考察を進める。特に今年は、中国や東南アジアの島々、かつての日本の「国境を越えて」生きた人々の生活を重視したい。

【テキスト】 民俗事例の資料として、『沖縄・奄美の説話と伝承』(おうふう刊)を使用する。

【参考書】 適宜指示する。映像資料を使用する。

### 授 業 計 画

#### 講義概要

1. 「伝承」「民俗」とは何か。
  2. 西洋民俗学の発生・日本民俗学の発祥と展開
  3. 自然と人類
  4. 人類の智慧と技術と生活文化(食・住・衣)
  5. 国境なき人々の原初の暮らし(非定住の生活)
    - (1) 山人——日本の山人(マタギ・サンカなど)、ユーラシア大陸の遊牧民、中国・台湾・東南アジアの狩猟民
    - (2) 海人——日本の海人と家船・中国の蛋民・東南アジアの漂海民
  6. 原初の定住生活——焼き畑農耕から稲作農耕へ。
  7. ムラの形成とその基本構造
  8. 村落祭祀と民俗行事など。
- まとめ——新たな「<sup>ち</sup>結い」は可能か。-----「脱国家」の問題

【評価方法】 定期試験時の筆記試験。テキスト・配布プリント・ノート等参照可。  
(追再試験は参照不可。)

【授業科目】 現代社会と人権	【担当者】 平賀明彦
【開講期】 1年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>私たちを取り巻く社会の中で、まだまだ取り払われることなく横たわっている多くの問題、すなわち、不平等や差別、自由を束縛する圧力、暴力といったものについて、その原因を突き詰め、解決策を模索しようとする人権の問題に行き当たる。また、社会福祉の考え方や子どもの権利養護といった問題にも人権意識は欠かせない基本的要素である。しかし、人として生きる権利が人間すべてに生まれながらにそなわっているという考え方が成立したのは、実はそんなに古いことではない。そういった人権思想の歴史にも触れながら、現在の人権意識にかかわる問題を取り上げていく。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>とくに定めない。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>日本弁護士連合会編『ところで、人権です』岩波ブックレット、など多数あるのでその都度紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>人間として生きる権利を、すべての人が平等に生まれながらにして持っているという考え方がしっかり定着したのはいつかということになると、現在ですら不十分という答えになるかもしれないが、少なくともごく最近であることは確かである。この生存権保障が人権の基本であり、それは国民主権の成り立ちと密接な関係を持っている。また、平和の問題と相互保障的な関係にあるとも言える。この生存権の成り立ちを歴史的に突き止めることからはじめ、それがどのようにして現在の基本的人権の考え方に至ったかを明らかにする。その上で、現在の人権問題の不十分な点、平和との問題で解決しなければならぬ点、あるいは「知る権利」や環境権のような今日的な新しい権利の問題についても触れていく。</p> <p>以下のような柱立てで進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇「人を殺しては何故いけないか」－素朴な疑問が人権意識の基本</li> <li>◇「万人対万人の戦争状態」－ホブズ『リヴァイアサン』は主張する</li> <li>◇アメリカ「独立宣言」とフランス革命「人権宣言」－人権思想の源流</li> <li>◇人権としての団結権－「自由人の自由な連合」の主張</li> <li>◇社会保険から社会保障へ－「すべての者に人間たるに値する生活を」</li> <li>◇民族自決の原則－植民地の人権宣言</li> <li>◇女性解放運動と女性の人権－ウルストンクラフトの『エミール』批判</li> <li>◇「子どもの権利条約」への道－まずは子どもを育てる母親の権利から</li> <li>◇平和的生存権の明文－日本国憲法の先駆性</li> <li>◇人権の国際化－世界人権宣言から国際人権規約へ</li> </ul>	
<p>【評価方法】</p> <p>学期末にレポートを課す。授業中に小レポートの提出を求めることがある。</p>	

【授業科目】 憲法と私たち（日本国憲法）	【担当者】 松田 浩
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>この授業では、日本国憲法の仕組みと働きの大枠を理解することを目標にします。みなさんがこれから市民として、職業人として生活していくうえで、最低限必要な憲法や法についての基本的な考え方を、この授業を通じて身につけて下さい。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>無</p>	
<p>【参考書】</p> <p>さしあたり、芦部信喜『憲法』（岩波書店）。「面白い本」ではありませんが、日本国憲法についてのスタンダードな知識を得たい方は手にするといいでしょう。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1、日本国憲法とは何か</li> <li>2、日本国憲法の基本原則</li> <li>3、国民主権・天皇制</li> <li>4、平和主義</li> <li>5、基本的人権総論</li> <li>6、精神的自由権</li> <li>7、経済的自由権</li> <li>8、人身の自由・国務請求権・参政権</li> <li>9、社会権</li> <li>10、統治機構総論・国会</li> <li>11、内閣・財政・地方自治</li> <li>12、裁判所・違憲審査制</li> <li>13、憲法改正</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点（出席）と期末試験で評価</p>	



【授業科目】 日本とアジアの近現代史	【担当者】 平賀明彦
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>現在の日本とアジアの関係を考えるとき、近代以降の歴史的経緯は背景として重要である。韓国、中国の近隣諸国をはじめ、東南アジアの国々に対して、戦前の日本がどのような接し方をしたのか、そのことと日本の近代化とはどのような関係があるのか。これらについて、歴史事実を明らかにしながら検討するとともに、現在のアジアの中の日本の位置を確定していきたい。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>とくに定めない。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>多数あるのでその都度紹介する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>近代化を開始した日本は、その当初から、琉球、台湾、朝鮮半島、そして中国に対して武力による侵略を行った。まだ国内の体制すら整備されていない段階から外に対して兵を送り出したのはなぜなのだろうか。明治維新直後の征韓論に象徴される対外膨張主義の検討からはじめ、最終的に東南アジア地域を含め、インドにまで占領地を拡げていった日本の行動について、その経過を明らかにする。そして、その過程でそれら国々との間にどのような関係ができ、それがまた、現在の日本とアジアとの関係にどのような影響を及ぼしているのかを検証したい。</p> <p>また、その間多くの人々がアジアとの直接的な関係をもち、多くの悲劇に見舞われ、あるいは加害者としての立場に立ってしまった。その具体像についても、聞き取りや映像資料を用いてできる限り触れていきたい。</p> <p>おおむね以下のような内容で話を進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇明治の始まりと「富国強兵」路線－植民地化の危機意識</li> <li>◇欧米列強の圧力と日本の選択－外へ外へと矛盾の転嫁</li> <li>◇征韓論と台湾出兵－何故、朝鮮半島、台湾への出兵なのか</li> <li>◇福沢諭吉の果たした役割－「脱亜論」の影響力</li> <li>◇「一等国」日本の誕生－アジアへの足場＝韓国併合</li> <li>◇関東大震災の時に何が－アジア人に襲いかかる日本人</li> <li>◇中国大陸への積極政策－日本軍隊が残した爪痕</li> <li>◇大陸を目指す人々－満州移民と大陸の花嫁、そして残留孤児が</li> <li>◇日本に連行されたアジア人－強制連行の記録は訴える</li> <li>◇現在の、そしてこれからのアジアと日本の関係－何を語り継ぐか</li> </ul>	
<p>【評価方法】</p> <p>学期末にレポートを課す。授業中に小レポートの提出を求めることがある。</p>	

【授業科目】 現代社会と教育      【担当者】 民 叙 言

【開講期】 前期

【授業目標】  
現代社会は、多様な相をみせ、大きく変化してきている。その  
よびで私たちは生活する、充実した毎日を送るためには「教育」は欠か  
せない。本講では幼児教育(保育)に限定し、社会との切りわりを考えていく。

【テキスト】  
平成14年版 ハンドブック 教育・保育・福祉 関係法令集 北大路書房

【参考書】  
講義の中で必要に応じて指示する

授 業 計 画

1. 人間にとって「教育」はどのような意味をもつか
2. 乳幼児期の「教育」としての保育がもつ意味
3. 現代社会の特徴 (1) 家族生活
4. 同 上 (2) 地域生活
5. 現代社会における保育がもつ課題 (1) 幼稚園
6. 同 上 (2) 保育所
7. 同 上 (3) 学童保育所
8. 現代社会における「教育」 (1) 福祉と教育
9. 同 上 (2) 国際化と教育

【評価方法】  
ペーパーテストと出席点による

【授業科目】 社会福祉の考え方	【担当者】 鍾 家新
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>現代社会における「社会福祉」とは何か。日本の社会福祉の特徴と問題点は何か。21世紀の日本型福祉国家はいかに改革されるのか。本講義は、歴史社会学の視点と国際比較の方法によって前述の諸問題を分析する。本講義は①現代日本における社会福祉の成立・発展過程、②日本の社会福祉諸制度の現状と問題点、③日本型福祉国家の特徴とゆくえ、についての理解を深めることを目標とする。本講義の受講によって、学生たちは現代社会における社会福祉の機能及び自分の人生への影響を、複眼的に考察するための基本知識・考え方及び分析能力を身につけることができる。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>鍾家新著『日本型福祉国家の形成と「十五年戦争」』ミネルヴァ書房、1998年。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>講義の中で必要に応じて参考文献を紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>I 社会福祉に関する基礎概念 ①社会福祉／②社会保障／③社会保険／④公的扶助／⑤福祉国家／⑥社会政策</p> <p>II 社会福祉の成立発展の諸背景 ①産業構造・就業構造の変化／②労働運動・「社会主義」／③現代戦争 ④経済成長・富裕化／⑤少子高齢化・外国人の増加／⑥人権意識・価値意識の変化</p> <p>III 社会福祉の考え方 ①ナショナル・ミニマム論／②選別主義と普遍主義／③ノーマライゼーションの理念 ④「福祉生活の質」の考え／⑤最適福祉ミックス論／⑥分権化と参加</p> <p>IV 社会福祉諸制度の現状と問題点 ①公的年金保険制度の形成過程・現状・課題／②医療保険制度の形成過程・現状・課題／③生活保護制度の現状と問題点／④介護保険の現状・問題点／⑤日本の社会福祉制度政策における外国人の位置づけ</p> <p>V 総括 ①東アジアの福祉国家化と伝統文化との相乗・相剋 ②21世紀における日本型福祉国家のゆくえ</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>①出席状況と②筆記試験（テキスト・配布資料・自筆ノート持ち込み可）</p>	

【授業科目】男と女・ジェンダーを考える	【担当者】富永静枝
【開講期】1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>ジェンダー概念を理解し、これまでの社会制度や性別役割意識の問題点をジェンダー視点から捕らえ直し、男女共同参画社会に向けての新しい社会システムのあり方や男女の関係性をさぐり、「男らしさ」・「女らしさ」の呪縛から開放される態度を養成する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>テキストは使用しない。必要に応じて授業時に資料プリントを配布する。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>授業時に随時紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>今日、家族や女性を取り巻く社会的状況は大きく変化した。男女共同参画社会が志向され、男女雇用機会均等法の改正や介護・育児休業法の実施など平等に向けての法的整備は進んだが、実生活の上では多くの問題を残している。不況下での女子学生の就職は厳しく、結婚後も家事・育児と職業の両立に悩むなど、女性が能力を發揮して、一人の人間として自立して主体的に生きることは困難な状況にあり、男性もまた厳しい労働環境の中で豊かな家族関係を築くことは難しい状況にある。そこでこの授業では人生のパートナーである男性と女性が、ともに人間らしく豊かに生きるためにはどうしたら良いか、これからの望ましい男女のあり方や、社会システムのあり方について学ぶ。授業方法は講義だけでなく、ビデオや新聞記事情報なども活用し、意見発表や討論なども加えて行います。</p> <p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、 ジェンダーとはー性別役割分業とその問題点ー</li> <li>2、 女性のライフサイクルの変化</li> <li>3、 ジェンダー統計に見る現状と課題</li> <li>4、 労働とジェンダー</li> <li>5、 福祉とジェンダー</li> <li>6、 女性と人権ードメスティックバイオレンスー</li> <li>7、 男女平等をめざす世界の運動と日本の動き</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>筆記試験(ノート、授業中の配布資料など参照可)、平常時の提出物、出席状況の総合評価。</p>	

【授業科目】現代世界とマイノリティ	【担当者】中島好伸
【開講期】1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>アメリカにおいてマイノリティと言われる民族の現状や現在にいたる歴史的背景を理解し、それが文学作品でどう描かれているのかをしてみる。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>プリント</p>	
<p>【参考書】</p> <p>必要に応じて紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>アメリカには、マイノリティと呼ばれる少数民族が多数存在する。黒人すなわちアフリカ系アメリカ人、インディアンすなわちネイティヴ・アメリカン、さらにはユダヤ系、中国系アメリカ人、そして日系。あるものは自らの土地を奪われ、そしてあるものは独自の文化を禁止された。またあるものは自主的にはあってもアメリカに渡ってきたために、同化政策ゆえに他者の言語を強制された。このような過去を持つマイノリティたちは、現代においてさまざまな問題を内に外に抱えていると言わざるを得ない。このような現代のマイノリティの状況や問題を以下のような順番で一つつ取り上げていく。そして、彼らマイノリティの描いた文学作品を見て、彼らの心にまで迫ってみよう。</p> <p>もちろんマイノリティの問題はアメリカに限ったことではない。民族紛争が多発していることからわかるように、マイノリティの問題は世界の問題である。そこで、アメリカからスタートして、世界のマイノリティまで視野を広げてみたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 アフリカ系アメリカ人の歴史</li> <li>2 1930年代から50年代の黒人小説</li> <li>3 公民権運動内の性差別</li> <li>4 19世紀のネイティヴ・アメリカン史</li> <li>5 インディアンの自然観</li> <li>6 ユダヤ人の歴史とアウシュビッツ</li> <li>7 アメリカのユダヤ人</li> <li>8 中国系アメリカ人</li> <li>9 日系アメリカ人</li> <li>10 世界のマイノリティ</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート</p>	

【授業科目】女性労働の問題	【担当者】富永静枝
【開講期】1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>これからの社会は男女が互いに支え合いながら、ともに職業生活と家庭生活を両立させ、ともに自立して生きることが求められる。受講生たちが伝統的な性別役割分業意識から解放され、職業生活と家庭生活の両立をめざす努力をすることを期待したい。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>テキストは使用しない。必要に応じて授業時に資料(プリント)を配布する。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>授業時に随時紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>男女雇用機会均等法の改正や育児・介護休業法の施行などにより、近年女性の労働環境は大きく変化した。女性が自立して生きるためには経済的自立は不可欠である。しかしまだまだ出産・育児や介護のために退職を余儀なくされる女性は多く、仕事と家庭の両立は困難な状況にある。本講では、働く女性たちが抱える問題点を明らかにし、問題解決への方向性を探る。(教養科2年「女性労働論」と同時開講)</p> <p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、近代日本における女性労働の歩み</li> <li>2、女性労働の現状と課題</li> <li>3、女性労働と法</li> <li>4、女性労働の国際比較</li> <li>5、家事・育児・介護と女性労働</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>学期末のレポート、平常時の提出物、出席状況の総合評価</p>	

【授業科目】 地域の生活と家族	【担当者】 民秋 言
【開講期】 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>私 humans は、たいてい、家族という集団に所属し、その一員として生活する。つまり、そのなりに生まれ出、育ち、生活し、老年を送る。この家族は地域のなかにある。地域のあり方と大きく関わっている。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>講義の中で必要に応じて指示する</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>同 上</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間にとって家族とは何か</li> <li>2. 家族のほたらき(機能)</li> <li>3. 家族のなかに人間関係 (1) 夫婦関係</li> <li>4. 同 上 (2) 親子関係</li> <li>5. 同 上 (3) きょうだい関係</li> <li>6. 日本の家族の特徴 (1) 「イエ」の制度</li> <li>7. 同 上 (2) 核家族と直系家族</li> <li>8. 地域社会の変化・都市化</li> <li>9. 地域のなかに生活・コミュニティ</li> <li>10. 地域生活と家族のあり方</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>ペーパーテストと出席点とによる</p>	





專門教育科目（1年）



【授業科目名】	社会福祉	【担当者】	佐野 英司
【開講期】	1年 前期		
<p data-bbox="163 293 326 327">【授業目標】</p> <p data-bbox="178 342 1387 517">社会福祉とは何か、社会福祉の対象は誰か、社会福祉とはどうあったらよいかをこどもたちや、障害者、高齢者をはじめとした住民の生活実態との関係で学びます。とりわけ、こどもたちや親、障害児・者の真の願いに心を寄せ、保育者に求められる援助とはどうあったらよいか考える力を養います。</p> <p data-bbox="178 533 1345 663">保育を学ぶものにとって必要な基本的なものの見方・考え方の基礎を学び、後期の「児童福祉」、「地域の福祉」、2年次の社会福祉方法論へと結びつけることを目標にします。</p>			
<p data-bbox="163 723 326 757">【参考図書】</p> <p data-bbox="225 772 1230 806">「子どもへのまなざし」 (福音館書店・・・佐々木正美著)</p> <p data-bbox="225 819 1230 853">「現代の社会福祉入門」 (保育出版社・・・浅井・佐野編)</p> <p data-bbox="225 866 1230 900">「基礎から学ぶ保育制度」 (保育研究所・・・草土文化発売)</p> <p data-bbox="272 916 1361 949">その他、授業の中で適宜紹介します。また、参考にする論文のコピーを授業で配布します。</p>			
<p data-bbox="163 965 393 999">【授業の進め方】</p> <p data-bbox="178 1014 1357 1095">上記授業目標にそって、「社会福祉講義ノート(2002年版)」をつくり、それに基づいて授業を進めていきます。</p> <p data-bbox="178 1111 1379 1191">授業のはじめと終わりにミニレポートを書いてもらい、自らその日に学んだ事柄の確認ができるよう努めます。(7月はじめにまとめて返却します)</p> <p data-bbox="178 1207 1392 1480">授業は、定時に始めます。講義は75分程度でおさめる努力をします。最初の5分間で、その日の授業について考えることをミニレポートで書き、それで出席確認をします。授業の合間になるべくビデオや小グループによるディスカッションを取り入れ、最後の10分間で自分自身の授業のまとめレポートを書きます。またアンケートにより受講学生の声を授業に反映させていきたいと考えています。クラスによっては1限目ですが、遅刻しないよう頑張っていたきたいと願います。</p> <p data-bbox="178 1496 1379 1621">75分授業を進めるためには、事前自己学習も必要ですし、補講も含めた授業回数の確保は必要となります。学生のみなさんと共に力を合わせ、迫力ある、心に残る授業をつくっていききたいと願っています。</p>			
<p data-bbox="163 1637 330 1671">【評価方法】</p> <p data-bbox="210 1686 1282 1767">毎授業の度に提出するミニレポートと出席状況(平常点)30パーセント、定期試験(レポートです)70パーセントの総合点で評価します。</p> <p data-bbox="210 1783 879 1816">したがって、出席、遅刻は非常に重視します。</p>			

【授業科目名】 地域の福祉	【担当者】 佐野 英司
【開講期】 1年 後期 (選択科目)	
<p>【授業目標】</p> <p>前期の「社会福祉」で学んだことを基礎に、私たちが住んでいる地域社会レベルで住民（子どもや障害者、高齢者などあなた自身を含めすべての人々）の暮らしの場面から発生する生活上の悩みや困難さ、解決を迫られる問題点にはどのようなことがあるかを学びます。そのうえで立って、地域住民がお互いに住みやすい地域社会をつくっていくにはどうしたらよいか、それに貢献できる保育・福祉労働者になるにはどうしたらよいかを考え学びます。地域に対し実践力をもった保育者となる基礎を学びます。</p>	
<p>【参考図書】</p> <p>佐野がこの授業のために作った「地域の福祉」講義ノートを使用します。（予定）参考図書などは授業中に適宜紹介します。</p>	
<p>【授業の進め方】</p> <p>授業は、佐野の20年余の地域福祉実践を土台に、上記授業目標を具体化し作成した「地域の福祉」講義ノートを中心に進めます。また、地域で暮らす身体障害者、精神障害者や育児・子育て中のお母さんにも特別講師として話を聞く機会を持ったり、ビデオもできる限り活用し、グループディスカッションも取り入れ、地域社会に発生する福祉問題を共有し、考えあい、実践的視点をもった授業をめざしたいと考えています。</p>	
<p>【評価の方法】</p> <p>毎回の授業態度を重視します。毎日、授業の最後に書くミニレポートで出席を確認し、出席率を重視します。授業は定時に始めます。成績は上記授業態度とレポートをの総合点で評価します。</p>	

【授業科目】 児童福祉	【担当者】 中山正雄
【開講期】 1年 後期	
<b>【授業目標】</b> 1. 児童福祉の歴史的展開過程をとおして児童福祉の意義について理解させる。 2. 児童福祉の現状と児童福祉問題の背景及び児童福祉の法律・制度・施策について理解させる。 3. 児童福祉現場における福祉サービスの現状と課題を理解させる。 4. 児童福祉の専門職としての保育士の役割、家族も含めた支援への役割について理解させる。 5. 児童福祉の展望と課題を理解させ児童福祉に取り組む姿勢を養う。	
<b>【テキスト】</b> 竹中哲夫他（編）『子どもの世界と福祉』ミネルヴァ書房	
<b>【参考書】</b> 浅井春夫著『子ども虐待と性教育』大修館書店	
<b>授 業 計 画</b>	
1. 児童福祉の歴史的展開と児童福祉の意義 (1) わが国における児童福祉の歴史 ～概念と理念の形成過程～ (2) 児童福祉法の理念 (3) 子どもの権利の形成過程と子ども観の変遷 (4) 子どもの権利条約の内容と意義 2. 児童福祉の現状と児童福祉問題の背景及び制度・施策 (1) 家族の変化・多様化と子どもの生活 (2) 少子高齢化社会における子どもの生活 (3) 保育問題・児童養護問題の発生とその背景 (4) 障害問題とノーマライゼーション (5) 子ども虐待問題の背景と防止 (6) 児童福祉の制度・機関・施設・費用 (7) 諸外国の児童福祉 3. 児童福祉施設現場におけるサービスの現状と課題 (1) 福祉事務所・児童相談所の役割、現状と課題 (2) 保育の現状と課題 (3) 養護の現状と課題 (4) 母子福祉及び一人親家庭の現状と課題 (5) 少年非行と福祉・教育 4. 保育士の役割と子育て支援 (1) 児童福祉の専門職資格と職務・労働条件 (2) 少子社会における子育て相談援助あり方と保育士の役割 (3) 家族・地域と施設の役割 (4) 児童福祉関連機関とのネットワークと保育士の役割 (5) 児童福祉現場で働くこと、児童福祉施設職員論（資質・倫理） 5. 児童福祉の展望と課題 (1) 社会福祉のあり方と課題 (2) 児童福祉の方向と課題	
<b>【評価方法】</b> 授業の出席状況と定期試験	

【授業科目】 保育原理Ⅰ	【担当者】 岡本富郎
【開講期】 1年前期	
<b>【授業目標】</b> 1. 子どもと保育の現状を知る 2. 子どもを知る 3. 保育の大切さを知る（幼稚園と保育園の意義を知る） 4. 保育所と幼稚園の歴史を知る 5. 保育者の役割を知る	
<b>【テキスト】</b> 「新保育原理」 岡本富郎他著 萌文書林	
<b>【参考書】</b>	
<b>授 業 計 画</b>	
1. 授業の目的の説明と自己紹介及び保育原理という科目の位置 2. 子どもと保育と家庭の現状の現状を知る 3. 子どもとはどういう存在か（子ども観と子ども観の必要性、子どもを見るとは） 4. 幼稚園の歴史（フレーベル） 5. 幼稚園の意義（教育基本法、学校教育法、「幼稚園教育要領」） 6. 保育所の歴史（オウエン） 7. 保育所の意義（児童福祉法、「保育所保育指針」、様々な保育所と保育ニーズ） 8. 保育者の役割	
<b>【評価方法】</b> 試験	

【授業科目】 保育原理Ⅱ	【担当者】 岡本富郎
【開講期】 1年後期	
<b>【授業目標】</b> 1. 保育と環境との関係を知る 2. 保育内容を知る。 保育方法を知る 4. 園と家庭との連携を知る 5. 保育の評価	
<b>【テキスト】</b> 「新保育原理」 岡本富郎他著 萌文書林	
【参考書】	
授 業 計 画	
1. 保育における環境の意義について（環境とは何か、環境と子ども） 2. 保育環境の内容（園舎、園庭、地域、多様な保育環境） 3. 保育目的、目標、と保育内容との関係 4. 保育内容とは何か 5. 保育内容と保育方法との関係 6. 保育方法とは何か 7. 保育方法、保育技術、子どもへの援助、指導、関わり方 8. 園と家庭との連携（連携とは何か、連携の必要性） 9. 連携の方法と内容 10. 連携の実際 11. 保育の評価。	
<b>【評価方法】</b>  試験	

【授業科目】 保育者論	【担当者】 民秋 言・喜多村純子
【開講期】 1 年 前期	
<b>【授業目標】</b> 1、教職についての意義を理解する。 2、保育者の社会的役割を理解し、かつ職務内容を知る。 3、保育者としての必要な資質について理解し、かつ習得する。 4、望ましい保育者像を明らかにする。	
<b>【テキスト】</b> ハンドブック 教育・保育・福祉 1999年度版 北大路書房刊	
<b>【参考書】</b> 同 上	
<b>授 業 計 画</b>	
1、保育科学生として「保育」を学ぶことの意味を確かめる。 2、保育者を目指す者としての保育科学生の基本的姿勢を卒業生の声として紹介する。 3、保育実践をビデオ等から学ぶ。(Ⅰ) 4、保育実践をビデオ等から学ぶ。(Ⅱ) 5、保育実践をビデオ等から学ぶ。(Ⅲ) 6、保育者の職務内容を理解する。(Ⅰ) 7、保育者の職務内容を理解する。(Ⅱ) 8、保育者の職務内容を理解する。(Ⅲ) 9、保育者の体験論から学ぶ。 10、保育者として問われる力量を学ぶ。 11、保育者に求められる今日的専門性を学ぶ。	
<b>【評価方法】</b> ペーパーテスト（ノート等持ち込み不可）	



【授業科目】 教育原理	【担当者】 黒田 瑛
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>「教育」の意味についての理解を深め、わが国の教育の歴史と今日の教育の基底にある思想を学ばせることにより、学生が将来の保育者、親、市民としてこれからの教育のあり方について考える力を養うことを目標とする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>テキスト： 『教育原理』（北大路書房 秋山和夫、森川 直編）</p>	
<p>【参考書】</p> <p>資料を用意し、随時参考書を紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. わが国の教育の現状と課題 今日の教育・保育改革の経過とその方向</li> <li>2. 人間と教育 人間は教育されうる存在であり、教育が必要であること。</li> <li>3. 教育の意味と目的 保護、養育として、社会化として、そして価値への覚醒としての教育 教育目的の個人的・社会的・文化的側面</li> <li>4. 教育の場 — 家庭、園、学校、社会 それぞれの特徴とかわり</li> <li>5. わが国の教育の歴史（主として明治以降） 「学制」による国民教育制度の成立と、教育勅語による国家主義教育への傾斜</li> <li>6. わが国の教育の歴史（大正、昭和） 大正自由教育から全体主義、軍国主義の教育へ、そして戦争</li> <li>7. 第二次世界大戦後の教育 連合国の日本占領、米国教育使節団報告書、日本の教育の近代化と自由化</li> <li>8. 教育基本法の成立とその思想 日本国憲法と教育基本法の理想、教育基本法の意義</li> <li>9. 学校教育法、同施行規則、学習指導要領 各段階の学校教育の目的と内容についての規定 教育課程と教育課程の基準</li> <li>10. 幼稚園教育要領 幼稚園教育の基本と目標および教育課程</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>学期末に試験を行う</p>	

【授業科目】 教育の思想と歴史	【担当者】 岡本富郎
【開講期】 1年後期	
<b>【授業目標】</b> 1. 教育、保育の思想と歴史を知る重要性を知る 2. 教育、保育思想家の紹介と歴史的な流れ（ルソウ、ペスタロッチーなど） 3. フレーベルと幼稚園（フレーベルの思想と幼稚園設立） 4. オウエンと保育所（オウエンの思想と保育所設立） 5. 教育、保育思想と現代の保育との関係	
<b>【テキスト】</b> 「新保育原理」 岡本富郎他著 萌文書林	
<b>【参考書】</b> 「教育原理」 岡本富郎他著 福村出版	
授 業 計 画	
1. 教育、保育の思想と歴史を知ることの重要性 2. 主な教育、保育思想家の紹介 3. 教育、保育思想の主な流れ（ヨーロッパと日本） 4. フレーベルが生きたドイツの国情と家庭と子ども 5. フレーベルの生い立ちと彼の思想、幼稚園設立の理由 6. オウエンが生きたイギリスの国情と家庭と子ども 7. オウエンの経歴と保育所設立の理由 8. ルソウの思想 9. ペスタロッチーの思想 10. 教育、保育思想と現代の保育との関係	
<b>【評価方法】</b>  試験	

【授業科目】 発達心理学	【担当者】 小松 歩
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育者として子どもと関わる際に必要な「発達」に関する基礎的知識を理解する。</li> <li>2. 人は、受精・誕生から死に至る生活の全過程で、周囲の環境や人との関係を通してその可能性を実現していく。この人間の「発達（生涯発達）」について理解する。</li> <li>3. 生涯発達の視点から、その人の現在の姿・行動がどうあるべきか、またどのような援助が必要かが考えられるよう、各発達期の特徴について理解する。</li> <li>4. 発達の起こるメカニズム、とりわけ子どもと大人（保育者）の相互作用の重要性を理解する。</li> <li>5. 「保育所保育指針」の発達項目を理解する。</li> </ol>	
<p>【テキスト】 【参考書】</p> <p>-----</p> <p>授業のなかで適宜紹介する</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>本講義では、乳幼児から児童期を中心に発達の基本的特徴（「認知発達」を軸にする）と、それをもたらす要因について概説する。また、各時期の発達を援助する方法を心理学的観点から探る。</p> <p>プリントやビデオ教材などを活用し、子どもたちの具体的な姿を参考にしながら、一人ひとりの子どもが発達していく姿を正しく理解できるような講義にしたい。</p> <p>およそ、以下のような項目にそって進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「発達心理学」の考え方 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「発達」とは何か、発達心理学を学ぶことの意味を理解する。</li> <li>(2) 「発達していく」子どもの姿を、一人ひとりの子どもに即して的確にとらえることの必要性を理解する。</li> <li>(3) 生涯発達の視点から、発達におけるそれぞれの「発達段階」を理解する。</li> </ol> </li> <li>2. 発達のメカニズム <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 発達とは、主体（子ども）が環境に能動的に関わって起こるといふ、発達の基本的メカニズムを理解する。</li> <li>(2) 発達初期からの豊かな経験・体験の必要性を理解する。</li> <li>(3) 発達可能性（可塑性）、敏感期の意味、発達課題について理解する。</li> </ol> </li> <li>3. 各発達期の特徴 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 胎児期 胎児の能力</li> <li>(2) 新生児期 有能性（原始反射、感覚能力、人への志向性）を理解する。</li> <li>(3) 乳児期 愛着関係の発達とことばを獲得するための基礎（情動によるコミュニケーション、三項関係）を中心に理解する。</li> <li>(4) 幼児期 ことばの発達、認知の発達を中心に理解する。</li> <li>(5) 児童期 認知の発達、対人関係の発達を中心に理解する。</li> <li>(6) 青年期 認知発達、自己認識・性役割の発達を中心に理解する。</li> <li>(7) 成人期以降 諸能力の変化と特徴</li> </ol> </li> <li>4. 乳幼児期における発達援助のあり方（保育所保育指針の発達項目を中心に）</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況と定期試験による</p>	

【授業科目】 遊びの発達心理学	【担当者】 小松 歩
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳幼児期の子どもにとって主体的活動の中心である「遊び」の重要性を理解する。</li> <li>2. 乳幼児期にみられる遊びと、その発達的变化を理解する。</li> <li>3. 保育現場における具体的な遊び場面から、「遊びを通しての総合的な保育」の意味と重要性を理解する。</li> <li>4. 遊びを分析的にとらえる方法について理解し、具体的な遊びの姿から子どもの「育ち」を的確に把握する力を養う。</li> <li>5. 発達評価の意味と基本的方法を理解し、遊びや生活全体を通して子どもの「育ち」を的確に把握する力を養う。</li> </ol>	
<p>【テキスト】 【参考書】</p> <p style="text-align: center;">授業のなかで適宜紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>保育の現場では、さまざまな子どもたちが存在する。  本講義では、発達心理学で学んだ知識をもとに、具体的な保育の場面において発達しつつある子どもの姿を実践的に捉えること（発達の評価）の意義と、具体的方法について概説する。  およそ、以下のような項目にそって進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「遊び」の考え方 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもにとって「遊び」とは何か</li> <li>(2) 遊びの役割</li> </ol> </li> <li>2. 「遊び」の分類と主たる遊びの発達的变化 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 乳児期の遊び（事物のもて遊び、人との交流遊び）</li> <li>(2) ごっこ遊び</li> <li>(3) ルール遊び</li> <li>(4) 絵本・劇遊び、かく・描く遊び</li> <li>(5) 労働的遊び</li> </ol> </li> <li>3. 遊びをとおして学ぶこと <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 科学的知識・社会的知識</li> <li>(2) コミュニケーションスキル</li> <li>(3) 自分について</li> </ol> </li> <li>4. 保育現場における遊びとその援助 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 乳児期の遊び</li> <li>(2) 幼児期前期 ごっこ遊びを中心に</li> <li>(3) 幼児期後期 ルール遊び、劇遊びを中心に</li> </ol> </li> <li>5. 遊びを分析にとらえる方法 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) ごっこ遊びの展開</li> <li>(2) 仲間入りの方法を中心に</li> </ol> </li> <li>6. 発達評価の方法 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 発達の評価とは</li> <li>(2) 発達検査の具体的方法</li> </ol> </li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">出席状況と定期試験による</p>	

【授業科目】教育心理学	【担当者】堀江まゆみ
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもの心の成長・発達には、子ども自身に内在するさまざまな力と養育者など環境からの影響、はたらきかけとの相互作用の中で実現される。特に近年では、これまで以上に初期発達における大人と子どものコミュニケーションの重要性が指摘されるようになった。本授業では教育心理学の諸領域について、具体的な保育場面を想定し、保育者の援助・指導法のあり方と関係づけながら考えていく。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>子どもとむかいあうための教育心理学概論（会田元明ら著，ミネルヴァ書房）</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「教育心理学」で何を学ぶか？ <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが“育ち”、子どもと“関わり”、子どもに“教える”ことの基本を理解する</li> </ul> </li> <li>2. 教育と「発達」について <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てや保育のあり方と子どもの育ちはどう関わるのかについて理解する</li> </ul> </li> <li>3. 「学習」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・しつけや訓練による学びや、知りたいという気持ち・理解する喜びから生まれる学びなど、学習のさまざまな形について理解する</li> </ul> </li> <li>4. 「性格」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・性格のさまざまなタイプとそれがどうやって作られていくかについて理解する</li> </ul> </li> <li>5. 「適応」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの心の健康とそれを妨げるものについて学ぶ、子どもの悩みをどう解決するか</li> </ul> </li> <li>6. 「評価」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの心の成長や個性をどのように知るか、その方法を学ぶ</li> </ul> </li> <li>7. 「教授法」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どものやる気を引き出す教え方とは？</li> <li>・ひとりひとりに合った教え方とは？</li> </ul> </li> <li>8. 「集団心理」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間の中で伸びる力について考える</li> </ul> </li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>定期試験（持ち込み不可）. 出席点</p>	

【授業科目】 家族援助論

【担当者】 民 秋 言

【開講期】 1年前期

【授業目標】  
「子育て支援」、「保育指導」が、保育所の重要な役割である  
ことを理解する。今日の家族をとりまく社会環境における家庭生  
活のあり方を理解し、それへの適切な「相談・助言」について考える。

【テキスト】  
講義の中で必要に応じて指示する

【参考書】  
同 上

授 業 計 画

1. 家族とは何か (1) 家族の意味
2. 家族とは何か (2) 家族のはたらき
3. 家族をとりまく社会的状況 (1) 都市化
4. 家族をとりまく社会的状況 (2) 核家族化・少子化
5. 今日の家族生活 (1) 夫婦関係 (子どもからみた両親)
6. 今日の家族生活 (2) 親子関係
7. 今日の家族生活 (3) きょうだい関係
8. 子育てからみた家族の課題
9. 子育て支援サービスの範囲
10. 子育て支援としての相談・助言
11. 子育て支援サービスの具体的展開
12. 子育て支援における関係機関との連携

【評価方法】  
出席点とペーパーテストによる評価

【授業科目】 小児保健 I・II	【担当者】 谷 俊治
【開講期】 1年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>この授業では、小児の心身の健康のために、保育者として知っておくべき知識や考え方について解説します。特に小児では、心身両面からの健康が重要であることを学んでいただきます。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>今村 榮一・巷野 悟郎 「新・小児保健」 診断と治療社</p>	
<p>【参考書】</p> <p>馬場 一雄 「子育ての医学」 東京医学社  馬場 一雄 「続・子育ての医学」 東京医学社</p>	
授 業 計 画	
<p>人間は、生物的存在から出発して、生物的存在→生物的存在・心理的存在→生物的存在・心理的存在・社会的存在→生物的存在・心理的存在・社会的存在・人格的存在(精神的)存在へと成長・発達してゆきます。そのプロセスを理解しながら、成長・発達のいろいろな側面を学んでいただき、その途上で起こるさまざまな問題について解説する予定です。身体発育や運動の発達のような目に見えるものを知るだけでは方手落ちになってしまいます。目に見えない心の発達やその歪みを読み取ることも、保育者にとっては大切なことです。心の悩みは、小児では身体の病気や行動の異常として現れてきます。また、小児は身体の機能や抵抗力が未熟ですので、いろいろな病気にかかりやすいのです。</p> <p>VTR、OHP、テープレコーダーなどの視聴覚機器をできるだけ活用するつもりですし、いくつかの作業を実際にやっていただきます。質問は大歓迎ですが、時間内には全員の質問には答えられませんので、毎回書提出する「出席カード」の裏に質問、意見、感想などを書いていただきます。(これが毎回のレポートとなります。) 次の時間に、質問の答えから始める予定です。一方交通の授業にならないよう学生諸君の協力を期待しています。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>毎回のレポートと期末の課題レポートで評価します。</p>	

【授業科目】 小児栄養 I	【担当者】 林 薫
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>「小児栄養学 I」では、栄養学的な基礎知識や子ども達への食事支援の方法を学び、保育士としてのかかわり方や役割を理解し、実践力を養うことを目標としています。乳児・幼児期の子どもは「保育される」という受身の立場であり、特に保育士・養育者の認識に大きく影響されます。その為、保育士を志す学生は自分自身の食生活の重要性と子ども達の発育・発達を十分に理解し、望ましい生活・食生活環境の中で、子ども達の食べる力をはぐくんでいけるような援助について理解する事を目指しています。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>山口規容子・水野清子著「育児にかかわる人の為の小児栄養学」診断と治療社 2000 円</p> <p>足立己幸監修 「主食・主菜・副菜料理成分表」 群羊社 1300 円</p>	
<p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<p>1. オリエンテーション</p> <p>2. 子どもの食をめぐる諸問題</p> <p>3. 小児の発育と発達</p> <p>4. 子どもの心の発達と食</p> <p>5. 子どもの栄養と食生活の基礎知識</p> <p>6. 妊娠・授乳期の栄養と食生活</p> <p>7. 乳児期の栄養と食生活</p>	<p>講義の概要と授業計画(小児栄養の意義と重要性)</p> <p>子育て世代の食と生活の実態・諸問題について</p> <p>小児の身体発育と評価の方法について</p> <p>摂食行動の発達と心の発達の関連について</p> <p>①栄養とは何か(消化・吸収と代謝・排泄)</p> <p>②各栄養素の働きと特徴</p> <p>③栄養所要量・食品構成・献立作成</p> <p>①妊娠期・授乳期の母体の変化と栄養及び食生活について</p> <p>②20 代成人女子を基本献立として、妊娠期・授乳期付加量の展開について実習する</p> <p>①哺乳行動の発達について</p> <p>②調乳・授乳法と支援の方法、離乳準備期について実習する</p>
<p>【評価方法】</p> <p>①授業への出席及び態度    ②筆記試験    ③レポート内容に内容による総合評価</p>	



【授業科目】 教育課程総論	【担当者】 師 岡 章
【開講期】 1 年 後 期	
<b>【授業目標】</b> 1. 教育課程の概念について理解させる。 2. 我が国の保育カリキュラムの変遷を理解させる。 3. 保育カリキュラムの編成原理を理解させる。 4. 保育カリキュラムの種類と内容を理解させる。 5. 保育カリキュラムの展開過程と評価について理解させる。 6. 保育カリキュラムの実際を理解させる。	
<b>【テキスト】</b> 金村美千子編 『教育課程・保育計画総論』 同文書院	
<b>【参考書】</b> 授業時に適宜、紹介する。	
授 業 計 画	
1. 教育課程の概念 (1) 教育課程の定義 (2) カリキュラムの語源  2. 保育カリキュラムの変遷 (1) 明治初期の保育カリキュラム (2) 明治後期の保育カリキュラム (3) 大正自由教育期の保育カリキュラム (4) 戦中期の保育カリキュラム (5) 戦後新教育期の保育カリキュラム (6) 高度経済成長期の保育カリキュラム  3. 保育カリキュラムの編成原理 (1) 幼稚園教育要領・保育所保育指針 (2) 経験カリキュラムと教科カリキュラム (3) 子どもの生活・発達と保育内容の構造 (4) 保育構造論  4. 保育カリキュラムの種類と内容 (1) 保育カリキュラムの種類 (2) 長期的計画の内容と特徴 (3) 短期的計画の内容と特徴 (4) 保育カリキュラムの全体構造  5. 保育カリキュラムの展開過程と評価 (1) 計画と実践 (2) 記録・評価の方法  6. 保育カリキュラムの実際 (1) 幼稚園のカリキュラムの実際 (2) 保育所のカリキュラムの実際	
<b>【評価方法】</b> 出席状況とテスト	

【授業科目】 保育内容総論	担当者】佐々加代子、小松歩
【開講期】 1年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>幼稚園、保育所における子どもの生活の姿から、それぞれの現場における保育内容を考える。保育者としての援助の内容とその方法について、推論活動をすすめながら検討し、保育の基本的視点を学ばせる。</p>	
【テキスト】特に用いないが、幼稚園教育要領、保育所保育指針は活用する。	
----- 【参考書】授業中に紹介する。	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育の基本と保育内容 保育所保育指針と幼稚園教育要領の理解</li> <li>2. 子どもの生活と遊び 子どもの生活の実態:幼稚園と保育所から探ること</li> <li>3. 保育内容の理解 保育者に求められる総合的な視点 保育内容の5領域と総合</li> <li>4. 子どもの行動の特徴 発達的変化を遊びから探ること</li> <li>5. 保育者の援助 保育援助の内容と方法 保育所保育における保育の援助と方法 幼稚園保育における援助の内容と方法</li> <li>6. 保育の基本的視点の整理</li> </ol> <p>教員からの講義は印刷教材、VTR教材を用いる。演習の一つとして幼稚園の現場の子どもたちの観察も行う。VTR教材から観察、推論活動を行う。グループ活動もその時々に取り入れる。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点を重視する。レポートによる評価。</p>	

【授業科目】 保育内容 健康	【担当者】 村田 務
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもの健康を守り育てるために必要な事項について理解させるとともに、それらを保育実践に活用するための諸能力と態度を育てる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 子どもの健康と健康保育の役割、保育者の健康管理</li> <li>2 子どもの保健管理の考え方とその方法</li> <li>3 子どもへの保健指導の考え方とその方法</li> </ol>	
<p>【テキスト】</p> <p>村田 務：子どものための健康保育、2002年度版。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>内山 源編著：小児ための小児保健ハンドブック、ぎょうせい、1998年。 阿部明子・落合優編著：心身の健康に関する領域 健康、東京書籍、2000年。</p>	
授 業 計 画	
<p>幼稚園や保育所等で指導展開される「健康」領域のうち、主に保健安全分野を取り扱う。授業では、「どのようにすれば、効果的に子どもの健康を守り育てることができるか」をメインテーマとして、その基礎的な知識と実践的な技能について学ぶ。</p> <p>主な学習内容は、①保育健康論（子どもの健康と健康保育の役割）、②保健管理論（主体管理、環境管理、生活行動管理）、③保健指導論（指導内容論、教材論、指導技術論）、④保育者の健康管理、である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、子どもの健康問題</li> <li>2、保育者の健康問題</li> <li>3、保育施設における保健活動</li> <li>4、保健管理の内容と方法</li> <li>5、保健管理の実習（主として環境管理）</li> <li>6、保育施設における保健指導</li> <li>7、保健指導における指導内容、教材及び指導技術</li> <li>8、保健指導のための教材づくり実習（模擬指導を含む）</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>2回のペーパーテスト、及びレポート(教材づくり)。学習意欲を重視する。</p>	

【授業科目】 保育内容 言葉	【担当者】 佐々加代子
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】 人間と言語との関係をおさえたとき、保育において「ことば」の領域だけを論じていくと狭い。言語の諸側面について、学生自身の言語能力にも目を向けながら、保育における、保育者と子ども（たち）との間柄の質的転換を考える。思考は行動に現れる、としてとらえていくことにする。子ども、保育者、自分、保育活動、の組み合わせで考える。それぞれの間に、媒介役として機能する、教材についても検討する。</p>	
<p>【テキスト】 佐々加代子、言語習得と人間関係、犀書房  佐々加代子、保育者養成における言語 2001年 、私製テキスト  佐々加代子監修、手あそび130、私製資料</p>	
<p>【参考書】 佐々加代子、子どもからの贈りもの、犀書房  佐々加代子、発想・想像・表現、犀書房</p>	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>講義を主体としながら、ミニ演習（宿題を含む）、演習（レポート課題3含む）を組み合わせながら構成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間と言語：言語の定義、機能</li> <li>2. ことばとキャッチボール</li> <li>3. コミュニケーションの基本的過程</li> <li>4. 日本語の特徴、敬語</li> <li>5. 言語発達の標準像（0～6歳まで）</li> <li>6. 文字学習能力の発達</li> <li>7. 言語発達に関連する人間関係の要因</li> <li>8. 言語指導の実際：言語の生活化、教材（絵本、紙芝居、ことば遊び、パネルシアター、素話、ペープサート、人形、視聴覚教材、手遊びなど）</li> <li>9. 障害児の言語指導：発達の遅れ、自閉症、情緒障害、聾・難聴、口蓋裂、脳性マヒ、どもり・吃音、失語症</li> <li>10. よくひびく、よくとおる、きれいな音の表現法</li> <li>11. 演習 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 乳幼児の行動観察記録（レポート）</li> <li>2) 日案（レポート）</li> <li>3) 日案からの主活動の展開：保育者としての保育場面の疑似体験、2回</li> <li>4) 発達助成論</li> </ol> </li> <li>12. 保育者養成における“言語”教育</li> <li>13. 研究法</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席点、平常点（ミニ演習）、レポート3、テストによって行う</p>	

授業科目	乳児保育 I	担当者	小松 ゆり
開講期	1年 後期		
授業目標	<p>*乳児保育の現状と基本を学ぶ</p> <p>*乳児期の発達を学び、それぞれの発達段階をふまえた保育のあり方、内容、方法について理解を深める</p> <p>*保育所実習での観察を、より確かなもの出来るよう、課題を取り上げ理解を深める</p>		
テキスト	なし。 レジメを毎回配ります。		
参考書	授業の中で紹介		
<内容>	<p>1, 乳児保育の基本</p> <p>人間発達における乳児期の意味</p> <p>乳児保育の意義</p> <p>2, 乳児期の子どもの発達と保育内容</p> <p>0歳児（前期、後期）子どもの発達の特徴と保育内容、あそびと生活</p> <p>1歳児（前期、後期）子どもの発達の特徴と保育内容</p> <p>あそびと生活</p> <p>2歳児 発達の特徴（身体の成長、心の発達、認識）と保育内容</p> <p>あそびと生活</p> <p>3, 乳児保育における指導計画と記録</p>		
評価方法	出席、テスト		

【授業科目名】 音楽Ⅰ（基礎理論）	加宮 葵・平野ミヨ子・村松桂子
【開講期】 （1年前期）	
【授業目標】 楽典を学ぶ事により、音楽を基礎的に理解し、保育者に要求される音楽的な表現や活動が、スムーズにすすめられるように、という事を目標にしている。	
【テキスト・参考書】  ：下総皖一 「楽典」	
授 業 計 画	
音	音の種類と性質
譜表Ⅰ（記譜上の約束ごとの理解） 音名	五線・加線・音部記号・音符・休符・縦線 拍子の数え方・全休符の使い方・変化記号・強弱記号 シンコペーション・連付・タイ
音程	全音階的音程・半音階的音程・協和音程と不協和音程
音階	長音階：調号（#, b）4個迄 短音階：調号（#, b）4個迄（自然・和声・旋律短音階） 音階各音の名称（主音・下屬音・属音・導音等）
調	調と調号 調の相互関係
移調	簡単な曲を実践する
和音	三和音・主要三和音 等
譜表Ⅱ（記譜上の約束ごとの理解）	省略・反復記号 DC（ <i>ダカ</i> ）DS（ <i>ダセニ</i> ） <i>ス</i> ・ <i>フ</i> ・ <i>ト</i> ・ <i>ス</i> ・ <i>カ</i> ・ <i>ト</i> ・ <i>カ</i> ・ <i>マ</i> ・ <i>タ</i> 装飾音符・装飾記号・トリル 発想記号 等
【評価方法】 期末試験の成績	

【授業科目名】 音楽Ⅰ（声楽）	【担当者】 加宮葵・平野ミヨ子・村松桂子
【開講期】 1年後期	
<b>【授業目標】</b> 小グループで基礎的なやさしい発声練習を行う事により、学生の均等な声の上達をねらいソルフェージュ等、教則本の予習を義務づける事により、読譜力を身につける事を目標とする。	
<b>【テキスト・参考書】</b> :ソルフェージュ :コンコーネ50番	
授 業 計 画	
<p>① 声の出し方を理解するための、基礎発声の説明と実践。</p> <p>② ハ長調・ヘ長調・ト長調・ニ長調・イ短調 等の練習曲を、スムーズに譜読み出来るようにする。</p> <p>③ 伴奏付練習曲での練習により、メロディーの流れを理解する。</p> <p>④ 無伴奏でも音程を正しく歌えるようにする。</p> <p>☆ 1講時につき ソルフェージュ 約15曲          2講時につき コンコーネ50番 1曲 } をマスターする。</p>	
<b>【評価方法】</b> 平常点（小テスト）と出席点	

[授業科目名] 音楽 I (ピアノ) [担当者] (下記参照)	
[開講期] 1年前・後期	
[授業目標]	
<ul style="list-style-type: none"> <li>①音楽の理論および形式の基本の理解</li> <li>②読譜力の習得</li> <li>③視奏・鍵盤楽器の演奏に関する基礎力の習得</li> <li>④保育者に要求される音楽的表現や音楽的活動を実践する能力の育成</li> </ul>	
[テキスト]	
<ul style="list-style-type: none"> <li>1、鷺見五郎 著 「ピアノメソッド」：共同音楽出版社（全員が用意する）</li> <li>2、バイエルピアノ教本 ：全音楽譜または音楽之友社</li> </ul>	
[参考書]	
1、ソナチネ、ソナタ、ブルグミュラー、モーツァルト、等 の楽譜集	
[授業計画]	
ピアノ I	<ul style="list-style-type: none"> <li>1、譜表・音符・拍子記号・各種記号並びに標語・音階・調性・和音の基礎的理解と実践による習得</li> <li>2、基礎読譜力の習得</li> <li>3、基礎読譜力と音楽能力の向上</li> <li>4、大譜表の読譜力及び鍵盤楽器の基礎技能の習得</li> <li>5、保育実践力の育成と音楽能力の向上</li> </ul>
[評価方法]	
期末試験の成績（課題曲の合否により評価する）	
[担当者] 泉晶子・稲村敬子・大澤美紀・掛場久子・佐藤久美子・島田東史子・諏訪玲子・関根美和子・中瀬千央・西山裕子・舛本清美・岡益代・平さわ・福嶋省吾・三尾恵子・西澤和枝・野村真理子・山本由紀子・長永理恵・機田美帆・関裕子・富士素子・前田真弓 港理々子	



【授業科目名】 図画工作	【担当者】 枝常 弘・八木 紘一郎・花原 幹夫
【開講期】 1年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>◆前期…保育者として必要な造形表現の基礎技能の習得を目標とします。紙や空き箱、絵の具などの身近な素材を使った造形表現の実技演習を行います。(枝・花)</p> <p>◆後期…保育の造形と表現について理解します。(八)</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特に使用しません</p>	
<p>【参考書】</p> <p>特に使用しません</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>以下のテーマについて授業を展開していきます。前期と後期、それぞれの第1回目の授業時には、さらに具体的な授業プログラムと、授業のすすめ方などについての説明をします。</p> <p>◆前期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育者としての造形表現の基礎技能とは何か</li> <li>2. 基本的な素材とその使い方について</li> <li>3. 基本的な道具とその使い方について</li> <li>4. 基本的な材料（描画材など）とその使い方について</li> <li>5. 平面を描く、つくる基本について</li> <li>6. 立体を描く、つくる基本について</li> <li>7. 造形と遊びと科学の関係について</li> </ol> <p>◆後期</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの造形・表現についての理解 乳幼児期のモノを扱った表現の発達と保育</li> <li>2. 遊びの表現と造形と援助 物語る遊びと機能・科学する遊びを中心に</li> <li>3. 認識と想像の表現と援助</li> <li>4. 表現を育む環境と援助</li> </ol> <p>*それぞれのテーマに沿った造形アイデアと技術の演習も行ないます</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>授業内容すべてを一冊のファイルやノートにまとめたものを評価します</p>	

【授業科目名】 ゼミナールⅠ	【担当者】 保育科専任教員
【開講時期】 1年 後期	
【授業テーマ】 各ゼミ共通テーマ：人間尊重の理解と実践	
<p>【授業目標】</p> <p>今日、地域環境、異文化理解、地域紛争、男女の共同参画といった人類共通の課題や、都市化、少子・高齢化と福祉、心の崩壊、家庭の在り方、自然破壊などの我が国の社会全体に関わる課題が生じている。こうした状況の中で、これからを生きる子どもたちにとって、またこの子どもたちに係わる保育者の資質として、「人間尊重」の考え方が重要である。そこで、ゼミナールⅠでは、「人間尊重の理解とその実践」に関する基礎的事項について追究する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 さまざまな観点から、教育・保育・福祉が直面している今日的課題を取り上げて、これらに関連する人間尊重の考え方について理解する。</li> <li>2 人間尊重に係わる保育内容について理解するとともに、その内容をどのようにして子どもたちに伝えていくかという指導実践に関する基礎的事項について理解する。</li> </ol>	
<p>【授業形態】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 複数のグループに分かれて、担当する教員の専門性を生かしつつ、さまざまな観点から授業テーマに取り組む。</li> <li>2 授業は、少人数による演習形式でおこなう。</li> <li>3 文献講読やVTR視聴、実地見学などをもとに、話し合いをおこなう。</li> </ol>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 文献講読やVTR視聴等を通して、教育・保育・福祉が直面している今日的課題の概要について理解する。</li> <li>2 実地見学や観察、調査などの体験学習により理解を深める。</li> <li>3 教育・保育・福祉が直面する課題が人間尊重の考え方と、どのように関わっているかについて検討する。</li> <li>4 人間尊重に係わる保育内容について調べる。</li> <li>5 人間尊重に係わる保育内容の指導法について考える。</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>学習意欲、レポート、小テスト、作品、実技など</p>	

【授業科目】 幼稚園実習	【担当者】 小松 歩 ・ 師岡 章
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>2年次に実施する「幼稚園実習」とともに、幼稚園教諭二種免許状を取得するための必修科目である。幼稚園実習をとおして、幼稚園教育の実際を学び、保育科学生としての学習の必要性を知る。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>「実習ガイドブック」・「幼稚園実習日誌」必携</p>	
<p>【参考書】</p> <p>実習園の施設要覧・入園のしおり・園だよりなどを適宜使用する。</p>	
授 業 計 画	
<p>1年次の実習は、6日間の「見学・観察実習」という段階の実習である。 この実習で、幼稚園での教育の実際を学び、保育者になるためには専門の学びが必要であることを知ってほしい。</p> <p>【1年次】 見学・観察実習のテーマ 「幼稚園の日課について学ぶ」</p> <p>ポイント ① 子どもの活動について学ぶ ② 保育者の活動について学ぶ ③ 保育の環境について学ぶ</p> <p>上記のテーマとポイントについては、学内での事前実習オリエンテーションで詳しく説明する。 オリエンテーションは、およそ次のような項目にそって実施する。</p> <p>① 幼稚園実習とは（全般的説明） ② 幼稚園の現場から ③ 見学・観察のポイント ④ 実習日誌の書き方 ⑤ 実習に行く前に（心構えや諸注意事項）</p>	
<p>【評価方法】 ① 学内オリエンテーションへの出席／受講状況 ② 実習日誌 ③ 実習中の出欠席 ④ 学内反省会</p> <p style="text-align: right;">などを総合して評価する。</p>	

【授業科目】 実習指導（保育所実習Ⅰ）	【担当者】 佐野英司、秋山治子、船津秋子
【開講期】 1年前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育士の資格を取得するには学内での必要科目の履修の他、保育所実習および保育所以外の各種児童福祉施設での実習が必修となる。実習に入る前に次のことを学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所の役割や機能、保育士としての役割、職業倫理等を学ぶ。</li> <li>2. 保育所における子どもの生活、子どもの最善の利益の具体化、保育者の援助や関わりについて、実践現場での体験を通して学ぶ。</li> <li>3. 実習の目的、課題設定、実習日誌の書き方等を学び、実習後に実習体験の報告と討論、まとめ、レポート作成を行い、実習日誌を通して評価・指導を受ける。</li> </ol>	
<p>【テキスト】</p> <p>『実習ガイドブック』および『実習日誌』は必ず持参する。</p>	
<p>【授業の進め方】</p> <p>保育所実習を円滑に進めて行くための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに実習体験を深めさせるため以下の内容で行う。</p> <p>(実習前)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>I. 事務手続きオリエンテーション（全実習） <ul style="list-style-type: none"> <li>実習施設の一覧表の確認、実習個票（履歴書）、健康診断、細菌検査、実習日誌の提出・返却に関わる一連の手続き説明</li> </ul> </li> <li>II. 実習施設の配属 <ul style="list-style-type: none"> <li>担当教員の指導のもと学生が相互に話し合い、各人の実習施設を決定する。</li> </ul> </li> <li>III. 「保育所実習Ⅰ」の意義と目的（講義） <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育所実習の意義・目的・内容・実習のテーマ</li> <li>(2) 実習への心構えと諸注意、特に個人のプライバシー保護と守秘義務、子どもの最善の利益、人権の尊重についての理解</li> <li>(3) 実習日誌の書き方 <ul style="list-style-type: none"> <li>実習日誌を書く目的、意味、日誌を書く上での諸注意 記録のポイント</li> </ul> </li> </ol> </li> <li>IV. 保育における子どもの生活と保育の流れ（講義） <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) いま、求められる保育所の役割</li> <li>(2) 保育所における保育の特徴と日課</li> <li>(3) 保育所の職務内容</li> </ol> </li> <li>V. 実習生を受け入れてー保育現場からー（講義） <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育所における子どもの姿</li> <li>(2) 保育所の役割</li> <li>(3) 実習生に望むこと</li> </ol> </li> </ol> <p>(実習後)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>VI. 実習日誌の提出・点検・指導</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点（実習オリエンテーションの出席状況、出席態度を含む）で評価する</p>	

<b>【授業科目】</b> 保育所実習Ⅰ	<b>【担当者】</b> 佐野英司、秋山治子、船津秋子
<b>【開講期】</b> 1年次 後期	
<b>【授業目標】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所の役割や機能、保育士としての役割、職業倫理等を学ぶ。</li> <li>2. 保育所における子どもの生活、子どもの最善の利益の具体化、保育者の援助や関わりについて、実践現場での体験を通して学ぶ。</li> <li>3. 実習の目的、課題設定、実習日誌の書き方等を実践を通して学び。</li> </ol>	
<b>【テキスト】</b> 『実習ガイドブック』および『実習日誌』は必ず持参する。	
<b>【授業の進め方】</b> 学内での実習関連教科目および「実習指導」を受講後、今年度は、11月11日（月）から21日（木）の10日間で保育所実習Ⅰが行われる。 実習の内容は、主に《見学・観察・参加》の形で行うが、園によっては《見学・観察》だけの場合もある。なお、実習前に園のオリエンテーション、実習後に園の反省会が行われることが多い。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育所の機能、施設について理解する</li> <li>(2) 保育所における日課、一日の生活の流れを観察や参加を通して学ぶ</li> <li>(3) 観察や関わりのなかで、乳幼児期の子どもの発達について理解を深めるとともに保育内容や保育者の関わりについての理解も深める。</li> <li>(4) 保育所における保育計画について理解を深める。</li> <li>(5) 子どもの最善の利益がどのように考慮されているかを理解する。</li> <li>(6) 保育士の専門性や倫理観を学ぶ。</li> <li>(7) 安全および疾病予防への配慮について学ぶ</li> </ol>	
<b>【評価方法】</b> 実習オリエンテーション(実習指導)への出席および受講状況、実習日誌の記録実習中の出欠席・学内反省会の状況などを総合して評価する	



教養教育科目（2年）





【授業科目】 海外語学研修	【担当者】 瀧口 優
【開講期】 前期	
【授業目標】 1. 英語を現地で体験して英語力を身につける。 2. 英語を通じてコミュニケーションの意味を理解する。	
【テキスト】 必要に応じて指示する。	
----- 【参考書】 必要に応じて紹介する	
授 業 計 画	
<p>イギリスはリーズ市にあるメトロポリタン大学の語学センターで3週間のプログラムに参加する。その間の生活はホームステイ。ウィークデイは1日2コマの英語の授業があり、現地の教員が懇切丁寧に指導する。</p> <p>また世界中から集まる学生達とスポーツやパーティをする機会もあり、英語圏だけでなく、視野を世界に広げることできるだろう。週末には近くにある有名な史跡などを訪ね、イギリスの歴史や文化に親しめる。ロンドン観光を含めて約4週間のイギリス滞在は、英語の見方を変えてくれるだろう。</p> <p>出発に向けて、前期に5回事前指導を行い、パスポートの取得から渡航手続き、現地での生活の仕方、簡単なサバイバル英会話まで指導します。</p> <p>【予定】 (多少変わるところもあります)</p> <p>8月3日 (土) 成田出発、アムステルダム経由でリーズへ (ホームステイ先へ)</p> <p>8月5日 (月) ~ 23日 (金)</p> <p style="padding-left: 40px;">リーズ・メトロポリタン大学での語学研修</p> <p style="padding-left: 40px;">*午後・休日に課外活動</p> <p style="padding-left: 40px;">ヨーク・ウインダミア (湖水地方: ピーターラビットの故郷)</p> <p style="padding-left: 40px;">ハワース (嵐が丘: ブロンテのルーツ)</p> <p>8月23日 (金) ロンドンへ</p> <p style="padding-left: 20px;">~26日 (月) ロンドン滞在</p> <p>8月26日 (月) アムステルダムへ</p> <p style="padding-left: 40px;">*アンネの家訪問等</p> <p>8月27日 (火) アムステルダム発</p> <p>8月28日 (水) 成田着</p>	
【評価方法】 ふだんの学習状況などの平常点 (出欠、予習、質問、意見発表など) とレポートで行う。	



專門教育科目（2年）



【授業科目】 社会福祉方法論	【担当者】 山口尚子
【開講期】 2 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>社会福祉の専門の援助者によって用いられる社会福祉援助技術を体系的、総合的に理解することを授業目標とする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>授業時に指示する。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>授業の中で適宜紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉における援助技術の定義と位置づけ</li> <li>2. 社会福祉援助技術の専門性</li> <li>3. 直接援助技術       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) ケースワーク (意義、定義、原則、手段、過程など)</li> <li>(2) グループワーク (意義、定義、原則、手段、過程など)</li> </ol> </li> <li>4. 間接援助技術       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) コミュニティワーク (意義、定義、原則、手段、過程など)</li> <li>(2) その他 (ソーシャルリサーチ、ソーシャルアドミニストレーション、ソーシャルプランニング、ソーシャルアクション)</li> </ol> </li> <li>5. 関連援助技術 (ネットワーク、ケアマネジメント、スーパービジョン、カウンセリング)</li> <li>6. 社会福祉援助技術における具体的手段       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 面接の構造と技法</li> <li>(2) 記録の書き方</li> <li>(3) 事例研究の方法</li> <li>(4) 社会資源の活用</li> </ol> </li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常授業時のリアクションペーパーと学期末レポートによる。</p>	

「授業科目名」 保育原理Ⅱ	「担当者」 村田 保太郎
「開講期」 2年 後期	
「授業目標」 児童福祉法の改正・社会福祉法の制定・保育所保育指針の改訂など時代に対応した保育の在り方を学び、保育の基本理念に基づく保育の実践者としての力量を培う。また、具体的な実践例を通して保育理念の形成を図る	
「テキスト・参考書」 保育士養成講座 第9巻 「保育原理」 (改訂版) 全社協刊	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育の本質 (保育の意義、目標、原理)</li> <li>2 保育の場 (家庭、保育施設、歴史、保育施設の現状)</li> <li>3 保育所の保育の原理</li> <li>4 保育所の保育の内容</li> <li>5 保育所の保育の計画</li> <li>6 3歳未満児の保育の内容と指導計画</li> <li>7 3歳以上児の保育の内容と指導計画</li> <li>8 保育所の保育の形態・評価</li> <li>9 保育所の健康・安全上の留意事項</li> <li>10 特別保育実施上の留意事項</li> <li>11 家庭、地域などとの連携</li> <li>12 保育所保育指針の検討と理解</li> </ol>	
「評価方法」 <ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業の中でのミニレポート</li> </ol>	

【授業科目】 養護原理 I	【担当者】 中山正雄
【開講期】 2年 前期	
<b>【授業目標】</b> 1. 養護問題の発生の原因と背景を理解させる。 2. 社会的養護の果たす役割、児童福祉施設等の役割について理解させる。 3. 児童福祉施設における社会的養護の実際を理解させる。 4. 社会的養護によって生活する子どもの生活と権利を理解させる。 5. 児童福祉施設で働く保育士としての役割や子どもへの援助について理解させる。	
<b>【テキスト】</b> 浅井春夫（編）『養護原理総論』保育出版社	
<b>【参考書】</b> 養護施設は今編集委員会（編）『いつか愛を知る日のために』ひとなる書房	
授 業 計 画	
1. 養護問題の発生の原因と背景 (1) 養護問題とは何か (2) 児童養護の歴史 (3) 社会・家庭の変化と子どもの問題 2. 社会的養護と児童福祉施設の役割 (1) 児童養護の体系と領域 (2) 児童相談所の機能と役割 (3) 施設養護とホスピタリズム (4) 里親制度の現状と里親養護の役割 (5) 児童福祉施設と児童福祉施設最低基準 3. 社会的養護の実際 (1) 児童養護施設 (2) 乳児院 (3) 母子生活支援施設 (4) 児童自立支援施設 (5) 知的障害児施設 (6) 肢体不自由児施設 (7) 情緒障害児短期治療施設 (8) 心に傷を受けた子どもへの対応 4. 施設で生活する子どもの生活と権利 (1) 最低基準と生活水準 (2) 集団生活と個の尊重 (3) 意見表明権等子どもの権利の実現 (4) 職員と子どもの関係 (5) 児童養護の原理・原則 (6) 苦情処理・第三者評価と生活の改善 5. 施設職員の専門性とチームワーク (1) 施設職員に求められるもの (2) 施設職員の専門性と倫理 (3) 施設職員のチームワークと資質 (4) 施設労働の内容と条件 (5) 児童養護の課題	
<b>【評価方法】</b> 授業の出席と定期試験	

【授業科目】 養護原理Ⅱ	【担当者】 中山正雄
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>養護原理Ⅰを踏まえて、児童福祉施設で生活する子ども達の具体的な事例を活用し、子どもの生活課題と援助内容を深める。施設の生活に関する様々な計画とその実施について理解し、施設の職員として必要な援助計画の立案、計画の実施の方法について学ばせる。援助計画の立案・実施の方法の検討を通して、施設が子どもの将来に責任を持ち関わることの重要性の原理を理解させる。</p>	
【テキスト】 浅井春夫（編）『養護原理総論』保育出版社	
----- 【参考書】 必要に応じて紹介する	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童養護における日常生活の意義 施設入所前の子どもの生活と施設入所後の生活、施設での基本的生活習慣の習得、生活のルールと大人との関係、援助のあり方を検討する。</li> <li>2. 施設における行事などの意義と計画 行事の意義とその必要性を考え、計画の立案と実施の方法を学ぶ。</li> <li>3. 高年零児の生活と援助 思春期の特徴と発達課題、問題行動の理解と援助について高年零児の事例を基に検討する。</li> <li>4. 性教育の基本的視点と生活の中の性教育 施設における性教育の重要性とその展開について説明する。性教育への取り組みの視点を検討する。</li> <li>5. 子どもの自立への援助 自立の時期の高年齢化と自立の内容、幼児期からの自立への援助と自立プログラム、施設における自立支援への取り組み。リービングケアと職業指導プログラムを理解する。プログラムの立案と実施の方法を学ぶ。</li> <li>6. 進路指導とアフターケア 施設の子どもの進路状況、進路指導の現状と課題、アフターケアの実際と課題</li> <li>7. 子どもの施設における権利擁護と取り組み 児童福祉施設におけるサービス評価及び苦情処理への対応の現状と課題について考える。</li> <li>8. これからの児童福祉施設の在り方について 児童福祉施設の近未来像について、施設団体等から提起されているものを基に今後のあり方を検討する。</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況と討議への参加状況及びレポート</p>	



【授業科目】 小児保健Ⅱ	【担当者】 谷 俊治
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>この授業では、心身障害児を理解し、QOLを高めるためのサポートについて解説します。障害児にとっても、身体だけではなく、心の健康が重要であることを学んでいただきます。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>森 和夫 編著「小児保健Ⅱ 障害児の理解と療育・保育」 建帛社</p>	
<p>【参考書】</p> <p>飯田 精一・竹内 一夫・深井 小久子・森 壽子 「こどもの医療福祉相談」 中央法規出版</p>	
授 業 計 画	
<p>知的障害児、脳性麻痺児、情緒障害児、自閉児、多動児、てんかん児、ダウン症児、視覚障害児、聴覚障害児、言語障害児、重症心身障害児などの理解と保健のために必要な知識について、医学や心理学、保育、福祉などの立場から解説します。</p> <p>障害児のQOL〈quality of life〉を高めるためには、家族のみではなく、いろいろな機関でのいろいろな職種による発達支援のサービスが必要になってくるのです。障害児の様子はVTRで学んでいただきます。</p> <p>毎時間出席カードを提出していただきますが、裏に質問、意見、感想などを必ず書いてください。これが毎回のレポートとなります。質問には次の時間にお答えします。一方交通の授業にならないように配慮するつもりですので、是非協力してください。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>毎回のレポートと期末の課題レポートで評価します。</p>	

【授業科目】 小児保健実習	【担当者】 水波 佳津子
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもの健康な発達を保障する保育活動に大切なことは、子どもの発達のみちすじや病気、異常、けがの特徴を知り、ひとりひとりの子どもの日常の状態をしっかりとらえることである。そこで、小児科学や乳児保育で学んだことを基礎に、養護の心得、観察のポイントを具体的に学ぶと共に実技実習を通して実際の扱い方を身につける。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>坂田 堯 (日本赤十字社医療センター附属乳児院編) 『乳幼児保育指針』 日本小児医事出版社</p>	
授 業 計 画	
<p>○講義</p> <p>I オリエンテーション 乳幼児養育の理論と技術(基礎と実際)について 子どもの養護と自立→健康発達への支援</p> <p>II 健康状態の観察 A 一般状態の観察(きげん、顔つき、顔色、動作、食欲、睡眠) B 身体各部の観察</p> <p>III 小児に起こりやすい症状とその対応 ・発熱・嘔吐・腹痛・下痢・けいれん・脱水</p> <p>IV 小児に起こりやすい事故 ・窒息事故・熱傷・誤飲・創傷・頭部外傷 ・腹部損傷・骨折・捻挫・脱臼・打撲 ・異物・咬傷・日射病・熱射病・ガス中毒</p> <p>V より健康な子どもを育てる ・積極育児、赤ちゃん体操、外気浴、日光浴 ・個人、集団の健康管理と記録</p> <p>VI 保育者自身の健康管理</p> <p>○実技・実習</p> <p>I 基礎的養護方法(ミルクの飲ませ方、排気の仕方、衣服の着せ方脱がせ方 おむつのあて方、おんぶ抱っこ仕方)</p> <p>II 身体発達、測定の方法、評価の方法 ・身長、体重、胸囲、頭囲の測定の実習 ・発育指数 a パーセントイル曲線 b カウプ指数 ・乳歯、永久歯との関わりと う歯予防について</p> <p>III 病気や異常の見分け方、病児の世話 ・重症であるかどうか保育者としての見分け方</p> <p>IV 感染予防 予防接種 発見と隔離</p> <p>V 沐浴実習 実物大(形状・重量)の沐浴人形を用い、全員が実習する。 (実習終了後、意見・考察・感想文提出)</p>	
<p>【評価方法】 ①筆記試験 ②沐浴、身体測定の実習評価 ③授業時の平常点、感想文</p>	

【授業科目】 小児保健実習	【担当者】 伊藤祥子
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】 乳幼児を保育する中で安全であることが第一であるが、子供は活発に運動をしたり、遊んでいる日常生活の中でも、転ぶ・ぶつかる・落ちる等の事故で怪我をしたり、また急に発熱・ひきつけ等の身体症状を起こすことがある。こうした事故が発生したときにあわてずに適切な処置ができるように、救急法や看護の知識・技術を学んでもらうことを目標とする。</p>	
<p>【テキスト】 乳幼児保育指針（日本赤十字社医療センター附属乳児院編）坂田 堯 著</p>	
<p>【参考書】 赤十字救急法教本 日本赤十字社</p>	
授 業 計 画	
<p>乳幼児におこりやすい事故について学習し、その予防について考えさせる。</p> <p>救急処置の実際</p> <p>病気や事故が発生したとき、最初に行った処置（F i r s t ・ A i d）が適切であったか否かによって病気・怪我の経過に影響を及ぼし、予後にも関係してくるので重要である。下記の項目について、実施方法・一般的な注意・処置の順序などを話し、実習させる。</p> <p>I 事故防止と安全教育・救急箱の利用</p> <p>II 体位（患者の寝かせ方）・異物除去（眼・耳・鼻・咽頭）</p> <p>III 包帯法 （三角巾・巻軸帯・副子の当て方）</p> <p>IV 蘇生法 （気道内異物除去・気道確保・人工呼吸・心臓マッサージ）</p> <p>実習では、各自が実際に、患者・術者を体験しながら学習する。</p>	
<p>【評価方法】 筆記試験 授業時の実習評価</p>	

【授業科目】小児保健実習

【担当者】山田 万智子

【開講期】2年 前期・後期

【授業目標】

こどもが健やかに育つことを皆が願っています。  
それには、こども達の成長発達を理解する必要があります。特に、乳幼児は、うまく状態を訴えられません。病気にもかかりやすく、かかると急に重くなり疾病の進み方が早いのです。又、思いがけないきっかけからこどもの事故は起こります。その時、保育者は何をすべきか、心得てほしい手当と予防を理論にもとづいて実習で勉強しましょう。

【テキストと参考書】

- 乳幼児保育指針 坂田 堯 著 (日本赤十字医療センター付属乳幼児院編)
- 赤十字救急法教本 日本赤十字社
- 人が倒れたら寝込んだら 日本赤十字社 講談社

授 業 計 画

事故の手当と予防

手洗いの仕方  
消毒法

感染予防と保育者の身支度  
消毒は病原菌を殺すこと

- 手指の消毒は重要である。
- 煮沸消毒・蒸気消毒、日光消毒  
オートクレーブ・薬物消毒

傷の手当

傷の手当は出血を止めることと、  
細菌感染を防ぐことが大切である。  
痛みをとり、滲出物を抑える。

- すりきず、きりきず、さしきず  
虫さされ、咬傷、骨折、脱臼、  
捻挫、熱傷、頭部外傷、頭部打撲

止血法

人間の全血液量は体重 1kg 当り  
約 80ml で 1時にその 1/3以上を失うと  
生命に危険がある。

- 止血の仕方
  - 直接圧迫法
  - 間接圧迫法
  - 上の二つの併用
  - 止血帯

病気のこどもへの対応の仕方

薬の飲ませ方

薬は原則として医師の指示で使用する。  
ラベルは 3 回見る。

薬の種類と使い方

散薬、錠剤、水薬  
座薬の与え方  
軟膏の使い方  
薬の保管方法

氷枕、氷のう、湯たんぽの作り方、与え方  
気分を爽快にする。

温罨法～保温や血液の循環をよくする。  
冷罨法～痛みをやわらげ出血と炎症を  
おさえる。解熱。

体温、脈拍、呼吸の測定法と記録の仕方

- 健康体では体温、脈拍、呼吸が  
一定の均衡を保っている。  
体に異常があれば変化する。
- 記録は疾病の状態や経過を知ること  
で診断の判定に役立つ。

体温の測り方

口腔検温法  
直腸検温法  
腋窩検温法  
熱型や脈拍測定、呼吸測定を行い、  
正確に記録する。

【評価方法】 実技、テスト、レポート、出席状況で総合的に評価します。

積極的な学習態度を望みます。

【授業科目】 小児栄養実習	【担当者】 林薫																
【開講期】 2年 前期																	
<b>【授業目標】</b> 哺乳から始まる人間の食生活は生物としてのヒトから人へ、そして文化を持った人間に成長する。小児栄養実習では、乳汁期の栄養から離乳期、幼児期を経て、青年期に達するまでのライフステージごとに、それぞれの栄養的特性や摂食機能を理解し、保育者としてどのような食事展開が必要であるのかを理論と実習を通じて学ぶ。講義で理論を理解した上で、調理実習・演習により、その理解を深める。																	
<b>【テキスト】</b> 実習内容については、小児栄養実習担当者が作製したテキストを使用 1年次の小児栄養で使用したテキスト（小児栄養、主食・主菜・副菜成分表）																	
<b>授 業 計 画</b>																	
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%; text-align: center;">テーマ</th> <th style="text-align: center;">講 義 と 実 習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>小児栄養実習の学習内容，調理実習にあたっての基本的心得，衛生的配慮，調理器具の正しい扱い方を学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>2. 成人女子の栄養と食事</td> <td>20代成人を基本にして，栄養バランスを配慮した食事展開を行い，自分の食生活のあり方を学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>3. 妊娠・授乳期の栄養と食事</td> <td>1)受精による妊娠期・授乳期の母体の変化と栄養の特性を理解し，つわり，貧血，妊娠中毒症等に対応した食品選択，調理方法を学ぶ。 2)20代成人を基本にして，妊娠・授乳時の食事展開を実習する。</td> </tr> <tr> <td>4. 乳汁期の栄養と食事</td> <td>1)生体リズムと生活リズムの関わり，哺乳と授乳による母子相互作用を理解し，それに伴う生活日課の組み方を学習する。 2)母乳栄養の特徴を理解し，授乳法，冷凍乳の扱い方を実習する。 3)人工栄養（育児用ミルク，フォローアップミルク），また，哺乳行動の発達に応じた哺乳瓶，乳首の選択方法を理解し，調乳法・授乳法を実習する。</td> </tr> <tr> <td>5. 離乳期の栄養と食事</td> <td>1)乳児の摂食機能，感覚機能，運動機能の発達に応じた離乳の意義とその進め方を，離乳の基本を基に理解する。 2)離乳食の進め方を，初期，中期，後期，完了期にわけて実習する。特に，乳汁と離乳食の摂取割合，調理形態，味付けの変化を中心に調理展開する。また，乳児の摂食行動の発達に適した食具と与え方についても実習する。</td> </tr> <tr> <td>6. 幼児期の栄養と食事</td> <td>1)幼児にとって望ましい食習慣の確立するために，幼児期の栄養の特徴や，齲齲，食物アレルギー，肥満，生活習慣病との関連を理解する。 2)幼児の発達年齢別に生理機能，摂食機能，心理面の発達に応じた食事を同一の食材料を用いて実習し，その配慮点を学ぶ。 3)食行動の発達に適した食具と調理方法との関連を学び，与え方を学習する 4)保育所の食事と家庭の連携，食育の意義やその内容を把握する。</td> </tr> <tr> <td>7. 学童期・思春期・青年期の栄養と食事</td> <td>1)学童期・思春期・青年期の生活リズム等のライフスタイルと栄養・食行動，そして健康問題（肥満，やせ願望，不定愁訴など）の関連を理解する。 2)子どもの食生活を自己管理する力を養うために文部省等で推進されている総合学習での「食に関する指導」等も理解する 3)児童福祉施設の中で，養護施設をとり上げ，一日の食事で，子どもが参加できる料理，及びおやつを実習する。</td> </tr> </tbody> </table>	テーマ	講 義 と 実 習	1. オリエンテーション	小児栄養実習の学習内容，調理実習にあたっての基本的心得，衛生的配慮，調理器具の正しい扱い方を学ぶ。	2. 成人女子の栄養と食事	20代成人を基本にして，栄養バランスを配慮した食事展開を行い，自分の食生活のあり方を学ぶ。	3. 妊娠・授乳期の栄養と食事	1)受精による妊娠期・授乳期の母体の変化と栄養の特性を理解し，つわり，貧血，妊娠中毒症等に対応した食品選択，調理方法を学ぶ。 2)20代成人を基本にして，妊娠・授乳時の食事展開を実習する。	4. 乳汁期の栄養と食事	1)生体リズムと生活リズムの関わり，哺乳と授乳による母子相互作用を理解し，それに伴う生活日課の組み方を学習する。 2)母乳栄養の特徴を理解し，授乳法，冷凍乳の扱い方を実習する。 3)人工栄養（育児用ミルク，フォローアップミルク），また，哺乳行動の発達に応じた哺乳瓶，乳首の選択方法を理解し，調乳法・授乳法を実習する。	5. 離乳期の栄養と食事	1)乳児の摂食機能，感覚機能，運動機能の発達に応じた離乳の意義とその進め方を，離乳の基本を基に理解する。 2)離乳食の進め方を，初期，中期，後期，完了期にわけて実習する。特に，乳汁と離乳食の摂取割合，調理形態，味付けの変化を中心に調理展開する。また，乳児の摂食行動の発達に適した食具と与え方についても実習する。	6. 幼児期の栄養と食事	1)幼児にとって望ましい食習慣の確立するために，幼児期の栄養の特徴や，齲齲，食物アレルギー，肥満，生活習慣病との関連を理解する。 2)幼児の発達年齢別に生理機能，摂食機能，心理面の発達に応じた食事を同一の食材料を用いて実習し，その配慮点を学ぶ。 3)食行動の発達に適した食具と調理方法との関連を学び，与え方を学習する 4)保育所の食事と家庭の連携，食育の意義やその内容を把握する。	7. 学童期・思春期・青年期の栄養と食事	1)学童期・思春期・青年期の生活リズム等のライフスタイルと栄養・食行動，そして健康問題（肥満，やせ願望，不定愁訴など）の関連を理解する。 2)子どもの食生活を自己管理する力を養うために文部省等で推進されている総合学習での「食に関する指導」等も理解する 3)児童福祉施設の中で，養護施設をとり上げ，一日の食事で，子どもが参加できる料理，及びおやつを実習する。	
テーマ	講 義 と 実 習																
1. オリエンテーション	小児栄養実習の学習内容，調理実習にあたっての基本的心得，衛生的配慮，調理器具の正しい扱い方を学ぶ。																
2. 成人女子の栄養と食事	20代成人を基本にして，栄養バランスを配慮した食事展開を行い，自分の食生活のあり方を学ぶ。																
3. 妊娠・授乳期の栄養と食事	1)受精による妊娠期・授乳期の母体の変化と栄養の特性を理解し，つわり，貧血，妊娠中毒症等に対応した食品選択，調理方法を学ぶ。 2)20代成人を基本にして，妊娠・授乳時の食事展開を実習する。																
4. 乳汁期の栄養と食事	1)生体リズムと生活リズムの関わり，哺乳と授乳による母子相互作用を理解し，それに伴う生活日課の組み方を学習する。 2)母乳栄養の特徴を理解し，授乳法，冷凍乳の扱い方を実習する。 3)人工栄養（育児用ミルク，フォローアップミルク），また，哺乳行動の発達に応じた哺乳瓶，乳首の選択方法を理解し，調乳法・授乳法を実習する。																
5. 離乳期の栄養と食事	1)乳児の摂食機能，感覚機能，運動機能の発達に応じた離乳の意義とその進め方を，離乳の基本を基に理解する。 2)離乳食の進め方を，初期，中期，後期，完了期にわけて実習する。特に，乳汁と離乳食の摂取割合，調理形態，味付けの変化を中心に調理展開する。また，乳児の摂食行動の発達に適した食具と与え方についても実習する。																
6. 幼児期の栄養と食事	1)幼児にとって望ましい食習慣の確立するために，幼児期の栄養の特徴や，齲齲，食物アレルギー，肥満，生活習慣病との関連を理解する。 2)幼児の発達年齢別に生理機能，摂食機能，心理面の発達に応じた食事を同一の食材料を用いて実習し，その配慮点を学ぶ。 3)食行動の発達に適した食具と調理方法との関連を学び，与え方を学習する 4)保育所の食事と家庭の連携，食育の意義やその内容を把握する。																
7. 学童期・思春期・青年期の栄養と食事	1)学童期・思春期・青年期の生活リズム等のライフスタイルと栄養・食行動，そして健康問題（肥満，やせ願望，不定愁訴など）の関連を理解する。 2)子どもの食生活を自己管理する力を養うために文部省等で推進されている総合学習での「食に関する指導」等も理解する 3)児童福祉施設の中で，養護施設をとり上げ，一日の食事で，子どもが参加できる料理，及びおやつを実習する。																
<b>【評価方法】</b> ①授業への出席及び態度，②筆記試験，③レポートの内容により，総合評価する。																	

【授業科目】 精神保健	【担当者】 中川 和美
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>1) 精神保健の意義および目的の理解 2) 保育に関連する小児の精神保健の理解</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特に指定しない</p>	
<p>【参考書】 精神医学ハンドブック 山下格著（日本評論社） 精神医学サブノート 武正建一編（南江堂）</p>	
授 業 計 画	
<p>* 授業課題</p> <p>1) 精神的な健康を維持・増進するためには どのように考えたり行動したりしていけばよいのかについて、 身近なひとを対象にして検討する機会をもち、精神保健の意義 および目的を理解する。</p> <p>2) 小児期に特有なこころの健康の問題や精神障害について学び、 早期発見および治療や、健全な精神発達促進のために欠かせない 保育の関わりを理解する。</p> <p>* 授業内容（予定）</p> <p>1) 精神保健概論 2) 成人のこころの問題と精神障害 3) 小児のこころの問題と精神障害 4) 精神保健活動の実践</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>1) 授業中のプリント提出 2) 学期末筆記試験</p>	

<b>【授業科目】</b> 教育課程総論	<b>【担当者】</b> 岡本富郎
<b>【開講期】</b> 2年前期	
<b>【授業目標】</b> 教育課程とは何か、また保育において何故教育課程が必要なのかを知る。そして教育課程を編成するために知っておいたほうがよいことを知る。	
<b>【テキスト・参考書】</b> 『ハンドブック教育・保育・福祉』（ハンドブック編集委員会編）	
授業計画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育課程とは何か（教育課程という用語、カリキュラムの語源－クレッレの意味、教育課程の定義、学校教育の三領域と保育との関係について、子ども像と教育課程との関係）</li> <li>2. 教育課程は何故必要か。人間の子どもの特徴と教育課程との関係。保育実践の上で教育課程が必要な具体的な理由。</li> <li>3. 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」における教育課程の内容（教育課程、保育の計画、保育計画、指導計画について）。年間計画、期案、月案、週案、日案の基本的な考え。</li> <li>4. 教育課程と生活との関係。生活保育とは何か（生活教育との関係）、生活の概念、生活の特徴。生活の中の子どもの仕事。</li> <li>5. 子どもの自由と主体性と教育課程との関係。自由の概念、主体性の概念、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」における主体性について（主体、主体的との関係）。</li> <li>6. 教育課程で基本的に大切なこと、「楽しさ」について。楽しい活動の重要性と楽しい活動の具体例。上記の内容を、具体例を掲げて分かり易く話す。</li> <li>7. 倉橋惣三の保育構造と教育課程。</li> </ol>	
<b>【評価方法】</b> 試験	

<b>【授業科目名】</b> 保育内容 人間関係（社会行動）	<b>【担当者】</b> 民秋 言
<b>【開講期】</b> 2年前期	
<b>【授業目標】</b> 社会的存在としての人間は、社会生活を前提とする。社会のなかで、つまりいろいろな人たちとさまざまなかかわり（人間関係）をもち乍ら生活する（すなわち子どもは育つ）ことを学ぶ。同時に子どもが社会的成長を遂げるために、園生活の中で保育者がどのようににはたらきかけていくか（保育の展開）についても学ぶ。	
<b>【テキスト・参考書】</b> 大場牧夫・大場幸夫・民秋 言著『子どもと人間関係－人とのかかわりの育ち』萌文書林 ハンドブック教育・保育・福祉編集委員会編『ハンドブック教育・保育・福祉』北大路書房	
<b>授 業 計 画</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「保育内容・人間関係（社会行動）」という科目が、幼児・保育資格取得課程に設けられている意味を説明する。他の保育内容系科目との関連－共通点と異なる点も併せて説明する。</li> <li>2. 保育所保育指針と幼稚園教育要領でとり扱われている「保育の内容」「ねらい及び内容」の概略をおさらいする。他科目でもくり返し行われているであろうが重要なところであるから、ていねいに話す。</li> <li>3. 保育指針、教育要領いずれも保育内容は5領域に分けられ、そのうちの一つが当該科目の「人間関係」にかかわるものであることを話す。併せてとくに保育指針では「養護」と「教育」という側面が在ることも説明する。</li> <li>4. 人間は社会的存在である。つまり社会の中で人とのかかわりの中で生まれ、育ち、生活する存在である。そのかかわりこそ「人間関係」とよばれうものであり、このかかわりなくしては人間ありえないことを説明する。</li> <li>5. 社会生活とは共同生活ともいえる。人間が生活することのメカニズムを「人との共同」に焦点を併せるが、その前に生活を行動の連続としておさえ、人間の行動の特徴を何点か明らかにする。</li> <li>6. 子どもが社会の中で育つことはただ単に肉体的・生理的に成熟を遂げることだけではない。社会的な育ち（社会的成長）を必要とする。その育ちの過程を社会化として捉える。社会的育ちの手がかりを得る。</li> <li>7. 人間が社会生活＝共同生活をするためには、自分の欲求を充足すると共に他の人の欲求充足をも許さなければならない。そこに一定の生活（行動）のしかたが生ずる。これを文化と呼び、この文化を習得していくことが子どもの社会的成長となる。この過程が社会化である。</li> <li>8. 子どもにとって文化はさまざまなはたらきをするが、ここでは社会（園生活）規範としての文化に注目する。また、その文化に規程され乍ら展開するいろいろな人間関係の相について説明する。</li> <li>9. 園生活では「人とのかかわりの育ち」を大切にす。いままで学んだところを礎にして、具体的な子どもの園生活像をえがく。「依存」から「自立・自律」はまずその第一歩である。</li> <li>10. 園生活における「人とのかかわりの育ち」は集団生活において、もっとも端的にあらわれる。その集団生活を子どものたちにどのように送らせるか、子どもにとっての集団のあり方を考える。</li> <li>11. 「人とのかかわり」＝人間関係の育ちにかかわる実践的な問題点をいくつかあげることで本講のまとめとする。保育者が日常の保育の場でしっかりと「人とのかかわり」を育てる力を子どもに習得させ視点を述べる。</li> </ol>	
<b>【評価方法】</b> 期末にペーパーテストを実施	



【授業科目】 保育内容 環境Ⅰ（自然認識）		【担当者】 近藤正樹・小作明則
【開講期】 2年 前期		
<b>【授業目標】</b> 子どもたちは、自然認識の中で、自然物・自然現象に出会って、知的体験を拡大し、自然法則を感得していく。この教科では、これらの体験を適度に提供できる保育者を養成するために必要な“知識と体験の事前学習”と“教育方法”を含み、保育現場で底力が発揮できる保育者に仕立てたいと思っている。認識ばかりでなく、実習体験を組み合わせ、不得意を得意に導きたい。休日のうち1日を野外実習にあて、神奈川県真鶴町の磯で体験学習を行う。		
<b>【テキスト】</b> テキストは使用しない（プリントを配布する）		
<b>【参考書】</b> 参考書は演習や講義ごとに紹介する 基本的なものは大学図書館にある		
<b>授 業 計 画</b>		
4月 8・10日	・ 幼児のための環境設定①栽培（講義と演習） 畑づくり・土づくり 農具の使い方 施肥と防虫 栽培計画	
4月 15・17日	・ 幼児のための環境設定②（講義） ムシに強くなろう 飼育の要点 正解は観察をしてから	
4月 22・24日	・ 植物にあかるい保育者になるために①（演習と講義） 身近な雑草の観察 花・茎・葉・根の特徴を知る	
5月 補・1日	・ 植物にあかるい保育者になるために②（講義と演習） 検索の仕方・図鑑の使い方 顕微鏡の使い方 花の構造の観察とスケッチ	
6月 3・5日	・ ムシを知っている保育者になるために①（演習） 昆虫（アリ）の構造観察とスケッチ	
6月 10・12日	・ ムシを知っている保育者になるために②（講義） ムシとは何か 昆虫の基本構造 発育と変態 昆虫の生活	
6月 17・19日	・ 「これなあに」に強くなるために（講義） 認識と質問との関係 概念形成の質問と対応のしかた	
6月 24・26日	・ 「なぜ」「どうして」に強くなるために（講義） 知識の拡大の質問と対応のしかた 「正しい話」と「うその話」 解答不能の扱い方	
7月 1・3日	・ 自然の変化に気づく（講義） 天気と気象 天気図の見方・使い方 生物季節 天体の物理現象	
7月 8・10日	・ 「自然」とは何か（講義） 自然・人為・人工 自然物・自然現象・自然法則 「自然度」が意味するもの	
7月 15・17日	・ 自然保護 自然保護の考え方 生命尊重の意味 「かわいい」「かわいそう」の問題 環境教育	
<b>【評価方法】</b> 演習の成果・宿題の結果・期末試験の成績を総合して行う		

【授業科目名】 保育内容 表現Ⅰ（文化行動）	【担当者】 加宮葵
【開講期】 2年前期	
<b>【授業目標】</b> 幼児の発達をよく理解し、その発達の段階にそった音楽の表現活動を、スムーズに指導する事のできる保育者を育てる。	
<b>【テキスト・参考書】</b> 【子どもが音楽を好きになるとき】 加宮 葵 著 音楽之友社	
授 業 計 画	
授業のねらい	授 業 内 容
幼児の心と音楽の関係を良く認識する。	1) 教育理論編 ① 幼児教育における音楽について ② 幼児の心の発達と音楽的感覚の開発について
表現としての音楽の認識 発達に応じた望ましい音楽のあり方を認識する	③ 表現としての音楽 ・うたう事のはじまり・音を出す事のはじまり ・幼児の集団とうた ・幼児の集団と楽器
音楽教育の第一歩は、きくという活動から始まる事を認識する	2) 指導と実践編 ① 幼児の音楽鑑賞 [音楽を聞く能力の発達段階の特徴] ② 幼児のうたの指導 ・年少児・年長児
学生が実際に、いろいろな楽器の特徴や奏法を知る事により、使用する目的・場所等への適応、曲のリズム、メロディー、伴奏等への考慮が出来るようにする	③ 幼児の楽器の指導 ・簡易楽器の特徴と奏法 ・基本リズムパターンの習得 ・年少児・年長児の合奏指導 ④ 幼児の創作指導と実践
指導計画・指導案を知る	⑤ 指導計画・指導案 ・年間指導計画・月間指導計画・日案 週案（具体的なうたや楽器の指導計画） ⑥ 教材曲の実践例等
★全出席を原則とする。	
<b>【評価方法】</b> 期末試験の成績・特に出席点を重視する。	

【授業科目】保育内容 表現Ⅰ（文化行動）	【担当者】 若松 美恵子
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもは見たこと、感じたことをいろいろな時や場において、言葉や身体で表現する。その幼児の身体表現に関する基本的知識を習得し、子どもの自発的な表現を育み、感受性、表現意欲、創造性を豊かに育てるための援助・指導の基本的な方法を学ぶ。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>石井美晴・菊地秀範 編「保育の中の運動あそび」萌文書林</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 表現Ⅰの中の「身体で表現する」の保育内容での位置づけを知る 保育内容「表現」及び文化行動とは</li> <li>2 身体で表現することの意味を理解し、子どもの身体表現にはどんな意味があり、日常見られる表現の姿から幼児の表現の特性を知る       <ol style="list-style-type: none"> <li>①表現の意味とその理解</li> <li>②身体表現の意味とその理解</li> <li>③幼児の身体表現の特性</li> </ol> </li> <li>3 幼児の運動・言語・情緒・社会性の発達と関わらせながら日常的に見られる身体表現の発達を理解する       <ol style="list-style-type: none"> <li>① 運動、言語、情緒、社会性の発達と身体表現</li> <li>② 0～5歳児の身体表現の発達と特徴</li> </ol> </li> <li>4 保育の場における身体表現活動から身体表現力の変化とその特徴を理解する       <ol style="list-style-type: none"> <li>① 3歳児の身体表現</li> <li>② 4歳児の身体表現</li> <li>③ 5歳児の身体表現</li> </ol> </li> <li>5 子どもの身体表現を豊かに引きだし育むために保育者はどのように援助すべきかを理解する       <ol style="list-style-type: none"> <li>① 援助の基本的姿勢 ② 表現の題材 ③ 動機づけ ④ 豊かにとらえる</li> <li>⑤ 豊かに表す ⑥ 援助と言葉がけ</li> </ol> </li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席および筆記試験</p>	

【授業科目名】 保育内容 表現Ⅰ（文化行動）	【担当者】 八木 紘一郎・花原 幹夫・海老原 京子
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもが、<b>造形的な表現文化行動様式</b>を獲得できるような援助の内容と方法を理解します。そのための具体的な〈表現文化行動理解〉〈教材理解〉〈援助指導方法〉の三つの基本を主に習得することを目標とします。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>『新しい表現遊び ―総合的表現活動の指導法―』…八木・枝常・花原・海老原（フレーベル館）</p>	
<p>【参考書】</p> <p>特に使用しません。</p>	
<p><b>授 業 計 画</b></p>	
<p>子どもの表現文化行動は、身体を媒体にする音楽やダンスなどの表現文化行動と、モノを媒介にする<b>造形的な表現文化行動</b>の両方をミックスさせながら総合的に展開されます。このことを視野に入れた上で、授業では後者の<b>造形的な表現文化行動を中心に</b>、その援助指導方法の基本を学びます。</p> <p>以下のテーマについて授業を展開していきます。</p> <p>第1回目の授業時には、さらに具体的な授業プログラムと、授業のすすめ方などについての説明をします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの表現文化行動とは</li> <li>2. 子どもの表現文化行動の基本となる援助指導方法の理解</li> <li>3. 素材、材料から展開する援助指導方法の理解</li> <li>4. ひとつの造形活動から発展させる援助指導方法の理解</li> <li>5. テーマ別の造形活動とその援助指導方法の理解</li> <li>6. 総合表現の援助指導方法の理解</li> <li>7. 造形的な表現文化行動の指導計画の立て方とその理解</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平常授業での課題を評価します</li> <li>・授業内容すべてを一冊のファイルにまとめたものを評価します</li> </ul>	

【授業科目】 保育内容 環境II		【担当者】 近藤正樹
【開講期】 2年 後期		
<b>【授業目標】</b> 環境I（自然認識）では教育方法にも触れねばならず、保育者の自然認識体験を拡大する機会是不充分であった。この事情を乗り越える企画として、身近な自然の認識体験の拡張を重視した演習「武蔵野の小動物図鑑」の作成をゴールとした総合活動（グループ作業を中心として）を行う。図鑑類の使い方、顕微鏡の使い方、接写写真の撮り方などの技術体験を織り込んで行う。		
<b>【テキスト】</b> テキストは使用しない		
<b>【参考書】</b> 参考書として、小動物の分類同定に必要な図鑑類を紹介する演習用として教室に、貸出用として大学図書館に常備してある		
<b>授 業 計 画</b>		
9月25日	グループ研究のすすめ方 テーマ「武蔵野の小動物図鑑」（講義） 分担研究の選択と企画：土壌中にすむ動物・草地林床にすむ動物・灯火に集まる昆虫の採集	
この間に	研究材料（小動物）の採集を教員の指導のもとで行う（演習・グループ活動） 採集場所は雑木林（津田塾大）とあき地の草むら（雑木公園）とに分けて分担する それぞれの場所でツルグレン法による土壌動物の採集・標蚊帳を用いた採集・夜間の灯火採集に分けて分担する	
10月2日	資料（小動物）の種類分け（sorting）（講義とグループ活動）	
10月9日	接写写真・顕微鏡写真撮影の技術指導（演習）と同定（identification）（グループ研究）	
10月16日	資料（小動物）の撮影と同定の続き（グループ活動）	
10月23日	資料（小動物）の撮影と同定の続き（グループ活動）	
11月13日	武蔵野の自然①地形・地質・土壌・気象（講義）	
11月20日	武蔵野の自然②自然植生と都市化の歴史（講義）	
11月27日	武蔵野の自然③武蔵野の新田開発と自然（現地実習）	
12月4日	「武蔵野小動物図鑑」の企画と作成（講義とグループ活動）	
12月11日	「武蔵野小動物図鑑」の作成（グループ活動）	
12月18日	「武蔵野小動物図鑑」の完成・提出（グループ活動）	
1月8日	「武蔵野小動物図鑑の作成経過と内容」の紹介（演習・研究発表会）①	
1月15日	「武蔵野小動物図鑑の作成経過と内容」の紹介（演習・研究発表会）②	
1月22日	武蔵野の小動物たち（講義）	
<b>【評価方法】</b> 個人演習として、本学近郊の植生地図塗りと野外実習のレポート グループ演習として、「武蔵野小動物図鑑」の作成 それに、平常活動の評価を総合して行う		

<b>【授業科目】</b> 保育内容 環境Ⅱ	<b>【担当者】</b> 吉川 研二
<b>【開講期】</b> 2年 後期	
<b>【授業目標】</b> <p>自然教育と環境教育を基本に、幼児教育の場としての自然を考える。私たちにあってなじみ深い人里の自然を総合的にとらえ、子ども達の自然観察の場、屋外活動の場としてどう設計し利用するか。環境保全問題も合わせて考える。</p>	
<b>【テキスト】</b> 『小さな自然観察』平凡社	
<b>【参考書】</b> ピオトープに関する本、草花遊び・野遊びなど子どもの野外活動に関する本 野草・昆虫・水生小動物などの図鑑ほか	
授 業 計 画	
I (講義) II (野外実習) III (演習) IV (講義と演習) V (講義と演習) VI (演習) VII (講義) VIII (講義) IX (演習) X (演習)  XI (演習) XII (演習)	<p>この科目の主目的とねらい          自然教育・環境教育の視点 人里の自然環境と動植物</p> <p>里山の自然体験学習          谷戸、小川や池、田や畑、雑木林 動植物の観察</p> <p>動植物の整理 (1)          観察、採集した動植物のチェックリストの作成</p> <p>地図の見方、利用の仕方          各種地図と航空写真 地形を読む 高さ／距離を測る</p> <p>土地利用と植生図          地形図、航空写真、現地記録などを基に土地利用図の作成</p> <p>動植物の整理 (2)          動植物の生態を知る</p> <p>B i o t o p e (1)          里山の自然 人の生活と共存する自然</p> <p>B i o t o p e (2)          子どもたちにとってよい自然とは</p> <p>子どもの遊び環境          自然の保全を考え、自然を生かし、生きもの達と共生する子どもの遊び環境を作る</p> <p>子どもの遊び環境としての動植物          動植物を利用した遊び、創作活動          動物採集や飼育 野外の危険な動植物</p> <p>まとめ (1) 植物図鑑の作成</p> <p>まとめ (2) 子どものための野遊び空間の設計</p>
<b>【評価方法】</b> 野外実習＋演習の総合レポート＋平常点	

【授業科目】 保育内容 言葉Ⅱ	【担当者】 佐々加代子
【開講期】 2 年 後期	
<b>【授業目標】</b> 障害児を含めた乳幼児の言語発達過程において発達助成者として位置づく保育者に、さまざまな物的教材を媒介として育む「方法論」の習得を目指す。個及び集団の発達に見合った教材の選択と技法を学び、さらに評価修正技術の習得に置く。	
<b>【テキスト】</b> 菅井健、話しことばの練習帳、晩成書房 佐々加代子、子どもからの贈りもの、犀書房 佐々加代子、発想・想像・表現、犀書房	
<b>【参考書】</b> 佐々加代子、コミュニケーション能力弱者のQOL援助、犀書房 他、随時提供する。資料としては2001年度までの作品集。	
授 業 計 画	
<p>1) よくひびく、よくとおる声の養成  TRCを用いて反復・修正練習をしながら質を高めます。</p> <p>2) 教材を吟味する確かな目の養成  この場合の教材は絵本、紙芝居、童話、素話、パネルシアター、エプロンシアター、ことばあそび、手あそび、人形 その他の遊具など、素材だけでなく、それを保育場面で用いるときに対象児の年齢や場面、保育集団の中で生きるかどうかの判断をした上での内容教材であるかどうかという目を養うものです。ただ単に、自分が「これが好きだから」というだけではなく、選択する視点を学びます。  発想豊かになったとき、用い方はより広がりをもたせようになります。</p> <p>3) 2) で選んだ内容（教材）の実践編として、上にあげた素材を教材として用いること。  実際場面を模擬的に作って実践してみます。  演習実践を通して自分の育ちをみつめ直したりすることや、未熟で課題としていくことなどを見ながら、技法として選出していくこともします。</p> <p>4) どのような状況や場面でも即応判断能力で実践していける応用力の養成  保育場面をコミュニケーション場面としておさえていきます。保育は子どもたちだけではなく、さまざまな人間関係も含みます。どのような人と出会ってもやっていける能力について「自分自身」をみつめることから始めます。</p> <p>演習形態で以下のことを実践してまとめていく。グループ活動でまとめるものとする。</p> <p>1. 絵本 1人10冊×5人=1グループで50冊  年齢別に区分し「言語」能力別に分類、要約、特徴、使用時の留意事項を記載してまとめる。</p> <p>2. 紙芝居 1人5冊×5人=1グループで25冊  絵本と同様にまとめる。</p> <p>3. 創作話作成  保育で大切にしたいテーマとして創作話作成後パネルシアター、紙芝居、絵本などで表現する。</p> <p>4. 手あそびを1グループ50種選定して覚える。選出したものは小冊子にまとめる。</p> <p>表現作品発表会を最終授業で行う。</p> <p>個人の授業を終えた感想をまとめ、グループでとりまとめて上記の作品を提出すること。</p>	
<b>【評価方法】</b> ①平常点 ②提出課題の量と質 によって行う	

【授業科目】保育内容 表現Ⅱ（子どもの音楽）	【担当者】秋山治子
【開講期】2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>乳児期、子どもは声を発声し⇒自分自身でコントロールできないが故に様々な高さの声を発し⇒次第に自分の声をコントロールできるようになると節（フシ）を歌いだし歌う楽しさの体験を積んでいく。他方生活周辺の音を聞き分け⇒色々な物から出る音の存在を認識し⇒楽器という美しく整備された「音の道具」から出る音を知り⇒その音を出すことを経験し⇒友達と声や音を響き合わせる共同作業を楽しみ⇒音楽の形を創り上げた時の満足感、達成感を子どもなりに味わい、自信をつけていく。この様な多くの音楽的体験が子どもの精神的成長発達を助け、情緒の安定を築いていく。</p> <p>授業では保育者として更なる音楽の応用力を身につけ、幼児の音楽経験の順次性を重視しながら、子どもに無理の無い、より良い実践方法を学んでゆく。尚、子どもの歌曲は毎回歌う。</p>	
<p>【テキストと楽譜】（全員が用意する）</p> <p>①「表現」①②高野雅子著 保育出版社</p> <p>②「子どもの歌」秋山治子著 共同音楽出版社</p>	
授 業 計 画	
<p>① 刈エーション（テキスト、楽譜、シラバス持参のこと） 幼児曲等をうたう</p> <p>② 各種打楽器に親しみ奏法等を知る</p> <p>③ 3歳児クラスに於ける音楽の様々な活動（あそびも含む）について考える</p> <p>④ 々</p> <p>⑤ 4歳児クラスに於ける音楽の様々な活動について考える</p> <p>⑥ 々</p> <p>⑦ 6歳児クラスに於ける音楽の様々な活動について考える</p> <p>⑧ 々</p> <p>⑨ 日本語と日本音階の上に成立している“日本のわらべ歌”と西洋音階の上に成立している幼児曲の本質的な違いを学ぶ。 また、日本音階の基礎理論と西洋音階の基礎理論を知り、日本の子どもの乳児期とわらべ歌の自然なつながりについての理解を深める</p> <p>⑩ 々</p> <p>⑪ 歴代の代表的な音楽教育家の思想とメソッドについて理解を深め、保育の中で「子どもが音楽に親しみ、楽しむために」と「子どもの音楽能力を向上させるために」という考え方の本質や方向性について考えを深める</p> <p>⑫ 々</p>	
<p>[評価]</p> <p>①出席状況      ②レポート</p>	



【授業科目】保育内容 表現Ⅱ ダンス	【担当者】若松美恵子
【開講期】2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>リズムカルな身体活動や身体での自由な表現を通してリズムカルに動く喜びや表現の喜びを味わい、表現力を高め、さらにその文化的、教育的価値を認識する。また、幼児の身体表現を適切に援助・指導できるための方法を実践的に習得する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>石井美晴・菊地秀範 編 「保育の中の運動あそび」萌文書林</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>1 身体で表現することの意味や意義</p> <p>① 聴覚障害児が初めてダンスを発表する過程を収録したビデオの鑑賞から身体で表現する意味や意義について考える</p> <p>② 全国ダンスフェスティバルの作品の鑑賞から表現方法と表現力について考える</p> <p>2 リズムカルな身体活動と指導法</p> <p>① リズム表現</p> <p>② 手遊び</p> <p>③ フォークダンス</p> <p>④ わらべ歌や歌を伴った遊戯</p> <p>⑤ 体操</p> <p>3 身体表現と指導法</p> <p>① 指導案作成</p> <p>② 模擬指導</p> <p>③ 反省と批評</p> <p>4 幼児に関わる文化から題材を選択し、身体で自由に表現する</p> <p>① 題材から動きへ、動きからダンスへ</p> <p>② 表現力を高める</p> <p>③ 作品の発表と鑑賞</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席と平常点</p>	

【授業科目名】 保育内容 表現Ⅱ (デザイン)	【担当者】 花原 幹夫
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもは、様々な目的をもって「描く」「つくる」という造形表現方法をミックスしながら、「デザイン」をしていきます。その内容を理解し、同時にその援助の内容と方法の習得を目標に、演習を中心にして、楽しく授業をすすめていきます。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特に使用しません。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>特に使用しません。</p>	
<p><b>授 業 計 画</b></p>	
<p>子どもの造形的な表現文化行動の中には、例えば、お店やごっこのように、仲間で協力をしながら、計画し、役割分担しながら身近な素材材料を使って、お店の品物やポスターや看板などをつくったりすることがあります。このような<u>目的性の強い造形的な表現文化行動</u>について、その具体的な援助内容と方法を学びます。</p> <p>以下のテーマについて授業を展開していきます。第1回目の授業時には、さらに具体的な授業プログラムと、授業の進め方などについての説明をします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. デザインとは、どういうことなのか <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザインの意味や役割について</li> <li>・デザインと社会の関係について</li> </ul> </li> <li>2. 子どものデザイン(描く・つくるを応用する)の具体的内容について</li> <li>3. 子どものデザイン(描く・つくるを応用する)とその援助方法について <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な事例をもとに</li> </ul> </li> <li>4. 計画デザインについて <ul style="list-style-type: none"> <li>・行事を企画することから実現までを通して</li> </ul> </li> <li>5. 保育者自身のデザインについて</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>授業内容すべてを一冊のファイルorノートに工夫してまとめたものを評価します。</p>	

【授業科目】 保育計画法	【担当者】 師 岡 章
【開講期】 2 年 前 期	
<b>【授業目標】</b> 1. 保育カリキュラムの全体構造を理解させる。 2. 指導計画の作成手順を具体的に理解させる。 3. 子どもの実態を把握する方法について、様々な記録方法を用いて習得させる。 4. 目標・ねらいの種類と内容について、事例をもとに理解させる。 5. 指導計画の立案方法を、事例をもとに習得させる。 6. 保育実践の評価方法を、事例をもとに習得させる。	
<b>【テキスト】</b> 金村美千子編 『教育課程・保育計画総論』 同文書院	
<b>【参考書】</b> 文部省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館	
授 業 計 画	
1. 保育カリキュラムの全体構造 (1) 保育所保育指針・幼稚園教育要領と園の保育計画の関係 (2) 教育課程・保育計画と指導計画の関係 (3) 指導計画の種類とその内容・意義  2. 指導計画の作成手順 (1) 指導計画の作成過程 (2) 計画・実践と評価の関係  3. 子どもの実態把握と保育記録 (1) 子ども理解の本質 (2) 保育の記録法と実際  4. 目標・ねらいの種類と内容 (1) 保育所保育指針・幼稚園教育要領のねらいと内容 (2) ねらいの種類と実際  5. 指導計画の立案方法 (1) 中・長期指導計画（年間指導計画、期案、月案）の実際と立案 (2) 短期的指導計画（週案、日案）の実際と立案 (3) 年齢別指導計画の実際と立案 (4) 活動別指導計画の実際と立案  6. 保育実践の評価方法 (1) 評価の方法と実際 (2) 保育カンファレンス	
<b>【評価方法】</b> 出席状況、レポート、作成した指導案などをもとに、後期と総合して評価する。	

【授業科目】 保育計画法	【担当者】 石井 知子
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>3歳未満児の発達性を踏まえた保育の見通しを持ち、指導案が作成できるようになる。</p>	
【テキスト】	
<p>【参考書】</p> <p>保育所保育指針</p>	
授 業 計 画	
<p>保育所保育に焦点を当てる。乳児から就学前までの一貫性のある保育の計画を考慮しながらも、主に3歳未満児にウエイトを置く。講義と計画の作成や検討。実際の資料、VTRを使い授業を進めて行きたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション。グループ編成。「保育の計画」について保育指針からの読み取り。</li> <li>2. 保育の内容構成。</li> <li>3. 9月の保育所実習での学生の指導案の検討。</li> <li>4. 計画の実際（0・1・2歳児クラス）。</li> <li>5. 0歳児クラスの生活と遊び。</li> <li>6. 実際に計画を作成する。</li> <li>7. 連絡帳の書き方、日誌の書き方、生かし方。</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>授業後に提出するレポート。平常試験を総合して評価。</p>	

【授業科目】 幼児教育の方法	【担当者】 師岡章
【開講期】 2年後期	
<b>【授業目標】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児教育の基本を理解させる。</li> <li>2. 我が国の保育実践の現状と課題を理解させる。</li> <li>3. 保育の形態と指導方法の関係について理解させる。</li> <li>4. クラス運営の方法について理解させる。</li> <li>5. 保育環境の構成について理解させる。</li> <li>6. 保育内容の指導法について理解させる。</li> <li>7. 視聴覚教材の活用法について理解させる。</li> </ol>	
<b>【テキスト】</b> 上野恭裕編『新保育方法論』保育出版社、2000年	
<hr/> <b>【参考書】</b> 八木 紘一郎編『ごっこ遊びの探究—生活保育の創造をめざして』新読書社、1992年 無藤 隆監修『知的発達を支える保育』フレーベル館、1999年	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児教育の基本 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 幼児期の発達特性と幼稚園教育要領・保育所保育指針</li> <li>(2) 幼児期の発達と園生活の内容とその構造</li> </ol> </li> <li>2. 保育実践の現状と課題 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 一斉保育と自由保育</li> <li>(2) 外国の保育方法の受容</li> <li>(3) 保育ニーズと園経営</li> </ol> </li> <li>3. 保育形態と指導法 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 自由形態と設定保育</li> <li>(2) 個別指導とグループ指導</li> <li>(3) 異年齢保育</li> </ol> </li> <li>4. クラス運営の方法 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) クラス概念と集団保育の展開</li> <li>(2) 保育者の役割と指導の構造</li> <li>(3) 保護者への対応</li> </ol> </li> <li>5. 保育環境の構成 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 環境を通じた教育と保育環境の概要</li> <li>(2) 保育の環境構成の実際</li> </ol> </li> <li>6. 保育内容の指導法 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 遊びを中心にした総合的な指導</li> <li>(2) 基本的生活習慣の自立</li> <li>(3) 課題活動の指導</li> </ol> </li> <li>7. 視聴覚教材の活用 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) ビデオソフト・テレビ番組の活用法</li> <li>(2) パソコンの活用法</li> </ol> </li> </ol>	
<b>【評価方法】</b>  出席状況とテスト	

【授業科目】 乳児保育Ⅱ	【担当者】 清水 玲子
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>乳児保育Ⅰの基礎の上に、乳児保育をめぐる様々な問題を取りあげる中で、視野を広げ、乳児保育に関する具体的で多様な側面を理解し、より実践的な力量の形成を目指す。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>授業時に指示する</p>	
<p>【参考書】</p> <p>授業時に紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>上記の目的のため、演習形式を交えて以下のような内容で授業を行う予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 日本における乳児保育の歩み</li> <li>2) 今日の親の生活・子育ての実態と乳児保育</li> <li>3) 乳児保育の制度と現状の課題</li> <li>4) 乳児の発達と保育 <ul style="list-style-type: none"> <li>生活</li> <li>あそび</li> </ul> </li> <li>5) 乳児保育実践から学ぶ <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども理解</li> <li>保育者と子どもの関係</li> <li>子ども同士の関係</li> <li>親と保育者の関係</li> <li>保育者同士の関係</li> </ul> </li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席・レポート</p>	

【授業科目】	養護内容	【担当者】	中山正雄
【開講期】	2年 後期		
【授業目標】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童福祉施設で生活する子どもの事例を通して、子どもの生活への具体的な援助を理解させる。</li> <li>2. 子どもの事例を通して、社会的養護の理念を理解させる。</li> <li>3. 具体的なテーマや子どもの抱える課題について、演習をとおして実践的能力を身につけさせる。</li> <li>4. 児童生活支援、家族生活支援の計画から援助までの実際を理解させる。</li> <li>5. 援助者としての施設職員のあり方について理解させる。</li> </ol>		
【テキスト】	使用しない		
【参考書】	『子どもが語る施設の暮らし』明石書店		
授 業 計 画			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童福祉施設で生活する子どもたち <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 親の状況から家庭で生活できない子どもたち</li> <li>(2) 環境から逸脱行動を起こした子どもたち</li> <li>(3) 心身に障害を持つ子どもたち</li> <li>(4) 虐待を受けた子どもたち</li> </ol> </li> <li>2. 児童養護の理念 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもの最善の利益</li> <li>(2) 生存と発達の保障</li> <li>(3) 子どもの権利と権利擁護</li> </ol> </li> <li>3. 施設における援助 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 基本的な生活習慣と日常生活</li> <li>(2) 生活の中の治療としての人間関係と生活目標</li> <li>(3) 子ども集団を生かした積極的養護</li> <li>(5) 親子関係調整</li> <li>(6) 学校や地域との関係</li> <li>(7) リーピングケア・アフターケア、自立への援助</li> </ol> </li> <li>4. 児童養護計画、自立支援計画の実際 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 個別児童援助計画の実際</li> <li>(2) グループ援助計画の実際</li> <li>(3) 行事計画の実際</li> <li>(4) 家族支援計画の実際</li> <li>(5) 自立支援計画の実際</li> </ol> </li> <li>6. 施設職員論 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 施設職員に求められるもの</li> <li>(2) 施設職員の資質</li> <li>(3) 施設職員としての倫理</li> </ol> </li> </ol>			
【評価方法】	出席状況と討議への積極的参加及びレポート		

「授業科目名」 保育臨床相談	「担当者」 村田 保太郎
「開講期」 2年 前期	
<p>「授業目標」 最近の乳幼児には健全な成長・発達に歪みをもたらしている事例が見られる。また、保育の中での個別的な援助も必要であり保護者も含めてカウンセリングマインドを基本にした対応がとれる事が必要である</p>	
<p>「テキスト・参考書」</p> <p>「カウンセリングマインドの探究」 柴崎正行・田代和美著 フレーベル館刊</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 カウンセリングの基礎知識</li> <li>2 カウンセリングマインドの基礎知識</li> <li>3 乳幼児期に培われる人間としての基本的な育ち</li> <li>4 幼児理解とカウンセリングマインド</li> <li>5 障害児の理解とカウンセリングマインド</li> <li>6 幼児の生活とカウンセリングマインド</li> <li>7 幼児の遊びとカウンセリングマインド</li> <li>8 保護者との連携とカウンセリングマインド</li> </ol>	
<p>「評価方法」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業の中でのミニレポート</li> </ol>	



【授業科目】 障害児保育	【担当者】 堀江まゆみ
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>障害のあるこどもの保育アプローチにおける基本的な知識と技術を理解する。</p> <p>さまざまな障害児保育の実践を知り、保育現場の悩み、親の手記など具体的な具体的な事例を通して障害児保育の見方や考え方を深める。</p> <p>また、自らの感性やイマジネーションを磨くことの大切さにも気づく。</p>	
<p>【テキスト】</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【参考書】「保育所における障害児への対応」障害児保育研究会編（全社協）</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害児保育の意義と理念</li> <li>2. 障害のある子どもの基本的理解とその援助       <ol style="list-style-type: none"> <li>①「人間」的理解</li> <li>②「障害」に関する理解</li> <li>③「発達」的理解</li> </ol> </li> <li>3. 親の心理とその援助</li> <li>4. 障害児保育の実践       <ol style="list-style-type: none"> <li>①知的障害</li> <li>②肢体不自由</li> <li>③広汎性発達障害</li> <li>④保育園・幼稚園における「気になる子」を中心に</li> </ol> </li> <li>5. 保育集団における仲間関係（障害のない子どもたちとの関係）</li> <li>6. 保育所と地域生活支援機関との連携       <ol style="list-style-type: none"> <li>①連携の意義と進め方</li> <li>②通園施設における「出前療育」</li> </ol> </li> <li>7. 保健・福祉行政と障害児保育</li> <li>8. まとめ</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>定期試験（持ち込み不可）、平常点</p>	

【授業科目】 家庭管理	【担当者】 野城尚代
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもの成長・発達に大きな影響を及ぼす家庭生活の本質と機能を把握する。家庭生活を中心に、さらに社会に視野を広げながら、家庭生活の実態や問題点を考える。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>開講時に指示する</p>	
<p>【参考書】 白井和恵（編著）『生活の経営』（同文書院） 宮崎礼子・伊藤セツ編『家庭管理論（新版）』（有斐閣新書）など</p>	
授 業 計 画	
<p>まず、家庭生活とは何か、家庭管理とは何かについて学ぶ。そして、家庭生活を構成する家族について、世帯構造や意識の側面から家族の変化をとらえる。そのうえで、家事労働や職業労働の意義、家計の経済社会における位置と管理、消費生活の実態、消費者問題や環境問題について理解する。また、家庭生活を管理していくうえで、離婚、病気や死亡などの危機も考えられるので、家庭生活の安定のための社会保障制度についても説明する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家庭管理とは</li> <li>2. 家族の変化</li> <li>3. 家事労働の意義と実態</li> <li>4. 職業労働の意義と実態</li> <li>5. 家計の位置と管理</li> <li>6. 消費生活の実態</li> <li>7. 消費者問題</li> <li>8. 環境問題</li> <li>9. 家庭生活の危機</li> <li>10. 社会保障制度の概要</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点、中間レポートと期末試験などに基づいて評価する。</p>	

【授業科目名】	音楽 I (ピアノ)	【担当者】 秋山治子・他(下記参照)
【開講期】	2 年前期	
【授業目標】	<ul style="list-style-type: none"> <li>①音楽の理論および形式の基本の理解</li> <li>②読譜力の習得</li> <li>③主として鍵盤楽器の演奏に関する基礎力の習得</li> <li>④保育者に要求される音楽的表現や幼児曲の実践力の育成</li> </ul>	
【テキスト】	1、鷺見五郎 著「ピアノメソード」：共同音楽出版社（全員が用意する）	
【参考書】	1、秋山治子「子どもの歌」：共同音楽出版社	
	2、ソナチネ、ソナタ、ブルグミュラー、他	
【授業計画】		
ピアノ I (1年から引き続き2年前期まで)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1、譜表・音符・拍子記号・各種記号並びに標語・音階・調性・和音の基礎的理解</li> <li>2、基礎読譜力の習得</li> <li>3、基礎読譜力と音楽能力の向上</li> <li>4、大譜表の読譜力及び鍵盤楽器の基礎技能の習得</li> <li>5、幼児曲を中心とした実践力の育成と音楽能力の向上</li> </ul>	
【評価方法】	期末試験の成績（Ⅲグレードの合否）	
【担当者】	泉晶子・稲村敬子・大澤美紀・掛場久子・佐藤久美子・島田東史子・諏訪玲子・関根美和子・西山裕子・舩本清美・岡益代・平さわ・三尾恵子・西澤和枝・野村真理子・山本由紀子・藤間洋子	



【授業科目】音楽Ⅱ(ピアノ)	【担当者】秋山治子・稲村敬子・諏訪玲子・関根美和子・舛本清美
【開講期】2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育におけるさまざまな音楽活動や場面に対応できる基礎力と応用力を身につける</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>「子どもの歌」秋山治子著 共同音楽出版社  「コードネーム・和声・伴奏付け」秋山・稲村・諏訪・関根・舛本共著 共同音楽出版社</p> <p>[参考書(楽譜集)]</p> <p>「キラッとマーチ」秋山・舛本・高林共著 共同音楽出版社</p>	
授 業 計 画	
<p>授業の主な内容を以下に記す</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 幼児曲(子どものうた)の特殊な演奏方法(例えばクラシックのピアノ曲の場合と、指の使いかた、運指方法、フレーズの解釈の仕方とそれに伴うアーティキュレーションなど色々なことを学ぶが)を習得する</li> <li>2 幼児曲の演奏に馴れる① (歌う声は小さくてもよいが、まず歌いながら弾くことに馴れる)</li> <li>3 伴奏法① (機能 and 和声の説明と実践) (I-V-I)、(I-IV-V-I)</li> <li>4 幼児曲の演奏に馴れる② (これまでより大きな声で歌うことを心がける)  (子ども達の様子や姿を見ながら演奏できることを心がける)</li> <li>5 伴奏法② (機能 and 和声の説明よ実践) (I-IV-V7-I)</li> <li>6 マーチ・スローマーチ・ラン・スキップ・ギャロップ・ワルツのポイントの理解と実際のステップを習得する  (暗譜して弾ける曲を選び、子どもの動きに対して様々なことば掛けをしながら弾けるようにする)</li> <li>7 連弾の学習によって音楽のリズム感、スピードの大切さを理解および習得する</li> </ol>	

【評価方法】

平常点

出席状況

授業中の小テスト

【授業科目名】 音楽Ⅱ（うた）	【担当者】 加宮葵・平野ミヨ子・豊野雄次郎
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>前期：初見視唱と暗譜を義務づける事により、人の前で歌う事に自信が付き、楽しいと感じられる様にする。</p> <p>後期：暗譜した曲を、自発的にソロする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：サルバトーレ・マルケージ op. 15</p>	
授 業 計 画	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分から希望し選択した科目であるため、一人で歌う事を義務づける。</li> <li>・一つの音を、持続しながら cresc. したり dim. したりし、自然なふくらの美しさを学ぶ。</li> <li>・言葉がつく事により、発声がむずかしくなる事を知る。</li> <li>・全音階の練習</li> <li>・暗譜演奏する事により、声がより前になる事を知る。</li> <li>・言葉の意味をよく理解し、自分なりの曲想をつけて演奏する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・後期に入ると、学生が非常に積極的に一人で歌う事を希望する様になるため、自然な形で練習曲・歌曲共にややむずかしい曲へとすすめてゆく。</li> <li>・付点のスケール習得</li> <li>・短調による音階の習得</li> <li>・半音階の音のとり方のむずかしさを知る。</li> <li>・前期から練習して来た練習曲・歌曲を、暗譜で時間いっぱい歌えるという事で、大きい満足感を得る事が出来る。</li> <li>・緊張の中で歌う事を経験するために、全員が任意の一曲を独唱する。（テスト）</li> </ul> <p style="text-align: center;">*毎時間楽しい歌曲を歌える様に考えている。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">平常点（出席点と実技点）</p>	

【授業科目名】 音楽Ⅱ（ギター）	【担当者】 小山 勝																
【開講期】 2年前期・2年後期																	
<p>【授業目標】</p> <p>独奏や合奏、あるいは歌の伴奏に、広く親しまれているギターの演奏の実際を理解し、基本的な演奏を身につけるまでの知識とテクニックを学ぶ。</p>																	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>「新ギター教本」 小原安正・著（ギタール社刊）</p>																	
授 業 計 画																	
<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;">● 基本事項</td> <td>ギターの基礎知識（歴史、奏法、楽器のタイプ、等）楽器の保持の方法、楽譜上の記号の理解。</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">● 調弦の実際</td> <td>基本的な調弦方法の理解と訓練。</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">● 発音の基礎</td> <td>右手のタッチ（アル・アイレとアポヤンド）の理解。左手の構え方と指使いの理解。体、腕、指のコントロールの会得。</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">● 音階練習</td> <td>第1ポジションでの全音階（ハ長調、イ短調）および半音階の練習。</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">● 和音とアルペジオ</td> <td>三～四声の和音パターン（4拍・8小節）とその分散型（アルペジオ）の練習。</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">● ソロ演奏の実習</td> <td>ローポジションによる小品（2～3曲）の演奏実習。</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">● 合奏の実習</td> <td>2～4パートまでのアンサンブルの実習。</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">● コードの理解</td> <td>簡単なコードの理論。基本的なコード記号の理解とコードネームからの演奏実習。スリー・コードによる簡単な歌の伴奏。</td> </tr> </table>		● 基本事項	ギターの基礎知識（歴史、奏法、楽器のタイプ、等）楽器の保持の方法、楽譜上の記号の理解。	● 調弦の実際	基本的な調弦方法の理解と訓練。	● 発音の基礎	右手のタッチ（アル・アイレとアポヤンド）の理解。左手の構え方と指使いの理解。体、腕、指のコントロールの会得。	● 音階練習	第1ポジションでの全音階（ハ長調、イ短調）および半音階の練習。	● 和音とアルペジオ	三～四声の和音パターン（4拍・8小節）とその分散型（アルペジオ）の練習。	● ソロ演奏の実習	ローポジションによる小品（2～3曲）の演奏実習。	● 合奏の実習	2～4パートまでのアンサンブルの実習。	● コードの理解	簡単なコードの理論。基本的なコード記号の理解とコードネームからの演奏実習。スリー・コードによる簡単な歌の伴奏。
● 基本事項	ギターの基礎知識（歴史、奏法、楽器のタイプ、等）楽器の保持の方法、楽譜上の記号の理解。																
● 調弦の実際	基本的な調弦方法の理解と訓練。																
● 発音の基礎	右手のタッチ（アル・アイレとアポヤンド）の理解。左手の構え方と指使いの理解。体、腕、指のコントロールの会得。																
● 音階練習	第1ポジションでの全音階（ハ長調、イ短調）および半音階の練習。																
● 和音とアルペジオ	三～四声の和音パターン（4拍・8小節）とその分散型（アルペジオ）の練習。																
● ソロ演奏の実習	ローポジションによる小品（2～3曲）の演奏実習。																
● 合奏の実習	2～4パートまでのアンサンブルの実習。																
● コードの理解	簡単なコードの理論。基本的なコード記号の理解とコードネームからの演奏実習。スリー・コードによる簡単な歌の伴奏。																
<p>【評価方法】</p> <p>実技の習得状態と平常点を併せて評価する。</p>																	

【授業科目名】 図画工作Ⅱ（版・木工）	【担当者】 花原 幹夫・飛山 裕幸
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>図画工作Ⅰで学んだ保育者としての造形表現の基礎技能の中から、特に「版・木工」を通して、それぞれの表現の知識と技能の専門性を高め、表現の広がりをめざすことを目標とします。  <b>演習を中心に楽しく授業をすすめていきます。</b></p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特に使用しません。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>特に使用しません。</p>	
<p><b>授 業 計 画</b></p>	
<p>以下のテーマについて授業を展開していきます。第1回目の授業時には、さらに具体的な授業プログラムと授業の進め方などについての説明をします。</p> <p>◆版</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 版の表現の意味・役割について</li> <li>2. 版を応用した表現とその種類について</li> <li>3. 版を応用した表現の実技演習（例：シルクスクリーン印刷を使って）</li> </ol> <p>◆木工</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 素材「木」について（素材に親しむことと、遊びについて）</li> <li>2. 木工の表現の意味・役割・種類について</li> <li>3. 木工を応用した表現とその種類について</li> <li>4. 木工を応用した表現の実技演習（例：枯れ枝等を使って）</li> </ol> <p>◆作品の展示（プレゼンテーション）について</p> <p>* 版と木工を応用して製作した作品を皆で協力して展示します。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>実技演習で製作した作品と、展示（プレゼンテーション）したものを評価します。</p>	



【授業科目】 体育 I	【担当者】 若松美恵子 有川いずみ
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育者として必要な身体運動に関する基本的な知識と技能を習得させ、自ら動ける身体を作り、体力の維持増強をはかる。また子どもの発達をふまえ、保育における運動遊びの援助・指導に関する基礎的な知識や技能の習得を目指し、実践的に学ばせる</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>石井美晴・菊地秀範 編「保育の中の運動あそび」萌文書林</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>1 身体運動に関する基本的な知識と技能</p> <p>(1) 運動の種類と体の動かし方</p> <p>(2) 身体の部位と体の動かし方</p> <p>(3) 基礎的ステップの種類と動き方</p> <p>(4) 体力の種類と高め方</p> <p>(5) 自ら動ける身体作り</p> <p>①運動の極限までのびのびとリズムカルに身体を動かすことができるようにする</p> <p>②自分で多様な動きを豊富に見つけ動けるようにする</p> <p>③動きの連続がなめらかで変化に富んだある感じをとらえた一連の動きを作れるようにする</p> <p>④表現したいものになりきって動き、身体で表現できるようにする</p> <p>2 保育と子どもの身体運動に関する基礎的知識</p> <p>(1) 体育の意味と保育</p> <p>(2) 子どもの体力の意味と発達</p> <p>(3) 子どもの運動能力の意味と発達</p> <p>3 保育実践における必要な知識や技能</p> <p>(1) 幼児期の心身の発達と運動遊び</p> <p>(2) 保育の中での運動遊びの基本と保育者の援助・指導のあり方</p> <p>(3) いろいろな運動遊びの基本と保育者の援助</p> <p>(4) 運動遊びの計画と指導の実践</p> <p>4 運動遊びにおける安全管理に関する知識</p> <p>(1) 幼児の健康・安全指導</p> <p>(2) 運動内容と安全管理</p> <p>(3) 運動遊具と安全管理</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>前期に実技試験を2回行い、学年末の筆記試験の成績と合わせて評価する 授業に出席し体を動かすことを重視する</p>	

【授業科目】 体育Ⅱ	【担当者】 榎本 至
【開講期】 2年 後期	
<p>【授業目標】 この授業では、自分の身体を使ったり、ボールや縄といったどこにでもある遊具を使ったりしながら、様々な運動遊びを紹介します。「できる・できない」といった評価基準を用いるのではなく、遊びを通じて様々な身体運動の可能性を開かせていくことを目的とします。さらには、遊びを通じて運動を創意工夫できる豊かな発想力も鍛えたいところです。従って、授業に積極的に参加できる意欲と健康を持った方の履修を歓迎します。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特にありません。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>特にありません。</p>	
授 業 計 画	
<p>第1講時    ガイダンス</p> <p>第2講時    身体を使った運動遊び（ペア）</p> <p>第3講時    身体を使った運動遊び（グループ①）</p> <p>第4講時    身体を使った運動遊び（グループ②）</p> <p>第5講時    ボールを使った運動遊び①</p> <p>第6講時    ボールを使った運動遊び②</p> <p>第7講時    なわを使った運動遊び①</p> <p>第8講時    なわを使った運動遊び②</p> <p>第9講時    なわを使った運動遊び③</p> <p>第10講時   様々な遊具を使った運動遊び①</p> <p>第11講時   様々な遊具を使った運動遊び②</p> <p>第12講時   まとめ</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>実技の授業であるため出席を極めて重視します。</p>	

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】 保育科専任教員
【開講時期】 2年 前期・後期	
【授業テーマ】 各ゼミ共通テーマ：人間尊重の理解と実践	
<p>【授業目標】</p> <p>今日、地域環境、異文化理解、地域紛争、男女の共同参画といった人類共通の課題や、都市化、少子・高齢化と福祉、心の崩壊、家庭の在り方、自然破壊など我が国社会全体に関わる課題が生じている。こうした状況の中で、これからを生きる子どもたちにとって、またこの子どもたちに係わる保育者の資質として、「人間尊重」の考え方が重要である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 人間尊重という視点から、教育・保育・福祉が直面している今日的課題について理解を深めるとともに、その解決に必要な能力を身につける。</li> <li>② 教育・保育・福祉の課題に係わる指導内容を適切に指導するために必要な実践的能力を高める。</li> </ol>	
<p>【授業形態】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 複数のグループに分かれて、担当する教員の専門性を生かしつつ、さまざまな観点から授業テーマに取り組む。</li> <li>② 授業は、少人数による演習形式でおこなう。</li> <li>③ 文献やVTRソフトの検討、調査、見学、観察、指導案や教材の作成、模擬指導の実施など、具体的な保育実践に即して演習する。</li> </ol>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>① ゼミナールⅠの学習成果をもとに、文献やVTRソフトの検討などにより、学習課題を明確にするとともに、教育・保育・福祉が直面している課題について理解を深める。</li> <li>② 教育・保育・福祉の課題に関わる事項について、調査や見学、観察などを実施して具体的に理解する。</li> <li>③ 人間尊重という視点から、教育・保育・福祉の課題について解決策を考える。</li> <li>④ これらの学習成果をもとに、人間尊重に係わる指導内容を適切に指導できるようにするために、指導案や教材の作成、模擬指導などをおこなう。</li> <li>⑤ さまざまな観点から取り組んできた「人間尊重の理解と実践」についての学習成果を各グループごとに発表し、演習の成果を共有する。</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>学習意欲、学習態度、レポートなど</p>	

【授業科目】ゼミナールⅡ	【担当者】秋山治子
【開講期】2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>① 音楽を知る、わかる、近づく、工夫する、楽しむ。</p> <p>② 色々な保育場面で対応できるような音楽表現力と指導力を各自が得る。</p> <p>③ 上記①②で培った力を生かして一人またはグループで小論文を書く。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>【参考書】</p> <p>ゼミの中で適宜、指定紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>① 大学の中にある色々な幼児向けの打楽器・シンセサイザー・旋律楽器に親しむ</p> <p>特にミュージック・ベルを中心にして、楽器を幼児の年齢発達に合わせて導入する方法についてゼミ全員で取り組む。</p> <p>そして、幼児の合奏の中に無理なく取り入れるにはどうしたらよいかについて、を共同の研究課題とする</p> <p>② 白梅祭でミュージック・ベルの演奏をする</p> <p>③ 子どもの音楽についての疑問点や問題点を出し合う</p> <p>④ オーケストラ曲の中に出てくる楽器や旋律やリズム形などを聴き、採譜する。それらを基礎に置いて幼児向けの器楽編曲について勉強する。</p> <p>⑤ ミュージック・ベルとハンドベルの違いを知るために、4月に青山学院大学で行われるハンドベルの関東大会を聴きに行く</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>1、ゼミ活動への参加状況（出席）</p> <p>2、レポート（2年次1回目の授業に提出する）</p>	

【授業科目】ゼミナールⅡ	【担当者】岡本富郎
【開講期】2年前期、後期	
ゼミナールテーマ 「いのちへのやさしさをどう子どもに育てるか」	
【テキスト】	
【参考書】	
授 業 計 画	
<p>幼稚園、保育園で「いのちへのやさしさをどう育てるかを探る」。</p> <p>実際の保育場面を観察して学ぶことを取り入れる。その前に先行研究の論文、本などを読み、話し合う。</p> <p>園の先生の話をも直接聞いて学ぶことも行う。</p> <p>全員で万全意識を持って、話し合っ進めることを重要視する。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点とゼミナールのまとめ</p>	

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】 加宮葵
【開講期】 2年前期・2年後期	
【授業目標】 コンサートでの演奏、ミュージカルの公演など、自分たちの声を生かした発表の場を一回でも多くもつこと。（実際に人の前で演奏する事により、自分の声の改善されていない部分を再認識し、より良い声へ向けて研究・努力すること）	
【テキスト・参考書】 :加古三枝子 「歌のうたい方」(参考書) : 歌曲・ミュージカル等 テキスト多数 * 研究室にすべて用意してあります。	
授 業 計 画	
<p>ゼミナールⅠで、基本姿勢、基礎発声等を学びやや声が出るようになったゼミナールⅡでは、一人一人の声質にあった歌曲等のやや専門的なレッスンに入ります。それと並行してミュージカルの具体的な練習に入っていきます</p> <p>専門的なレッスンの成果は、ゼミ員の自主的な催しとして、</p> <p style="padding-left: 40px;">クリスマスコンサートや新春コンサート等</p> <p>演奏の形で発表します。</p> <p>又 子どものミュージカルやディズニーパラダイスなどを研究し（時間が、ある場合のみ）幼稚園・保育園・児童館等で公演したりする事もあります。</p> <p>こまかい授業のすすめ方や、ミュージカルの選定（ゼミナールⅠで決定されている場合を除き）はゼミのメンバーの顔ぶれによって、話し合いのうえ決定します。</p>	
【評価方法】 平常点	

【授業科目】 ゼミナールⅡ	【担当者】 栗田廣美
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】 ゼミナールⅠで学んだことを基礎にして、次の目標に向かいたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育者に必要な「言語的イマジネーション能力」を身につける。</li> <li>2 保育者に必要な「フィクションの世界を作り、伝える能力」を身につける。</li> <li>3 日本近代に於ける、「子ども・教育・文化」の「あり方の変化・多様性」を学び、現在の「子ども・教育・文化」をめぐる状況を、より大きな視野の中に位置づけられる（相対化できる）発想を身につける。</li> </ol>	
<p>【テキスト】 ゼミの進展の中で、その都度、指示する（皆、安価な文庫本か新書）。 学期はじめは、とりあえず、予告通り『新美南吉童話集』（岩波文庫）・『人間失格』（新潮文庫他）から始める。</p>	
<p>【参考書】 ゼミの進展によって指示する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>上記の「授業目標」に向かって、具体的には、下記のような課題に挑みたい。 実習が忙しくなり、どこまで出来るかは「時間との競争」だが、 下記の諸事項（最大限の「望み」だが）のうち、可能な限り多くのことに挑んでみたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 小説・童話・映画等を深く味わい、そのイメージ世界を分析すること。       <ol style="list-style-type: none"> <li>① 童話の多読と作品分析。           <ol style="list-style-type: none"> <li>a 新美南吉、宮沢賢治、有島武郎等、日本近代の作品の分析を中心にすが、（それら日本近代の作品に大きな影響を与えた）</li> <li>b グリム、アンデルセン等、19世紀ヨーロッパの作品の分析や、諸君にも身近な</li> <li>c 現代の作品の分析も、可能な限り取り入れたい。（併せて）</li> <li>d 聴覚を媒介としてイメージ世界を作り出す「読み—音読」の訓練もしたい。</li> </ol> </li> <li>② いわゆる「大人の文学」の作品分析。 言語によるイメージとフィクションの世界を、より広い場の中で理解するために可能な限り多彩な作品を読み、分析していきたい。 —作品分析の方法は、「童話」も「大人の文学」も、基本的には共通なのだ。</li> <li>③ 映画・ドラマ等の分析。 もしも時間があれば、「言語によるイメージ—フィクション世界」だけでなく、映画・TVドラマ等、様々な「イメージ—フィクション世界」を分析したい。</li> </ol> </li> <li>2 イメージ・フィクションの世界について「語り合える」ようになること。       <ol style="list-style-type: none"> <li>① 自分が抱いた作品世界のイメージを、ゼミの場で語れるようになること。</li> <li>② 他の人の語るイメージ世界を理解できるようになること。</li> </ol> </li> <li>3 上記「授業目標」の3については、 ゼミナールⅠで学び始めた『日本人のしつけは衰退したか』を整理した上で、 時間的に可能ならば「教育する家族—新中間層」が登場した大正期を中心に学び、 そのことを通して、現在の「子ども」をめぐる状況が「永遠の固定状況」ではなく、 <u>歴史的に規定された「一つの現象」に過ぎぬことを実感できる</u>ようになって貰いたい。  —この実感こそが、大学で「保育」を学び研究する主体的基盤になるだろうし、 より深い人間認識・社会認識に支えられた保育者を支える素養になるだろう。</li> </ol>	
<p>【評価方法】 平常点。</p>	

【授業科目】 ゼミナールⅡ	【担当者】 小松 歩
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 乳幼児期の子どもの育ちを、具体的な実践場面の観察をとおして理解する。</li> <li>2 子どもの遊びを分析的にとらえる力を養う。</li> <li>3 調べること、考えること、わかることの楽しさを知る。</li> </ol>	
<p>【テキスト】</p> <p>授業のなかで適宜、紹介する。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>授業のなかで適宜、紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p style="text-align: center;">「遊び」をとおして子どもの育ちと援助について考えよう</p> <p>ゼミナールⅠで進めた「子どもにとっての遊びの意味」の学習を、具体的な遊び場面にテーマを絞ってさらに深めます。</p> <p>まず各自が興味をもつ分野についてレポートをし、基本的知識を整理しながら、その分野に関して、今の子どもの「育ち」の実状や、影響する諸問題などを明らかにします（新聞記事や文献の講読など）。</p> <p>また、幼稚園や保育所などで具体的な生活や遊びの様子を実際に観察し、実際の子どもたちの「育ち」について理解を深めます。</p> <p>そして、文献などで学んだことと比較しながら、現代の子どもが主人公として健やかに「育つ」ために必要なことは何か、私たちにできること（援助）は何かなど、一緒に考えてみましょう。</p> <p>研究テーマとしては次のようなものが考えられる。</p> <p>「遊びの“おもしろさ”の分析」：子どもは「遊び」をするなかでどんなことにおもしろさを感じているのか。そもそも「おもしろさ」とは何なのか、実際に遊んでみたり、観察をしたり、文献をまとめるなどして考えてみたい。</p> <p>「ごっこ遊びの分析」：幼児期の中心的な遊びである「ごっこ遊び」は、子どもの生活経験が反映している。実際に行われている「ごっこ遊び」のテーマや内容から、今の子どもの経験内容と、何が育っているのかを考える。</p> <p>どんなテーマにするかは、ゼミメンバーと相談して決定したい。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>ゼミ活動への参加姿勢と研究テーマへの取り組み</p>	



【授業科目】ゼミナールⅡ		【担当者】近藤正樹	
【開講期】2年 前期・後期			
<b>【授業目標】</b> 身近な自然事象について、認識を深めるための体験を大切にしながら、まだ知らなかったことや、疑問を解くために、個人単位で研究をすすめる。この学習を通して、研究の企画・実施・論文の書き方・発表（口頭発表およびポスター発表など）のしかたについて体験することになる。知らないことを知るためには“勉強”や“した調べ”という活動と“研究”という手段がある。後者についての体験を身につけてほしい。			
<b>【テキスト】</b> 飯田良治・民秋言編「課題研究・ゼミナールの手引」萌文書林刊 田中未来編著「保育研究の視点と方法」川島書店刊			
<b>【参考書】</b> 随時に紹介する			
授 業 計 画			
4月9日	研究テーマの検討	10月1日	研究のまとめ①
4月16日	(研究テーマと研究計画書の提出) 文献紹介①	10月8日	研究のまとめ②
4月23日	文献紹介②	10月15日	研究のまとめ③
4月30日	文献紹介③	10月22日	研究のまとめ④
5月7日	文献紹介④	10月29日	研究論文の提出
6月4日	研究状況報告①	11月12日	研究論文の指導
6月11日	研究状況報告②	11月19日	文献紹介⑨
6月18日	研究状況報告③	11月26日	文献紹介⑩
6月25日	研究状況報告④	12月3日	文献紹介⑪
7月2日	文献紹介⑤	12月10日	文献紹介⑫
7月9日	文献紹介⑥	12月17日	研究論文評
7月16日	文献紹介⑦	1月7日	口頭発表のしかた（研究要旨の提出）
7月22日	文献紹介⑧	1月14日	ゼミ内の口頭発表会①
9月24日	論文の書き方	1月21日	ゼミ内の口頭発表会②
<b>【評価方法】</b> 学習態度・研究計画と方法・論文・口頭（ポスター）発表などの成果を総合して行う			

【授業科目】 ゼミナールⅡ	【担当者】 佐々加代子
【開講期】 2 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>教員と少人数のメンバーとともに、さまざまな活動をとって、“創造”すること、“表現”することをねらいとする。考えられる人、行動できる人、創造できる人、をめざすことにある。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>佐々加代子、コミュニケーション能力弱者のQOL援助、犀書房</p>	
<p>【参考書】</p> <p>随時提供する</p>	
授 業 計 画	
<p>保育者はさまざまな子どもたちと、さまざまな人たちとさまざまな状況で出会う。そのような状況にあっても、その時、その場で瞬時に判断して対応することが求められる。保育者であろうとすることは、同様に、ひとりの人間としての自分自身をみることになる。どのような人間関係を切り結んでいるのか。その内容は……。さまざまな人間関係の場面を、コミュニケーション場面としておさえ、その時々、発信者としての自分、受信者としての自分の内容を見つめるということをする。また、子どもと親、子どもたち同志、などのさまざまな人間関係のなかでの関係のみかた、その上での関係の展開法・かかわりかたなどについて考えられる人をめざしていく。</p> <p>そのために以下の活動をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳幼児の観察（新生児からを含む）</li> <li>2. 障害児の観察</li> <li>3. 幼稚園児の幼稚園における遊びの観察</li> <li>4. 1～3の場面でのかかわり、ともに活動することをとって、発達についての目を養成</li> <li>5. さまざまな場面の設定による、さまざまなかかわりの工夫の検討</li> <li>6. 教材の活用とその習熟（絵本、紙芝居、素話、パネルシアター、人形など）</li> <li>7. 発信者としての技量のひとつとしての、音声、朗読などの養成</li> <li>8. 発信者としての技量のひとつとしての、“想像から創造”の表現法の工夫</li> </ol> <p>いずれも、保育者としての質につながるものとしておさえている。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点で行う</p>	

【授業科目名】      ゼミナール II	【担当者】      佐野 英司
【開講期】              2年 前期 ・ 後期	
<p data-bbox="180 369 352 414">【授業目標】</p> <p data-bbox="337 425 1270 470">ゼミ基本テーマ   ：   「ノーマライゼーションの追求」</p> <p data-bbox="258 526 1379 660">1年生ゼミで学び考えた成果をもとに、2年次ゼミでどこに焦点をあててゼミ研究を進めるか、ゼミ学生と話し合い、決めていくことを当ゼミでは基本としている。</p> <p data-bbox="274 672 556 705">【2002年度の場合】</p> <p data-bbox="290 716 1403 907">これまで6期にわたる佐野ゼミ学生の研究到達点、とりわけ一昨年度学生が手がけた「子育て調査」、昨年度学生が研究した「障害児・者とともに暮らす地域を求めて・・・乳幼児健診とその後の対応をめぐって・・・」を学び、継承していく。</p> <p data-bbox="290 907 1387 996">2002年度は、子どもに焦点をあてて、ノーマライゼーションの追求の観点から研究する。</p> <p data-bbox="329 1008 470 1041">その場合</p> <ul data-bbox="360 1052 1372 1388" style="list-style-type: none"> <li>○ 保育制度の改変について子どもや親の立場から検証する。</li> <li>○ 親や家族とともに暮らすことのできない子どもの問題についても学び考える。</li> <li>○ 貧困問題と子どもの暮らしについてもとりあげる。</li> <li>○ 障害児の発達保障についても引き続き学ぶ。</li> <li>○ 親の育児・子育て上の願についても学ぶ</li> <li>○ ゼミ学生が居住している自治体に対し目を向けて検証する。</li> </ul>	
【テキスト・参考書】   ゼミ開講時およびゼミ開講中に必要に応じて示す。	
<p data-bbox="180 1534 352 1579">【授業計画】</p> <p data-bbox="258 1579 1372 1769">1年次ゼミは担当教員がリードし、基礎的な学習を、実体験を含め幅広く展開してきた。それを基礎に、2年次では学生が主体で研究活動を進める。16名のゼミ学生の力を結集して自ら立てた研究課題を追求していけるよう、教員はアドバイザーとして学生の力を引き出し援助していく。</p>	
<p data-bbox="180 1825 352 1870">【評価方法】</p> <p data-bbox="258 1870 1372 1960">ゼミへの出席状況、研究テーマへの積極度、共同研究、共同行動への関わり度により評価する。</p>	

【授業科目】ゼミナールⅡ	【担当者】瀧口 優
【開講期】 2 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1年のゼミを基礎に、平和・非暴力の文化についての研究をすすめる。</li> <li>2. 子どもを取り巻く暴力的な文化について、実践的に検討する。</li> <li>3. 望ましい子ども観とは何かを具体的な作品を読みながら考える。</li> <li>4. 新しいメディアについてその内容を検討する。</li> </ol>	
<p>【テキスト】</p> <p style="text-align: center;">「脱暴力宣言」平和文化</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p style="text-align: center;">「軍隊のない国コスタリカ」草の根出版会</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの周りのおもちゃを非暴力・想像力・創造力の観点から分析、分類する。</li> <li>2. 子どもが視聴するテレビの番組について非暴力の観点から分析する。</li> <li>3. 様々な絵本を非暴力の観点から分類し、どの年齢にふさわしいか検討する。</li> <li>4. コンピューターによるテレビゲームの問題点について検討する。</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>ふだんの学習状況などの平常点（出欠、予習、質問、意見発表など）とレポートで行う。</p>	

【授業科目】 ゼミナールⅡ	【担当者】 民秋 言
【開講期】 2 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育のなかの年中行事 私たちの生活には、さまざまな年中行事があります。それは、さかんに行うものもありますが、あまりさかんでないものもあります。社会全体からみるとさかんに行われているものもありますが、自分にとってはあまり意味のないものもあります。日本に伝統的なものもありますが、わりに近いときに外国から入ってきたものもあります。いずれにしても、私たちの生活の節目の役割をもっています。</p> <p>こうした年中行事は保育のなかにもみられ、そして保育の節目の役割を果たしています。本ゼミナールでは、この年中行事を4月から順次取りあげ、その意味を考え、保育カリキュラムを組み立てる勉強をします。</p>	
<p>【テキスト】 萌文書林『子どもに伝えたい年中行事・記念日』萌文書林編 萌文書林『幼稚園・保育所での研究の進め方と実例』民秋言編著</p>	
授 業 計 画	
<p>(1)年中行事は私たちの生活のなかで、どのような位置を占めているかを考える。 1年間12か月あるいは春・夏・秋・冬の四季ごとにさまざまな年中行事がみられる。私たちの生活は、従来は、この年中行事によってリズムが保たれていた。今日の生活では、どのような位置を占め、役割を果たしているのか考える。</p> <p>(2)年中行事にはさまざまなものがあることを理解する。 年中行事に、ともすれば歴史的に古いものと思われがちである。しかし、その内容を検討するとさまざまなものがあることに気付く。宗教に関するもの、ヨーロッパからの伝来のもの、政治的ないみをもつもの、実生活に直ちにつながるものなど、いろいろなポイントから整理する。</p> <p>(3)今日の生活で、直に影響をうけている年中行事をまとめる。 上記(2)のなかで、いまの生活の中で直接影響をうけている年中行事をとりあげ、その意味をしっかりとめてみる。</p> <p>(4)保育の中に導入すべき年中行事のいみを検討する。 いまの保育には多くのそしてさまざまな年中行事が組み込まれている。それぞれにはどのようないみがあるのか、その検討をしっかりとしたうえで、保育の中に導入すべきものはどれか、を考えてみる。</p> <p>(5)保育カリキュラムの中に位置づく年中行事のあり方を考える。 保育の中の年中行事は、そのカリキュラムとの関連で、捉えてみる必要がある。カリキュラムの流れの中に無理なく組み込まれていることが大切だからである。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">平常授業の成績による</p>	

【授業科目】 ゼミナールⅡ	【担当者】 中山正雄
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>子ども虐待への防止に関する社会的な認識度を調査し、子ども虐待のない子育てについて及びそこで果たす保育者の役割を追求する。全員でこの調査にあたり学習する中で子育て支援の方法等の理解を深めること。また、施設での合宿を通して虐待を受けた子どもへの対応の実際を学びます。</p>	
【テキスト】 1年次の「子ども虐待の防止力を育てる」を引き続き使用	
----- 【参考書】 必要に応じて紹介する	
授 業 計 画	
<p>1. 調査の目的、内容、調査対象、方法の検討</p> <p>2. 施設合宿に向けての獲得目標の検討</p> <p>3. 施設合宿に向けての紙芝居作り</p> <p>4. 調査の実施と集計・結果の検討</p> <p>夏休みのゼミ合宿に向けて、4～7月は1～3をグループごとに論議して進める。 夏以後は、調査の実施と集計を行なう。結果についてグループごとに検討してまとめる。</p> <p>ゼミとしては、集団で協力し合い進めていくことを第一として仲間作りも大切にしてすすめる。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況と積極的な参加姿勢</p>	

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】 花原 幹夫
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>大きくは『子どもの造形と遊び』について、協同で学びます。共通の具体的なテーマと目的にそって、各自が主体的に問題意識をもち、協同しながら実践的に学んでいきます。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特に使用しません。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>特に使用しません。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>◆特に「保育とデザイン」というアプローチで活動をすすめていき、「モノのデザイン」（造形におけるデザイン）と、「コトのデザイン」（計画デザイン）を考え、さらに、「子どものデザイン活動」をどうとらえていくかを、保育現場などで実践的な方法論を用いながらすすめていきます。</p> <p>◆具体的なテーマ・目的・方法などについては、こちらの提案とゼミナールメンバーの話し合いの上、調整して、初期の段階で決定していきます。</p> <p>◆活動の運営については、ゼミナールメンバー各自が主体的に役割を分担し合い、自分たちの立てた計画スケジュールと、こちらのスケジュールとを調整しながら行なっていきます。</p> <p>★<u>ゼミメンバー相互で常に連絡連携をとり合いながら、互いの動きを把握しながら、全体の動きや流れを把握して活動することを特にだいじにしていきます！！</u></p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点（各自が主体的に動いていく活動のプロセスを評価します。）</p>	

【授業科目】 ゼミナールⅡ	【担当者】 村田 務
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育活動における健康問題について理解を深めるとともに、それらの健康問題を解決するための効果的な方法について、文献研究や質問紙調査等を通して習得させる。</li> <li>2 子どもの健康を守り育てるために必要な保健指導の方法について理解するとともに、健康保育の問題について研究するための方法を身につけさせる。</li> </ol>	
【テキスト】	
<p>【参考書】</p> <p>小児保健研究、学校保健研究、健康教室、保健の科学、からだの科学等      米山公啓：「健康」という病、集英社、2000年、等</p>	
授 業 計 画	
<p>「今日、子どもや保育者には、どのような健康問題があるのか」、「それらの問題を解決するためには、どうすればよいのか」について、より具体的実践的に学ぶ。</p> <p>まず、①関心ある健康問題についてレポートしたり意見を出し合いながら、子どもや保育者の健康問題について概括する。次に、②これらの健康問題の原因について明らかにしたり、解決するための方法について研究論文を検討しながら理解する。そして、③文献講読で不明であったことや疑問に思ったことについて、質問紙調査や実験等を実施して体験的に明らかにする。最後に、④一連の学習や研究の成果をもとに、テーマとした健康問題の解決策や対処法について考察するとともに、子どもへの指導法について検討して教材を作成して模擬指導をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、今日の健康問題を理解する 個人レポートの発表</li> <li>2、健康学研究の方法を知る 研究論文の講読と検討</li> <li>3、ゼミ研究の共通テーマを決める 〔過去のゼミテーマ〕 <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児のアトピー性皮膚炎</li> <li>・保育者のエイズへの意識と対応</li> <li>・保育者のストレス状態とその背景</li> <li>・学生の月経痛の状況とその対処法</li> <li>・肥満とダイエット</li> <li>・ダイオキシンと母乳</li> <li>・足の健康問題と健康的な足づくり</li> <li>・ADHD児への保育的対応</li> </ul> </li> <li>4、研究テーマに関する事項について文献講読する</li> <li>5、文献研究で分からなかった事項について、質問紙調査や実験等を実施する</li> <li>6、健康問題を解決するとともに、教材をつくり模擬指導を体験する。</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>研究レポートの成果、集団検討へ積極的な参加、それらへの意欲と努力</p>	



【授業科目】 ゼミナールⅡ	【担当者】 師岡章
【開講期】 2年前期・後期	
<b>【授業目標】</b> 1. 子どもの遊びを重視する保育実践の在り方を考える。 2. 確かな保育実践を展開する上で必要な専門的力量について考察する。 3. 問うこと、調べること、わかること、の楽しさを味わう。	
【テキスト】	
<b>【参考書】</b> 授業時に適宜、紹介する。	
授 業 計 画	
<p style="text-align: center;">〔子どもの遊びを重視する保育実践の在り方を考える〕</p> <p>保育において遊びを重視することは自明のことである。しかし、実際にはそれがスローガンに終わり、真に遊びを中心とした保育実践が展開されているとは言い難い状況がある。未来の保育者にはこうした現状を改善していく視点と力量を身につけていくことが求められている。</p> <p>そこでゼミナールⅡでは、以下に上げる内容を通して、子どもの遊びを重視した保育実践の在り方について考察したい。</p> <p>① 保育実践をめぐる現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の子どもの育ちと課題を探る</li> <li>・幼稚園教育要領及び保育所保育指針の改訂内容を考える</li> <li>・多様化する保育実践の問題点を探る</li> </ul> <p>②子どもの遊びを重視した保育実践の在り方を考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミナールⅠでの学びを基に、各自が関心を持つ研究テーマを出し合う。</li> <li>・討論を通して、テーマを絞り、自主的に調べた内容をまとめていく。</li> </ul>	
<b>【評価方法】</b> ゼミ活動への参加姿勢と研究テーマへの取り組み	

[授業科目名] ゼミナールⅡ	[担当者] 八木 紘一郎
[開講期] 2年 前期・後期	
[授業目標] 子どもの発想と表現を豊かに育むための効果的援助方法を「造形人形劇活動」を通して身に付ける	
[テキスト・参考書] 未定	
授 業 計 画	
<p>保育のための「造形人形劇研究」</p> <p>具体的な方法手段として、「造形人形劇活動」を「できるかな」的な工作人形劇活動として展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)身近な素材を加工していくプロセスそのものを劇にする＝たとえば、「小人のぼうけん」のような紙一枚で行う人形劇を通して、なぜかを考察していく。</li> <li>2)音楽・リズム・動きを総合的に扱う。</li> <li>3)絵本や昔話を創造的想像をめぐらしてアレンジする。 その際には、原作に関する分析考察を行いながら、上演意図について絞り込んでいく。 たとえば、「ももたろう」の背景について、なぜ3匹の動物が登場するのか？なぜ他の強そうな動物を連れて行かなかったか？サルや雉たちがきび団子で命をかけて「ももたろう」に加勢するのはなぜか？持ち帰った宝物はどうしたか？ももたろうは、その後どうしただろうか？などを考察しながら、この原作が意図しているメッセージは何か？などを分析し、自分たちはどう考えるか。どういうふうにかきたいか。出かけていく季節は？もし夏だったら、もし秋だったら、冬だったら、モモは一つしか流れて来なかったのか？もしかしたら沢山流れてきたかもしれないなど創造的想像をめぐらす。そうしたなかから、子どもたちに何をさせ、何を考えさせ、何を伝えたいのかを検討しあい、表現として創作していく。</li> <li>4)上演活動に関する記録 後できちんと分析考察するために記録及びデータをとっていく。(映像・アンケートなど)</li> <li>5)上演の意味・意義に関する考察 上演した人形劇を通して、見る子どもたちや、保育にどう役立つのかなどについて保育現場と連携して考察して、保育に役立つように検討していく。</li> <li>6)企画準備から運営・上演・まとめまでの一連の活動を通して、「創造的想像」を実現させる組織的活動の運営調整方法を学ぶ。保育現場における多様かつ複雑な保育環境状況のなかで、個性を生かしあう場としてアート活動のコーディネート必要性と具体的な対策技術を習得できるようにしていく。</li> </ol>	
[評価方法] 平常点	

<b>【授業科目】</b> ゼミナールⅡ	<b>【担当者】</b> 吉川 研二
<b>【開講期】</b> 2年 前期・後期	
<b>【授業目標】</b>  自然界には模範回答のない問題がたくさんある。自然の事物や現象に関心を持ち、自然の意外性や美しさに触れ、発見する楽しさを知り、自らの考えを論理的に展開する姿勢を養う。今年度のテーマは“水辺の自然誌”	
<b>【テキスト】</b> 「自然観察入門」中公新書 ほか	
<b>【参考書】</b> 日本の川遊び、川とつきあう、水辺の生態学 ほか	
授 業 計 画	
<p>“春の小川はさらさら行くよ 岸の蘆や蓮華の花も…”</p> <p>“めだかの学校は川の中 ちょっとのぞいてみてごらん…”</p> <p>“春になればわらしこ泳ぎ 鱧っこだの鮒っこだの…”</p> <p>“螢の宿は川端やなぎ やなぎ朧に夕闇よせて 川のめだかが…”</p> <p>自然に対する知識や、私たちの生が深く自然に根ざしている感じを子どもたちに伝えるためには、まず大人が自然を見直してみる必要があるだろう。もう一度、野や山を歩いて、自然の美しさ、すばらしさ、楽しさを再発見し、日本の自然、日本の風土に新鮮な眼をひらく必要があるだろう。</p> <p style="text-align: right;">（日浦 勇『自然観察入門』）</p>	
<b>【評価方法】</b> 平常点＋レポートなど	

【授業科目】 ゼミナールⅡ	【担当者】 若松美恵子
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 幼児の身体表現やリズムカルな身体活動について、文献の精読、レポートし報告、討論、研究方法の習得により理解を深め、グループ研究を行う</li> <li>2 動きの追求を行ない、表現力豊かに動け、子どもと共に動くことを楽しめる保育者になることを目指す</li> <li>3 集団学習や共同作業を通して企画力、創造力、実行力を養う</li> </ol>	
<p>【テキスト】</p> <p>若松美恵子 「動きのリズム指導の現状と問題点」 舞踊学第2号 舞踊学会  若松美恵子 「保育の中の運動あそび」 萌文書林</p>	
<p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>前期は1年で学んだ、手あそび、フォークダンス、リトミック、体操、身体表現に関する基礎知識の上に、学生自身の興味、関心、疑問から研究テーマを見出し研究を進めると共に学生自身が自信をもって動け、楽しんで身体で表現できるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 先行研究の精読</li> <li>② 研究テーマ、方法の決定および研究の推進</li> <li>③ 学生自身の選んだテーマで身体表現活動</li> <li>④ 手あそび、フォークダンス、リトミック、体操、身体表現の模擬指導</li> </ol> <p>後期は身体表現活動と研究活動をそれぞれ発表会へと推進する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 身体表現（ダンス）を文化祭で発表する</li> <li>② 幼児の身体表現やリズムカルな身体活動に関する研究を進め、ゼミナール研究発表会で発表する</li> </ol> <p>過去の主な研究テーマ</p> <p>3歳児、4歳児、5歳児の身体表現の指導のあり方  幼児の身体表現、リズムカルな動き、フォークダンス、体操の指導法について</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>ゼミナールの全ての活動を通して評価する</p>	

【授業科目】 幼稚園実習	【担当者】 小松 歩 ・ 師岡 章
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>1年次の「見学・観察実習」をふまえて、2年次は、3週間にわたる実習で、幼稚園教育に参加する。今回は、実際に指導計画案を立てて、指導の実際を体験する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>「実習ガイドブック」・「幼稚園実習日誌」必携</p>	
<p>【参考書】</p> <p>「幼稚園・保育所実習の指導計画案はこうして立てよう」 萌文書林 阿部明子・岡本富郎 ほか 著</p>	
授 業 計 画	
<p>2年次の実習は、「参加・指導実習」という段階の実習である。 この実習で、幼稚園教育に参加し、自分で1日ないし2日の仮の担任になって指導実習を体験する。</p> <p>【2年次】 参加・指導実習のテーマ</p> <p>1 週目 ・ 保育計画の流れと関係させて指導を理解する。 ・ 子どもの遊び場を主に観察する。</p> <p>2 週目 ・ 指導に部分参加（指導計画案の作成） ・ 子どもの遊びや活動を、発達・生活・保育内容との関わりで理解する。</p> <p>3 週目 ・ 子どもと園生活全体を見通す総合的理解と全日指導</p> <p>今回はとくに、「指導計画」を立案することが求められるので、そのためのオリエンテーションを特別に設ける。 2年次のオリエンテーションは、およそ次のような項目にそって実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 参加・指導実習とは（全般的説明）</li> <li>② 遊びへの関わり方</li> <li>③ 実技（絵本・童話・手遊び）</li> <li>④ 指導計画の立て方</li> <li>⑤ 教材研究（指導実習に向けてのアイデア）</li> </ol>	
<p>【評価方法】 ① 学内オリエンテーションへの出席／受講状況 ② 実習日誌 ③ 実習中の出欠席 ④ 学内反省会</p> <p style="text-align: right;">などを総合して評価する。</p>	

【授業科目】 実習指導（保育所実習Ⅱ） 【担当者】 佐野英司、秋山治子、船津秋子

【開講期】 2年前期・後期

【授業目標】

保育所実習Ⅰで掲げた授業目標を踏まえ、これまで学んできた保育科での教科全体の知識・技能を基礎として、これらを総合的に実践する応用力を養う。

そのために1年次に自ら掲げた実習の「目的・意義・テーマ」、「実習を終えた後のまとめ」等を再度確認し、実習Ⅱの「目的・意義・テーマ」を立てる。また、保育所における子どもの生活と活動、指導計画、指導法、指導案の立て方を学ぶ。また、可能な範囲で部分実習、指導実習に参加し、実践的経験を積む。

【テキスト】

『実習ガイドブック』および『実習日誌』は必ず持参する。

【授業の進め方】

保育所実習Ⅰを深め保育士資格を得て専門的保育士として機能できるよう一層の知識・技術の習得とともに倫理観の確立を図る。

(実習前)

I. 「保育所実習Ⅱ」の進め方と実習日誌の書き方（講義）

- (1) いま、求められる保育所の役割
- (2) 「保育所実習Ⅱ」の目標と内容
- (3) 実習への心構えと諸注意、特に個人のプライバシー保護と守秘義務、子どもの最善の利益、人権の尊重についての理解
- (4) 実習日誌の書き方

実習日誌を書く目的、意味、 日誌を書く上での諸注意 記録のポイント

II. 子どもの発達と活動について学ぶ（講義）

- (1) 子どもの発達と観察
- (2) 子どもになじみ、その遊び、生活について学ぶ
- (3) 子どもへの関わりについて学ぶ

III. 保育所における子どものあそびと指導計画、指導案、指導法

- (1) 3歳未満児の生活・遊び・指導計画
- (2) 3歳以上児の生活・遊び・指導計画

IV. 保育における子どもの生活と保育（講義）

- (1) 保育所における子どもの姿
- (2) 保育所における保育の特徴と日課
- (3) 保育所の職務内容と保育所の役割
- (4) 実習生に望むこと

(実習後)

V. 実習日誌の提出・点検・指導

【評価方法】

平常点（実習オリエンテーションの出席状況、出席態度を含む）で評価する

【授業科目】 実習指導（施設実習Ⅰ・Ⅱ）	【担当者】 中山正雄・堀江まゆみ・船津秋子
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>児童福祉施設（保育所を除く）での実習は、保育士資格取得のための必修科目である。心身に困難や障害を持つ子ども達の生活に触れ、そこで働く保育士の姿や保育内容、技術などをつぶさに見、体験することで保育士としての職務を理解させる。実習での体験や疑問を持ち帰り、子ども達に関わることの意義を深める。実習を積極的にまた学びの多いものにするために、実習指導を行なう。</p>	
【テキスト】 大島恭二他（編）新保育講座『保育実習』ミネルヴァ書房 2002年	
----- 【参考書】 実習先の業種に応じた参考文献を5月に指定する	
授 業 計 画	
<p>1. 総合オリエンテーション</p> <p>(1) 児童福祉施設全般についての理解を深める</p> <p>(2) 実習の目的・獲得目標・実習への姿勢を確認する</p> <p>(3) 各配属先の施設に関する基本的な目的と内容を理解する</p> <p>2. 制度オリエンテーション</p> <p>障害系施設と養護系施設に大別し、法律、制度の現状について理解する 児童福祉法、児童福祉施設最低基準など</p> <p>3. 援助内容オリエンテーション</p> <p>障害系施設と養護系施設に大別し、施設における生活の流れ、職員の関わり方、子どもの理解について学ぶ</p> <p>4. 現場講師によるオリエンテーション</p> <p>知的障害、身体障害、重症心身障害、養護施設に大別し、現場職員を招いて施設での実際について学ぶ</p> <p>5. 現場実習と訪問指導</p> <p>実習期間に実習先職員による指導と、教員の訪問による指導を行い、実習をより効果的に進める</p> <p>6. 反省会</p> <p>実習後に各ゼミナールごとに反省会を行い、実習で得たこと反省することを深める</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>1～6の全ての出席、課題の提出、日誌の記載、実習の態度等を総合して判断する</p>	

【授業科目】 保育所実習Ⅱ	【担当者】 佐野英司、秋山治子、船津秋子
【開講期】 2年次 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育所実習Ⅰを土台に以下の事項を目標に進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所の保育に実際に参加し、実践してみるなかで、保育士として必要な資質・能力・技術を習得し、向上を図る。</li> <li>2. 保育所の役割、保育における生活、子ども、保育士の関わりや職務内容についてより深く学ぶ。</li> <li>3. 家庭と地域の生活実態について目を向け、保育所に求められている役割と実習施設での取組について学ぶ。</li> <li>4. 保育士としての役割、職業倫理等をより深く学ぶ。</li> </ol>	
<p>【テキスト】</p> <p>『実習ガイドブック』および『実習日誌』は必ず持参する。</p>	
<p>【授業の進め方】</p> <p>学内での実習関連教科目および「実習指導」を受講後、今年度は、9月9日（月）から20日（金）の10日間で保育所実習Ⅱが行われる。実習施設の事情によって違いはあるものの、可能な範囲で保育実践に参加し、指導計画に沿って実践するなかで保育所の生活や保育の実際、乳幼児に対する理解を深め、実践に必要な知識・技能を高めるとともに保育所の機能、保育士の職務について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 可能な限り保育全般に参加させてもらい、実践的経験を積む</li> <li>(2) 子どもの理解を深め、個人差を考慮した対応方法を習得する。</li> <li>(3) 指導計画を立案し、実践するなかで実践的力量的向上を図る。</li> <li>(4) 地域社会や家庭での子育て実態について学ぶ。</li> <li>(5) 子どもの最善の利益がどのように考慮されているかを理解する。</li> <li>(6) 保育士の専門性や倫理観を学ぶ。</li> <li>(7) 安全および疾病予防への配慮について学ぶ</li> <li>(8) 保育所の保育士に求められる資質・能力技術に照らし、自己の課題を深める。</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>実習オリエンテーション(実習指導)への出席および受講状況、実習日誌の記録実習中の出欠席・学内反省会の状況などを総合して評価する</p>	



【授業科目】 施設実習 I	【担当者】 中山正雄 堀江まゆみ 船津秋子
【開講期】 2年 後期	
<b>【授業目標】</b> 1. 児童福祉施設の内容・機能・保育士としての職務のあり方などを実践の場で観察・体験を通して理解させる。 2. 授業で学んだ知識・技能・理論を実践の場で総合的に体験することにより、応用力・行動力を養う。 3. 保育士としての職務内容、子どもの生活の保障における保育士の役割、保育士として働くことの意義を実体験させる。 4. 親元を離れ児童福祉施設で生活する子どもの現状から、その最善の利益の具体化について学ばせる。	
<b>【テキスト】</b> 大島恭二他（編）新・保育講座『保育実習』ミネルヴァ書房	
<b>【参考書】</b> 授業の中で紹介する	
<b>授 業 計 画</b>	
1. 実習施設について理解させる。 2. 一日の生活の流れを理解し、参加することにより日々の生活の意味を理解させる。 3. 子どもの観察や直接の関わり、職員の対応や助言などを通して子どものニーズを理解させる 4. 施設の運営・援助計画などの実際を理解させる。 5. 生活や援助の一部分を担当し、養護技術・援助方法を習得させる。 6. 職員間の役割分担やチームワークについて理解させると共に職員としての資質について学ばせる。 7. 子どもの最善の利益についての配慮、子どもの権利への配慮について理解させる。 8. 記録や職員からの助言、観察などを通して家庭・地域社会との関係調整の役割を理解させる。 9. 施設で生活する子どもの理解を深め、親と子の関係を学ばせる。 10. 24時間の生活で丸ごと子どもを養護していくための安全や衛生等の配慮について理解させる。  実習は10月末から11月はじめを予定、実習先の関係で時期をずれて行うこともある。参考文献は学内オリで提示する。各実習施設に応じて適切な文献を読み感想文の提出が必要である。	
<b>【評価方法】</b>  学内オリへの出席、日誌の記載、実習態度、実習先評価、反省会などを総合	

【授業科目】 施設実習Ⅱ	【担当者】 中山正雄 堀江まゆみ 船津秋子
【開講期】 2年 前期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童福祉施設の内容・機能・保育士としての職務のあり方などを実践の場で観察・実際の参加体験を通して理解させる。</li> <li>5. 授業で学んだ知識・技能・理論を実践の場で総合的に体験することにより、資質・応用力・行動力を養う。</li> <li>6. 保育士としての職務内容、子どもの生活の保障における保育士の役割、保育士として働くことの意義を理解させる。</li> <li>7. 親元を離れ児童福祉施設で生活する子どもの現状から、その最善の利益を具体化する援助の方法と能力について学ばせる。</li> </ol>	
<p>【テキスト】</p> <p>大島恭二他（編）新・保育講座『保育実習』ミネルヴァ書房</p>	
<p>【参考書】</p> <p>授業の中で紹介する</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習施設について理解し養護業務に参加することにより養護の方法・技術を習得させる。</li> <li>2. 一人一人の子どもに応じた援助のあり方を理解し、幅広い子どもへの理解と援助技術を学ばせる。</li> <li>3. 子どもの観察や直接の関わり、職員の対応や助言などを通して子どものニーズを理解し、その対応について学ばせる。</li> <li>4. 施設の運営・援助計画などの実際を理解し援助計画の立案及び実践を通して学ばせる。</li> <li>5. 職員間の役割分担やチームワークについて理解させると共に職員としての資質について学ばせる。</li> <li>6. 子どもの最善の利益についての配慮、子どもの権利への配慮について理解させ、その実現についての施設の努力内容を理解させる。</li> <li>7. 記録や職員からの助言、観察などを通して家庭・地域社会との関係調整の役割を理解し、部分的な参加を通してその方法を習得させる。</li> <li>8. 施設で生活する子どもの理解を深め、親と子の関係を学ぶと共に、家庭再建への援助について学ばせる。</li> <li>9. 24時間の生活で丸ごと子どもを養護していくための安全や衛生等の配慮について理解し、保育士に求められる資質・能力・技術及び倫理を具体的に学ばせる。</li> <li>10. 施設から地域の福祉に貢献する保育士としての姿勢と課題を学び明らかにさせる。</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>学内オリへの出席、日誌の記載、実習態度、実習先評価、反省会などを総合</p>	



学籍番号・

氏名・

---

〒187-8570 東京都小平市小川町1-830

教務課 042(346)5619